

益城町
男女共同参画に関するアンケート調査
調査結果報告書

平成 31 年 3 月

益 城 町

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果	2
1	回答者属性	2
2	男女共同参画に関する意識について	5
3	家庭生活の役割分担について	30
4	働き方や社会参画について	46
5	仕事と家庭・地域生活の両立について	60
6	女性の社会参画について	69
7	配偶者等からの暴力について	76
8	セクハラについて	81
9	男女共同参画の推進について	84
10	防災・復興について	89

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、第3次益城町男女共同参画計画の策定にあたり、町民の男女共同参画に関する意識や問題点、考え方などを把握し、今後の施策に反映させることを目的として実施したものです。

2 調査対象

益城町在住の18歳以上を無作為抽出

3 調査期間

平成30年7月31日から平成30年8月31日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
1,500通	542通	36.1%

6 調査結果の表示方法

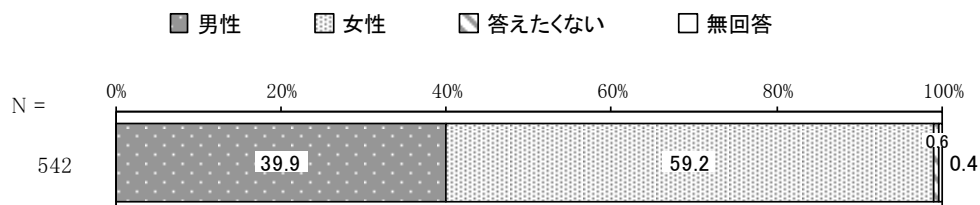
- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）

II 調査結果

1 回答者属性

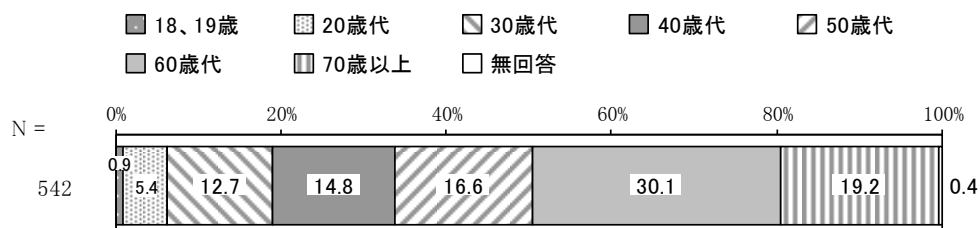
F 1 あなたの性別を教えてください。(〇は1つ)

「女性」の割合が59.2%と最も高く、次いで「男性」の割合が39.9%となっています。



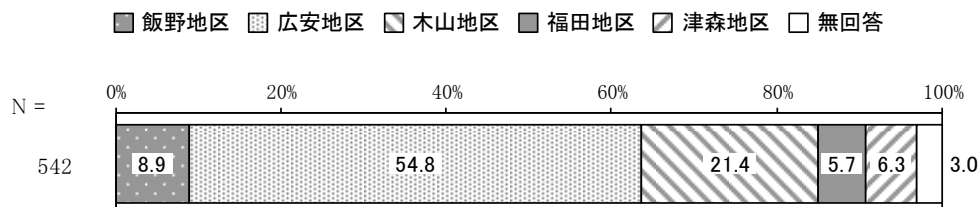
F 2 あなたの年齢を教えてください。(〇は1つ)

「60歳代」の割合が30.1%と最も高く、次いで「70歳以上」の割合が19.2%、「50歳代」の割合が16.6%となっています。



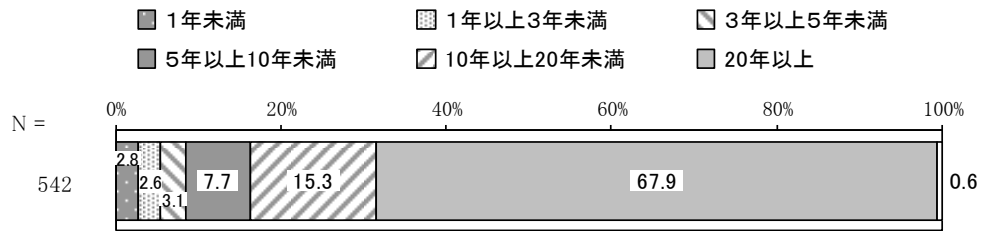
F 3 あなたの居住地区を教えてください。(〇は1つ)

「広安地区」の割合が54.8%と最も高く、次いで「木山地区」の割合が21.4%となっています。



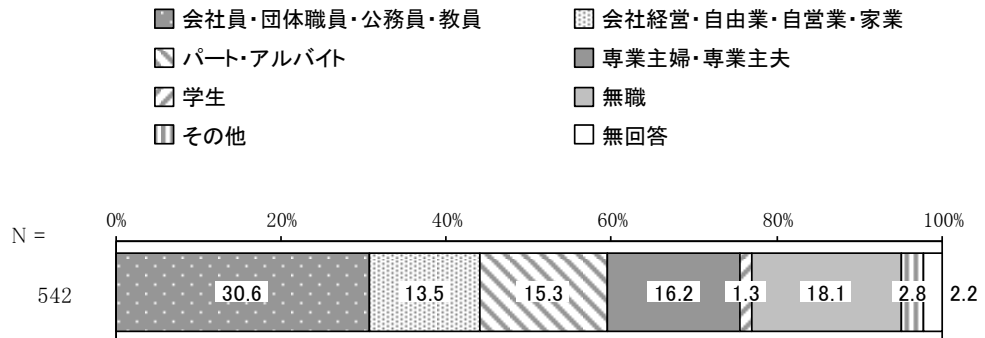
F 4 益城町にお住まいになって何年になりますか。(〇は1つ)

「20年以上」の割合が67.9%と最も高く、次いで「10年以上20年未満」の割合が15.3%となっています。



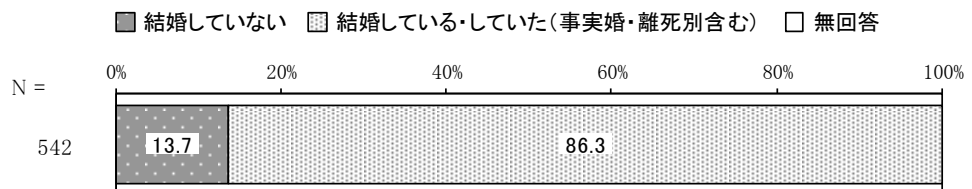
F 5 あなたのご職業は何ですか。(〇は1つ)

「会社員・団体職員・公務員・教員」の割合が30.6%と最も高く、次いで「無職」の割合が18.1%、「専業主婦・専業主夫」の割合が16.2%となっています。



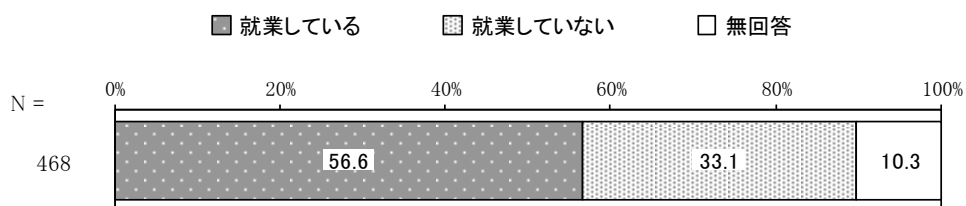
F 6 あなたは結婚していらっしゃいますか。(〇は1つ)

「結婚していない」の割合が13.7%、「結婚している・していた(事実婚・離死別含む)」の割合が86.3%となっています。



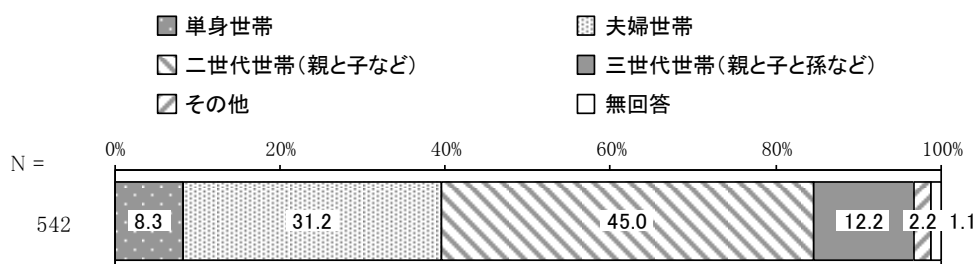
F 7 配偶者のいらっしゃる方におたずねします。配偶者は就業されていますか。(〇は1つ)

「就業している」の割合が56.6%、「就業していない」の割合が33.1%となっています。



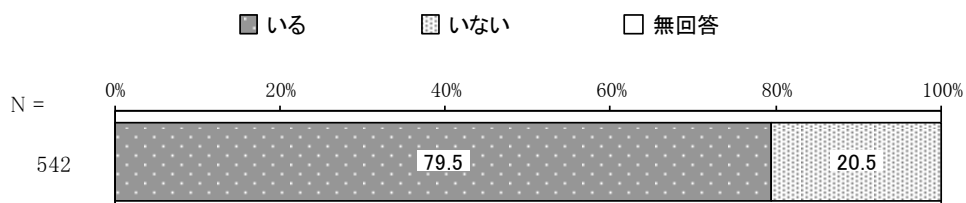
F 8 あなたの世帯構成はどれですか。(〇は1つ)

「二世世代世帯(親と子など)」の割合が45.0%と最も高く、次いで「夫婦世帯」の割合が31.2%、「三世世代世帯(親と子と孫など)」の割合が12.2%となっています。



F 9 あなたには子どもさんがいらっしゃいますか。(〇は1つ)

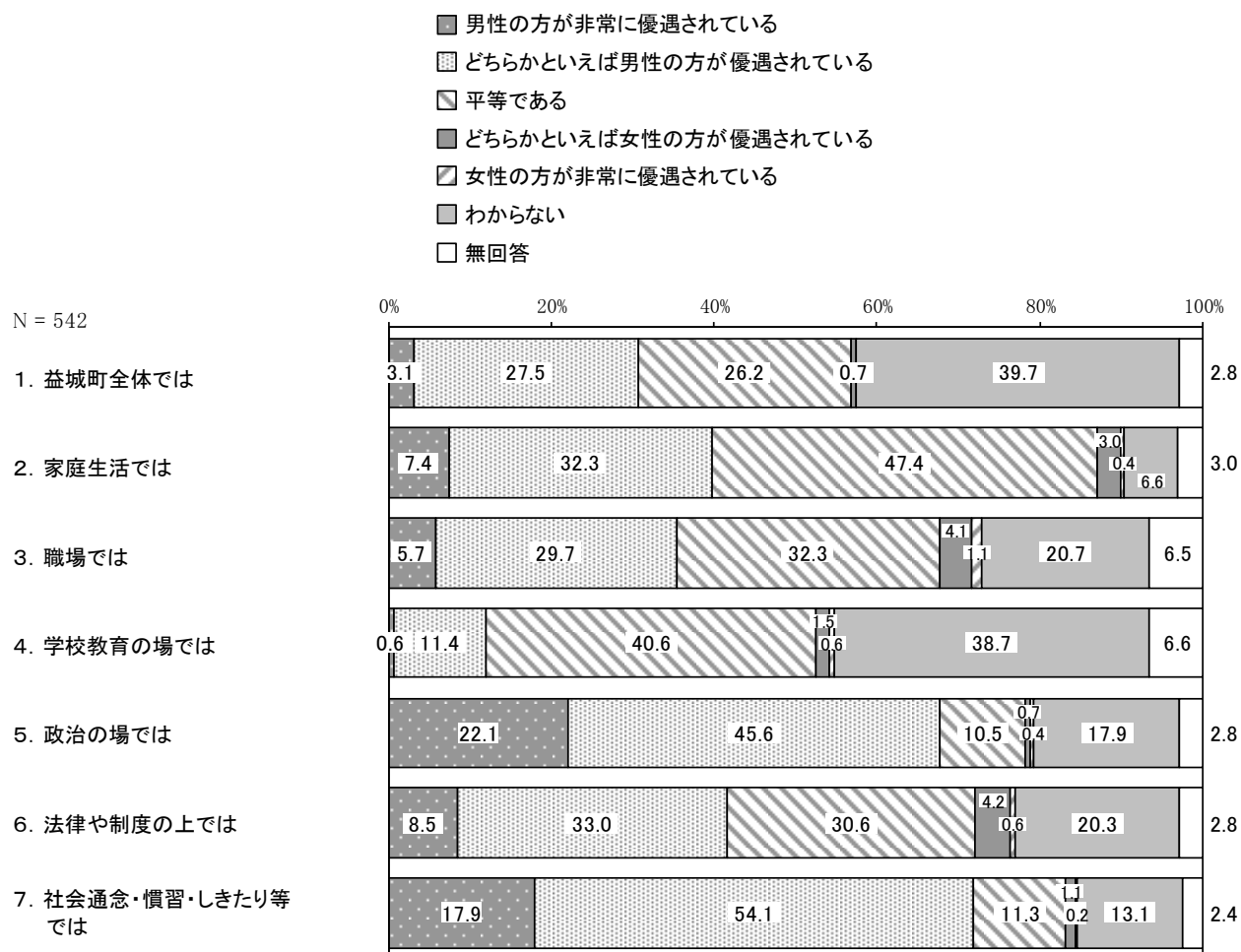
「いる」の割合が79.5%、「いない」の割合が20.5%となっています。



2 男女共同参画に関する意識について

問1 あなたは、男女の地位は平等になっていると思いますか。
(1～7のそれぞれについて、○は1つ)

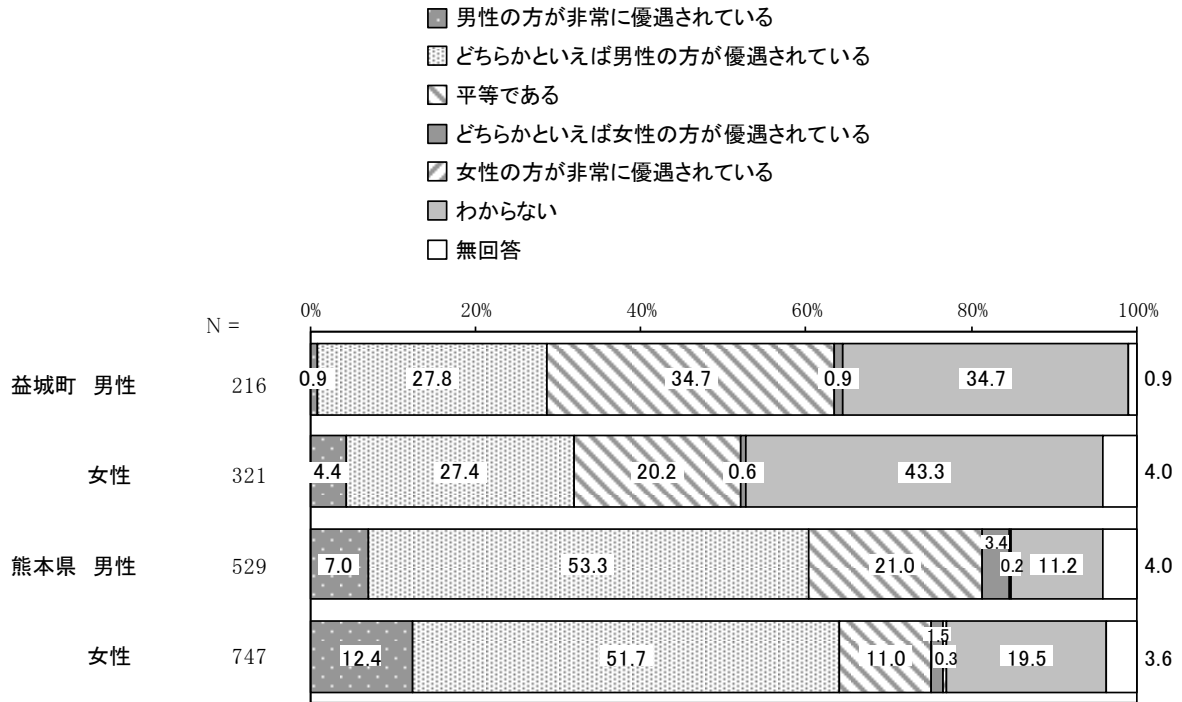
5. 政治の場、7. 社会通念・慣習・しきたり等で「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性の方が優遇されている”の割合が高く、約7割となっています。また、2. 家庭生活上で「平等である」の割合が高く、約5割となっています。



1. 益城町全体

【性別及び県との比較】

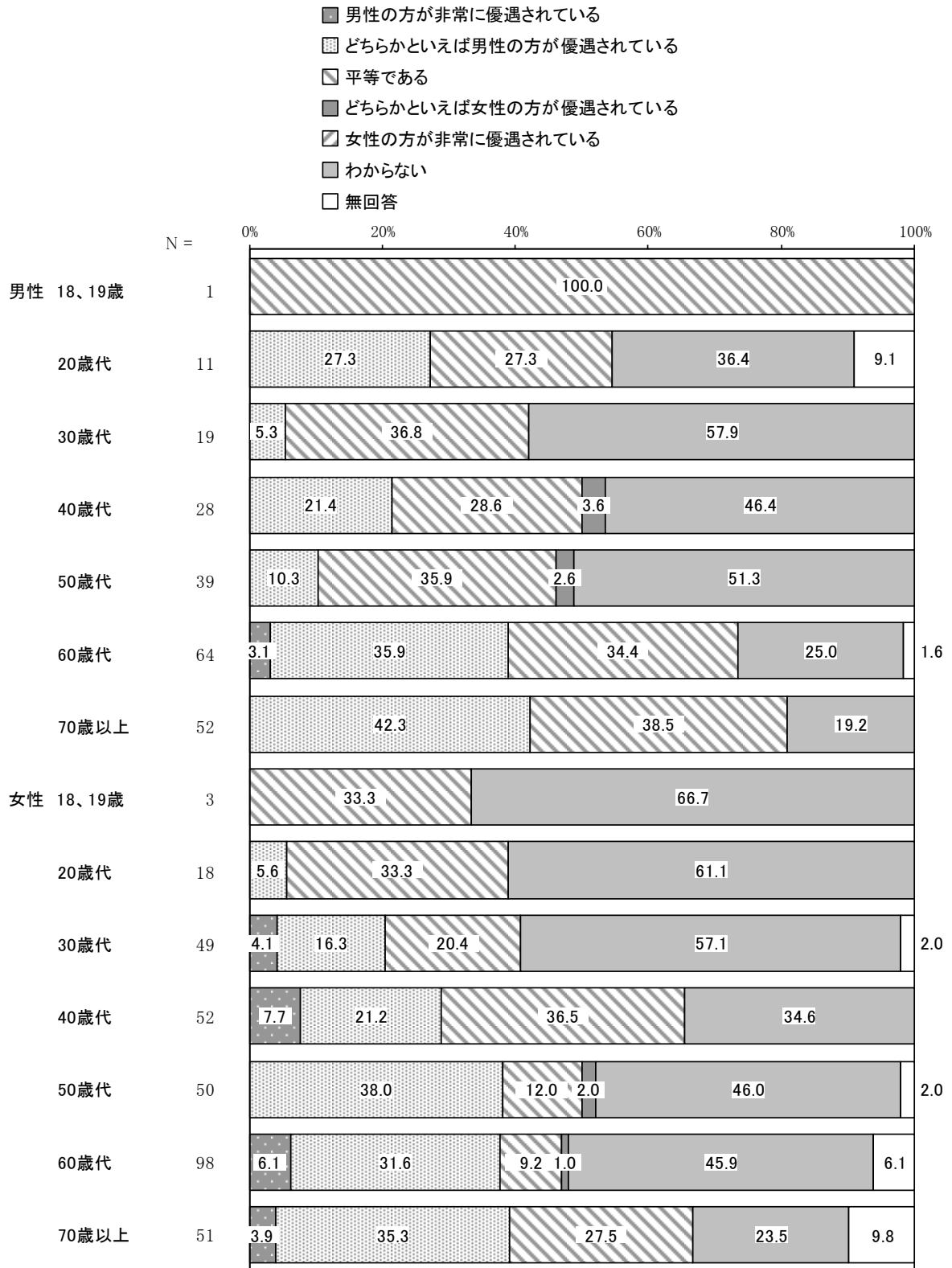
性別で見ると、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が高く、3割台半ばとなっています。
 熊本県調査と比較すると、男女とも熊本県に比べ「平等である」の割合が高くなっています。



※熊本県調査は、熊本県全体について調査しています。

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性で年齢が高くなるにつれ“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。

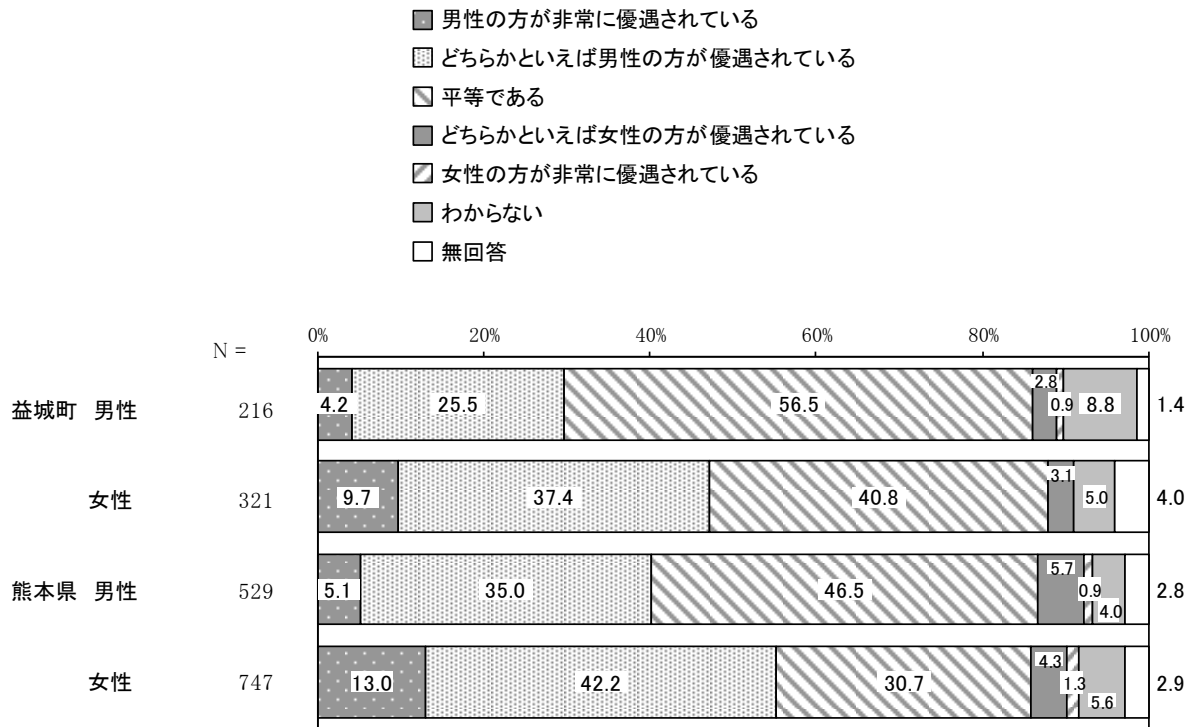


2. 家庭生活

【性別及び県との比較】

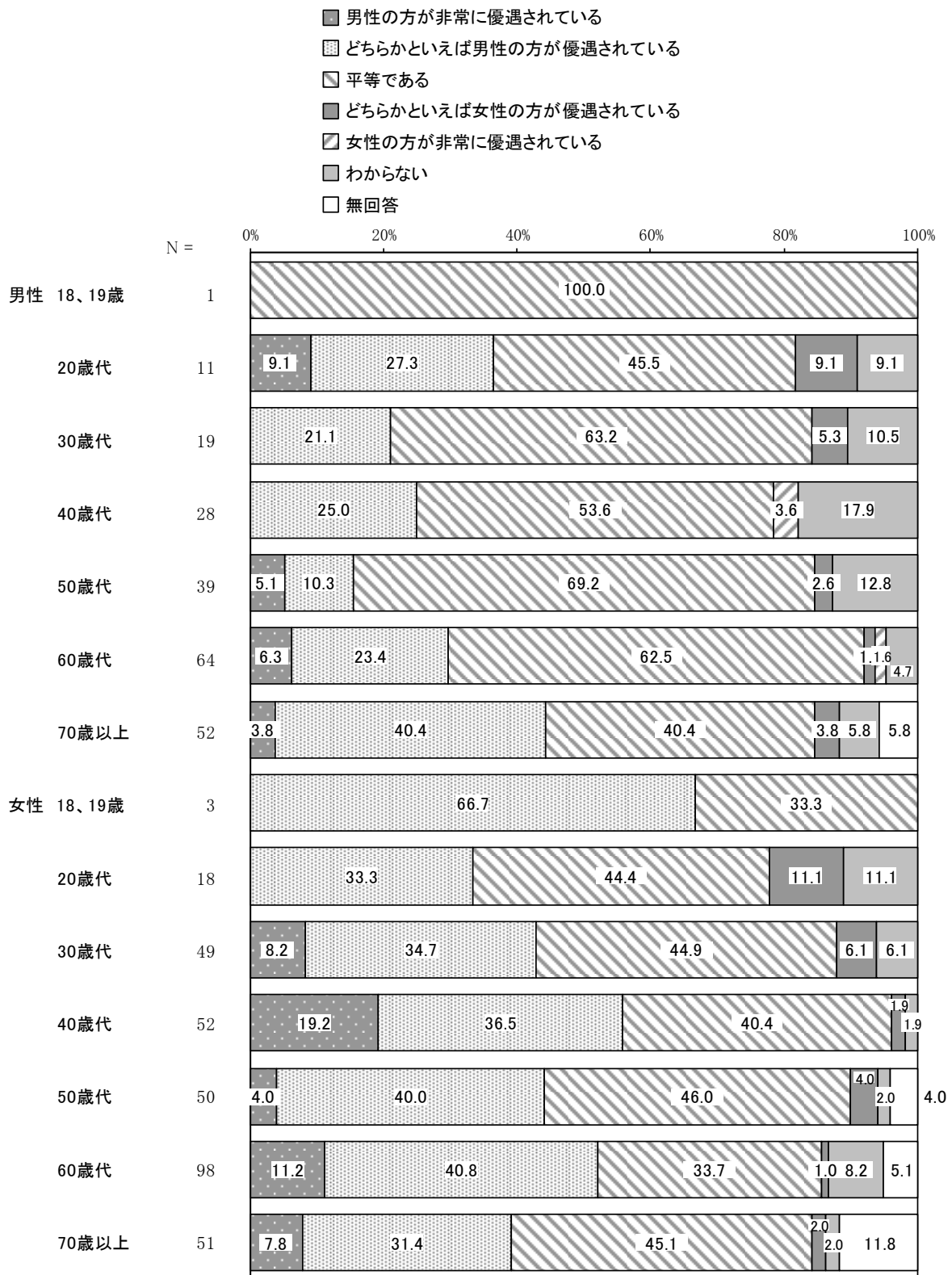
性別で見ると、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、約5割となっています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が高く、5割台半ばとなっています。

熊本県調査と比較すると、男女とも熊本県に比べ「平等である」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

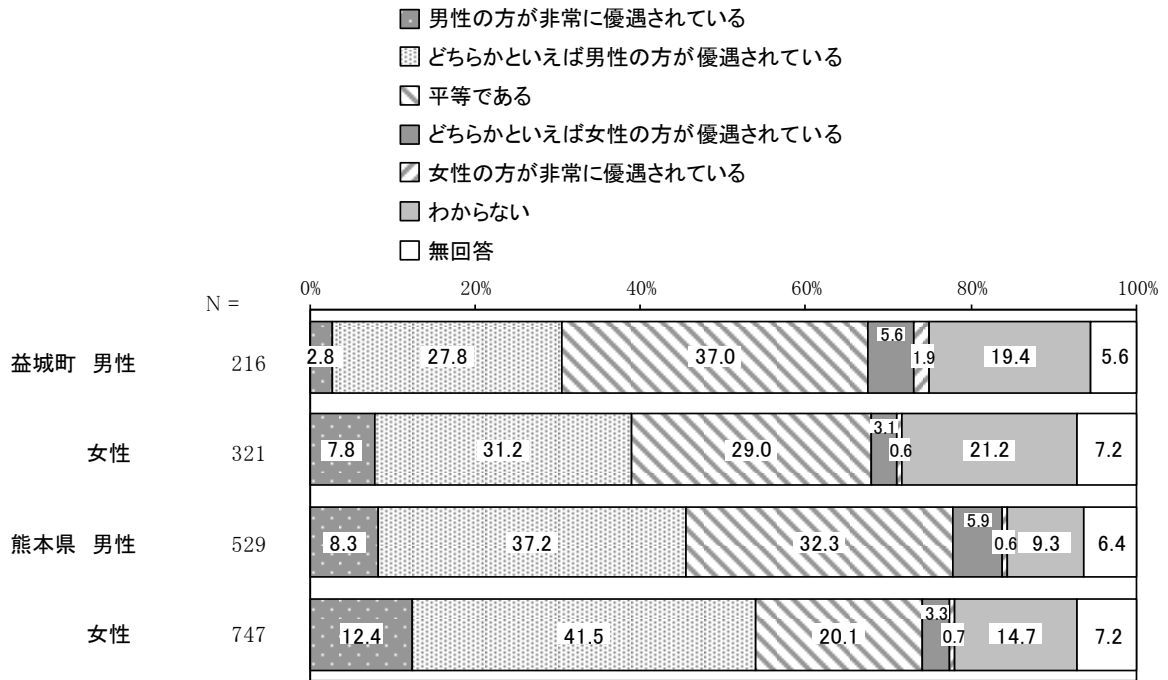
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の40歳代、60歳代で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、5割を超えています。また、男性の50歳代で「平等である」の割合が高く、約7割となっています。



3. 職場

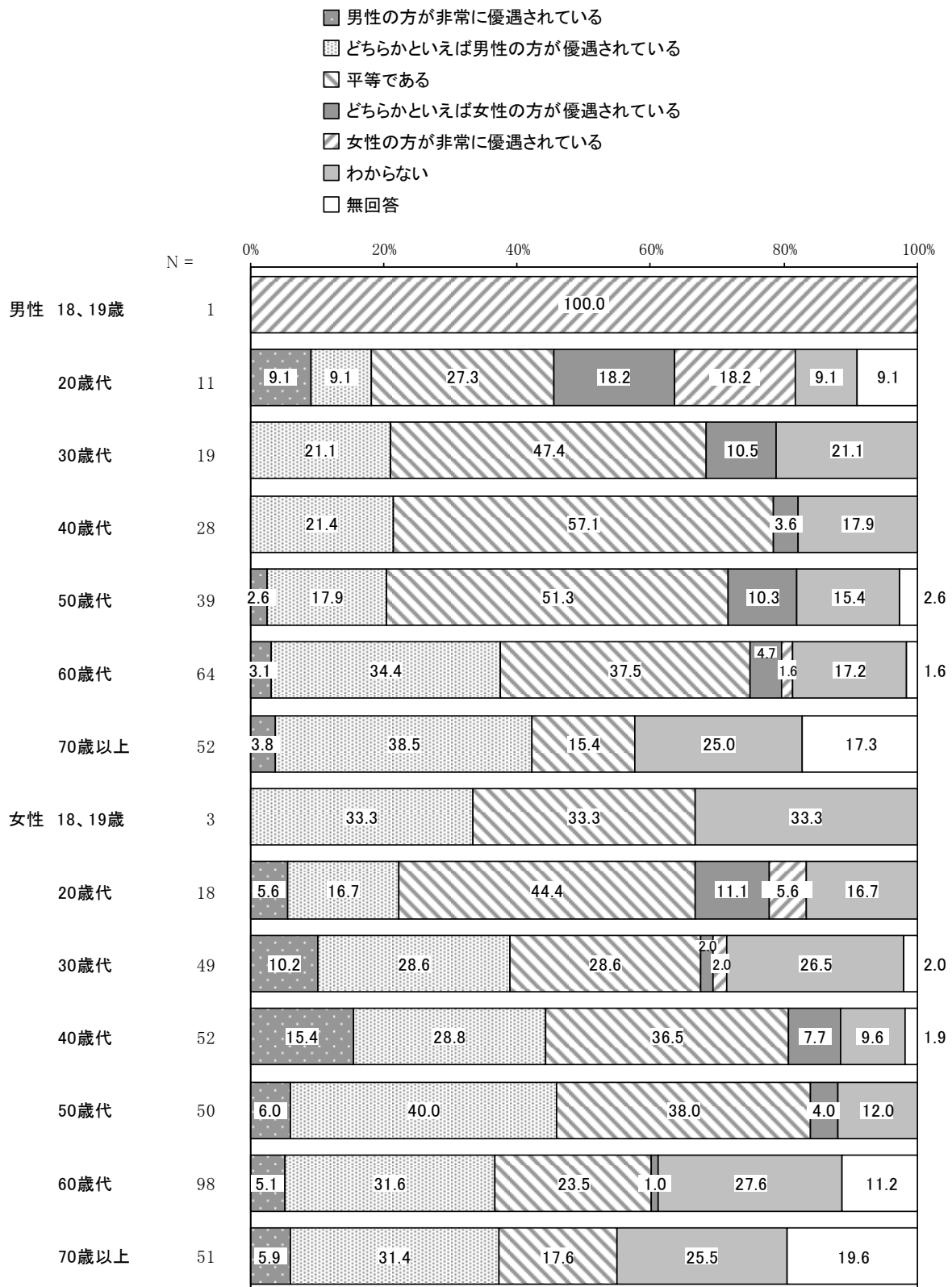
【性別及び県との比較】

性別で見ると、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、約4割となっています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が高く、約4割となっています。熊本県調査と比較すると、男女とも熊本県に比べ「平等である」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性の40歳代、50歳代で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、4割台半ばとなっています。また、男性の40歳代で「平等である」の割合が高く、約6割となっています。

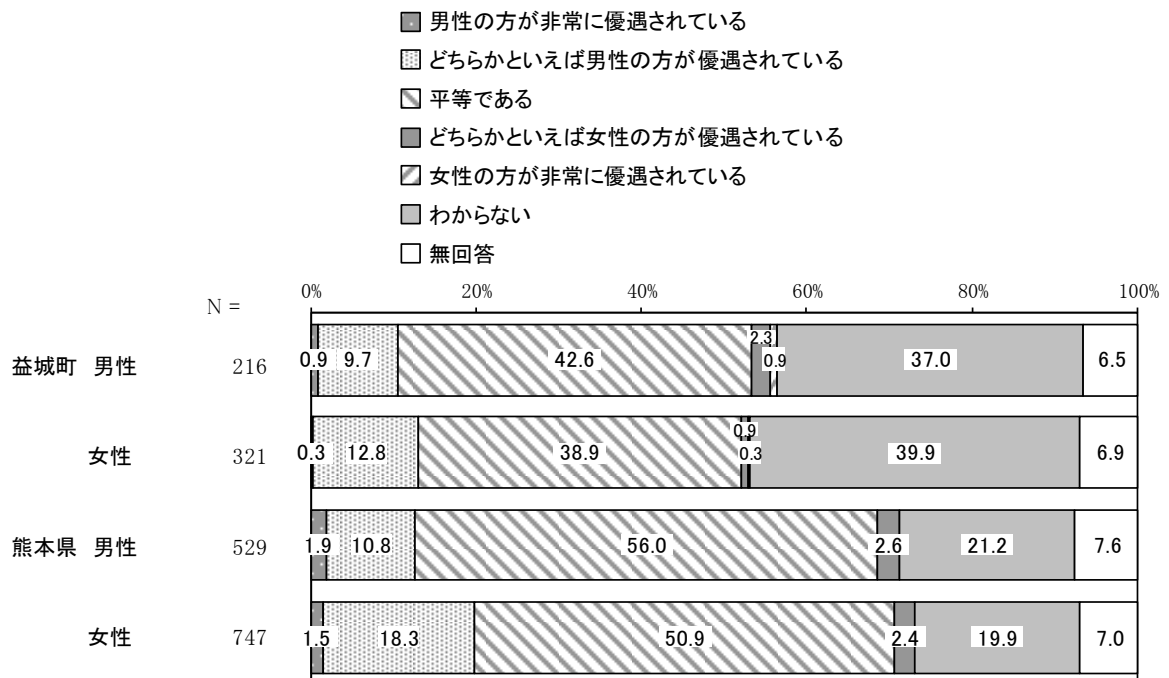


4. 学校教育の場

【性別及び県との比較】

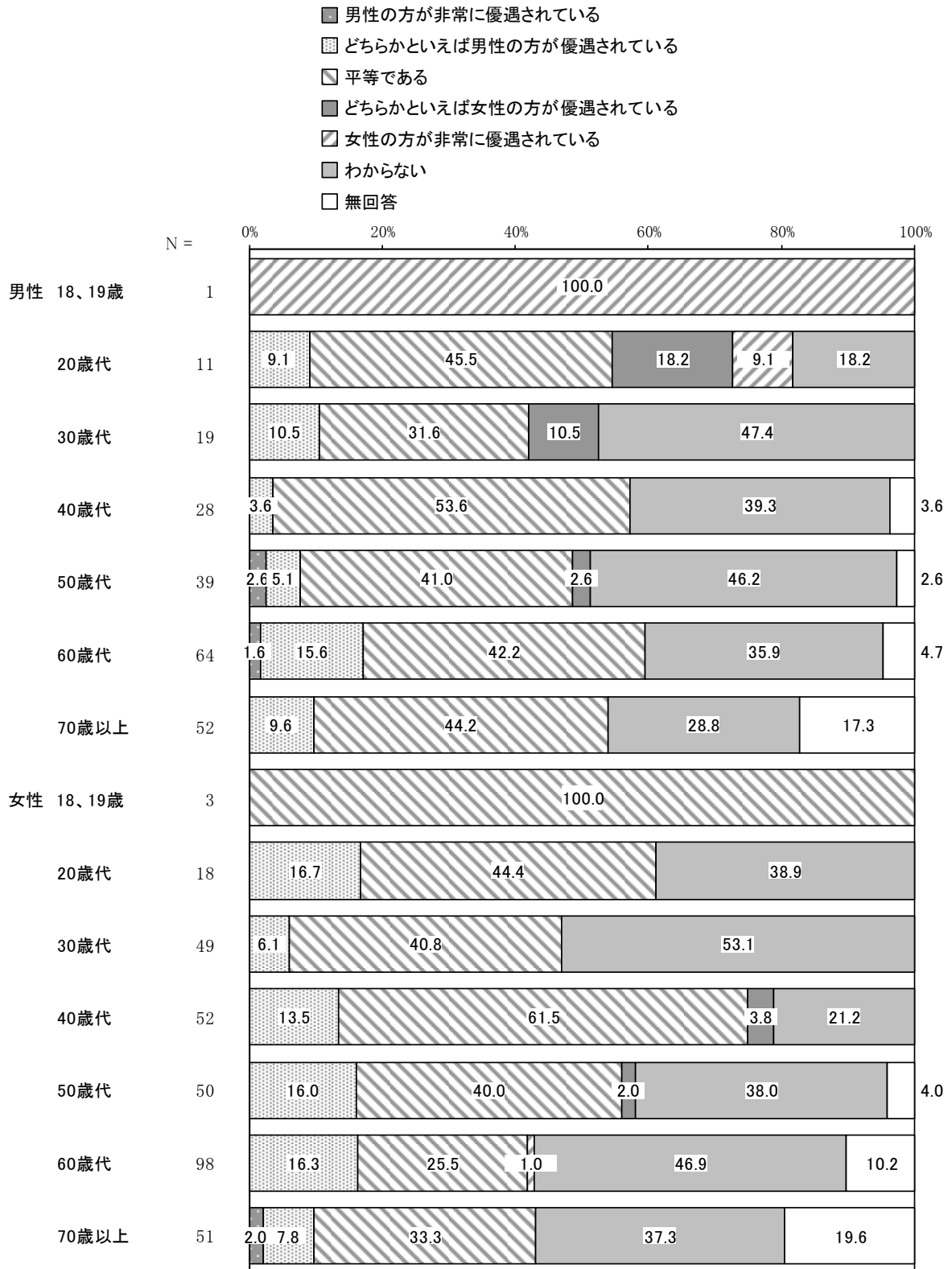
性別で見ると、大きな差異はみられません。

熊本県調査と比較すると、男女とも熊本県に比べ「平等である」の割合が低くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の40歳代で「平等である」の割合が高く、約6割となっています。

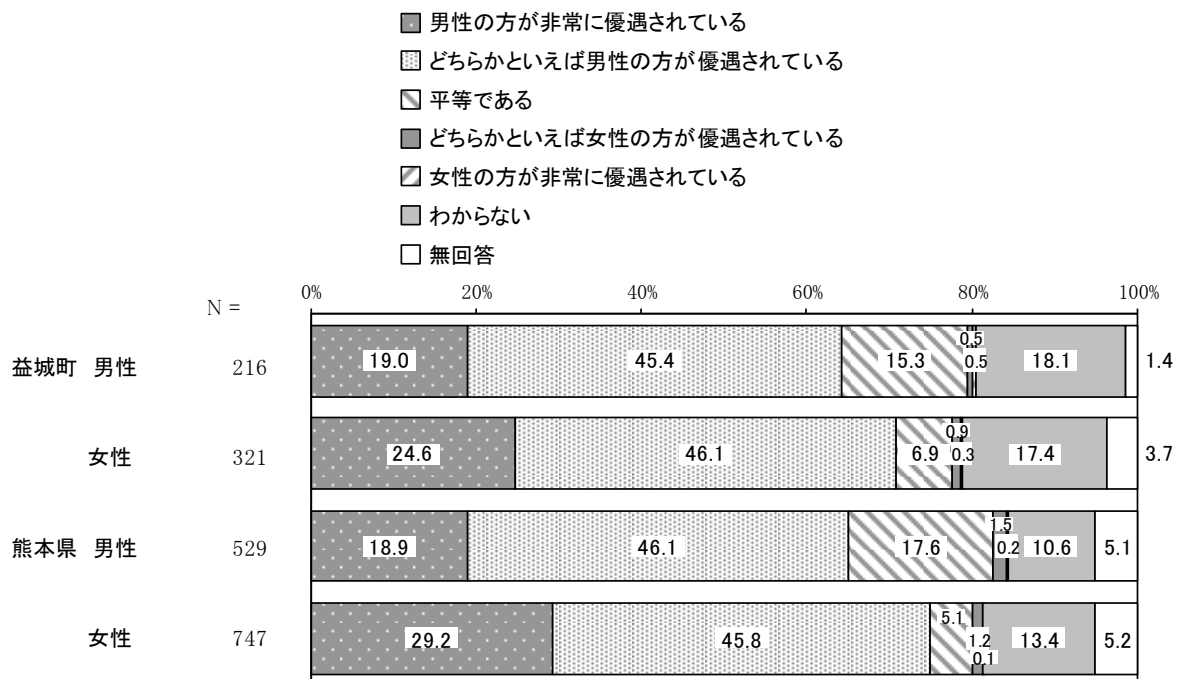


5. 政治の場

【性別及び県との比較】

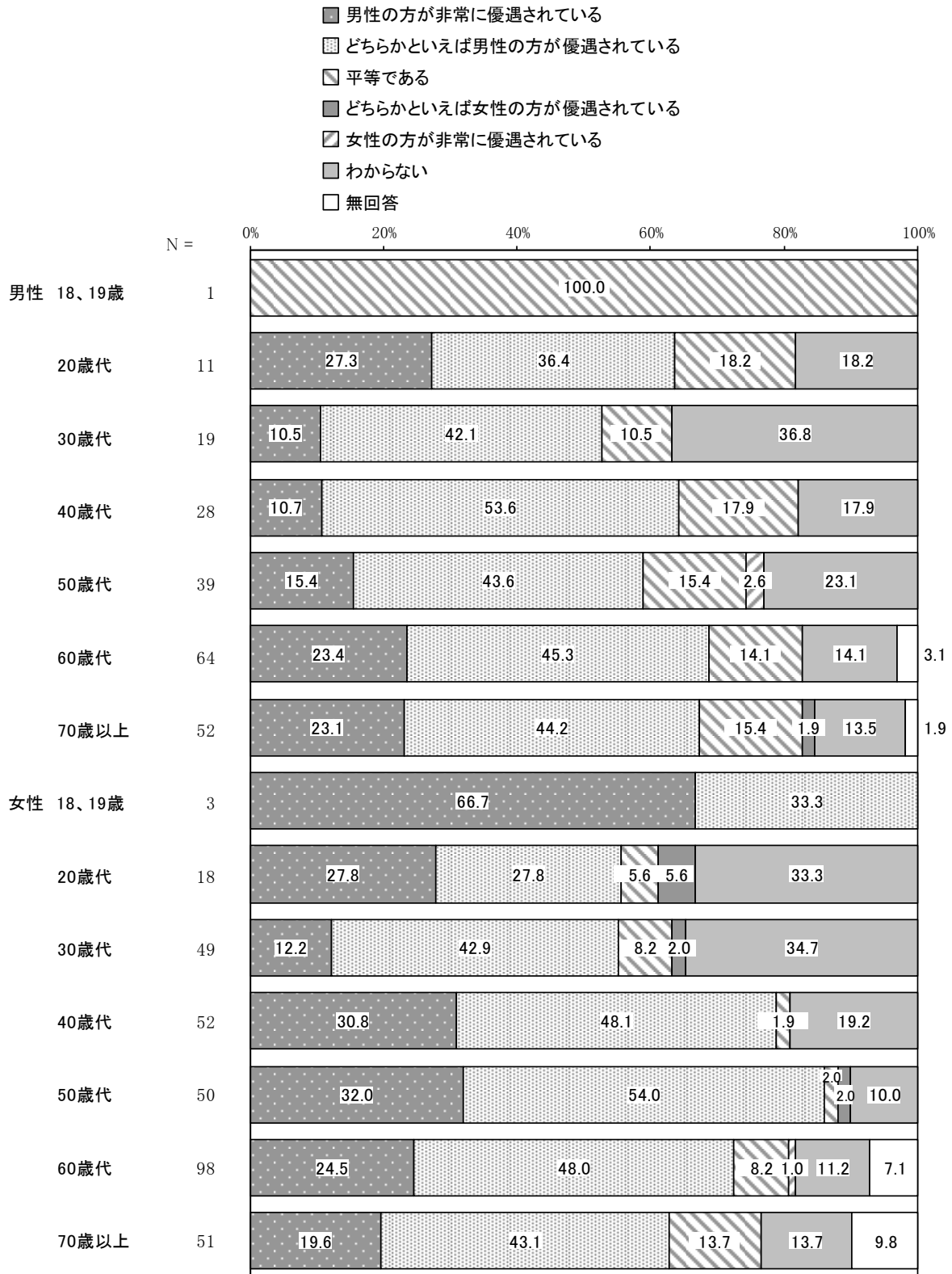
性別で見ると、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、約7割となっています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が高くなっています。

熊本県調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

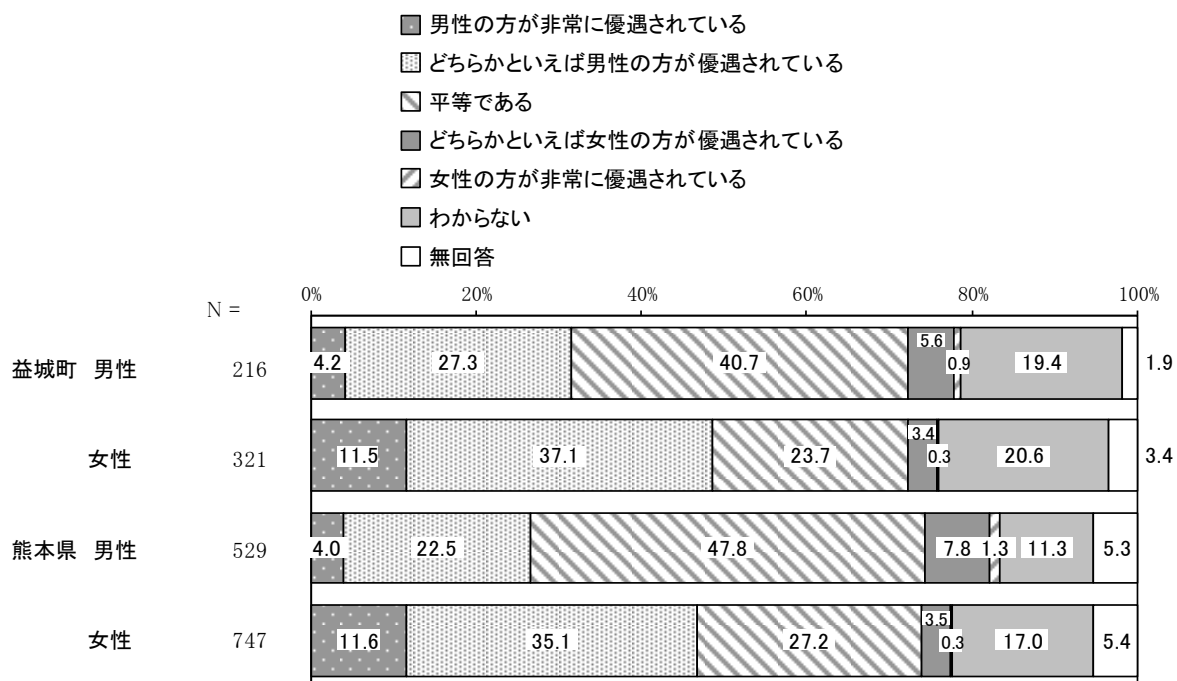
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の50歳代で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、8割台半ばとなっています。



6. 法律や制度の上

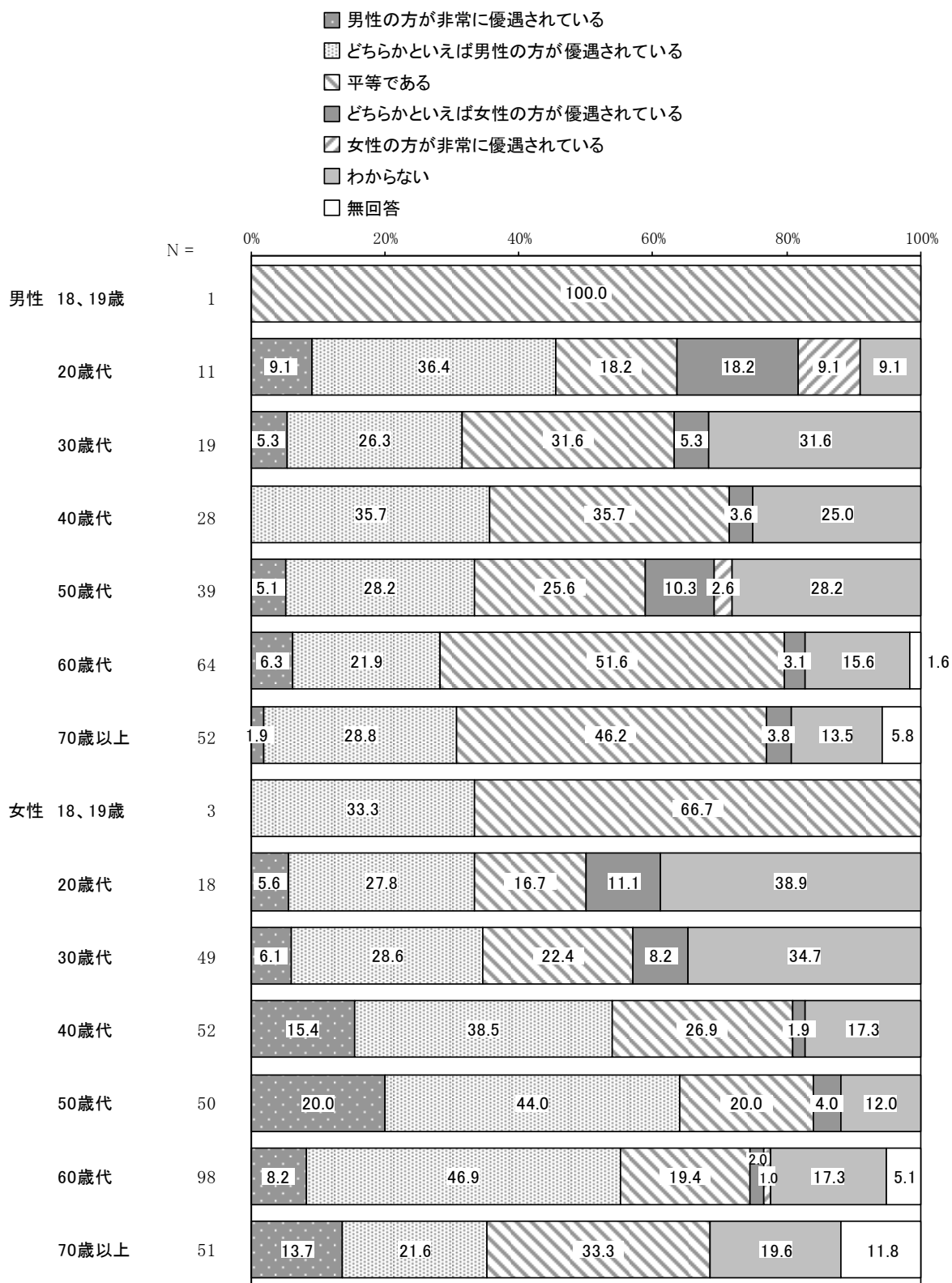
【性別及び県との比較】

性別で見ると、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、約5割となっています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が高く、約4割となっています。



【性・年齢別】

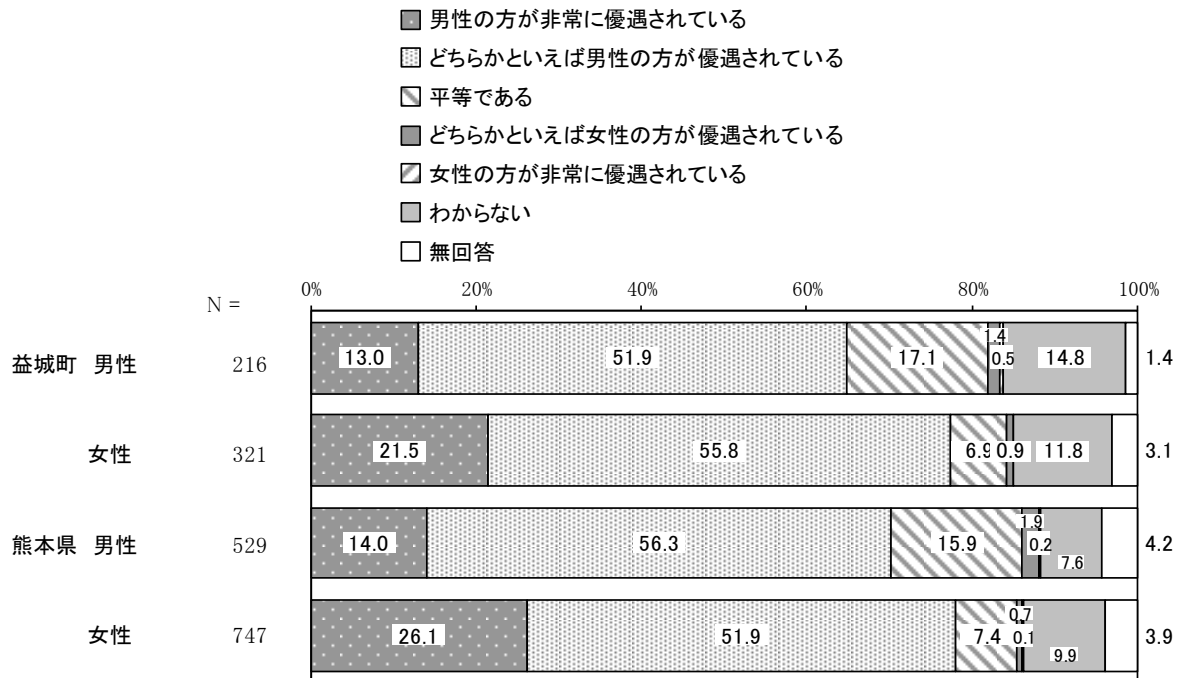
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の50歳代で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、6割台半ばとなっています。また、男性の60歳代で「平等である」の割合が高く、約5割となっています。



7. 社会通念・慣習・しきたり等

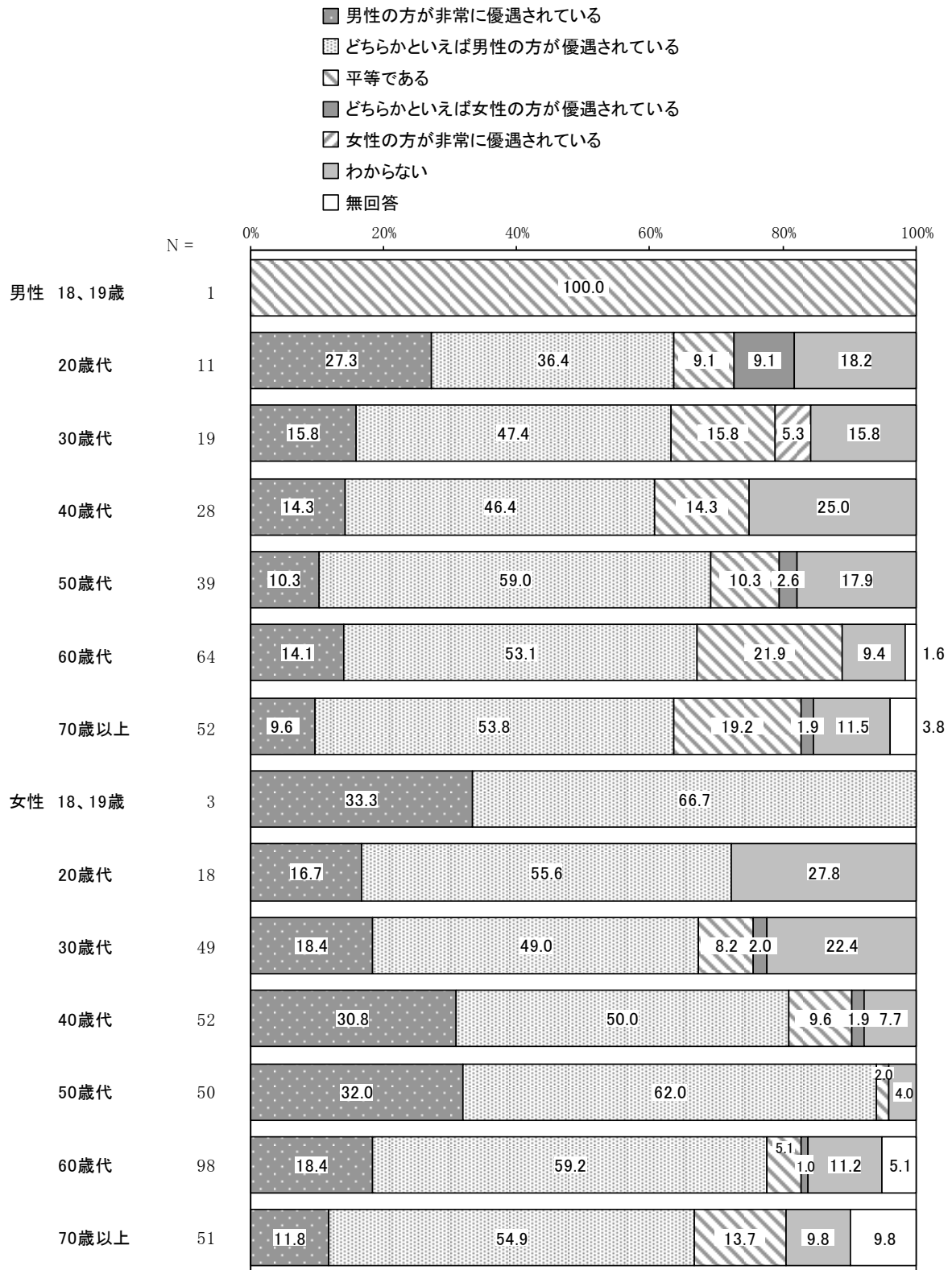
【性別及び県との比較】

性別で見ると、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、約8割となっています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が高く、約2割となっています。



【性・年齢別】

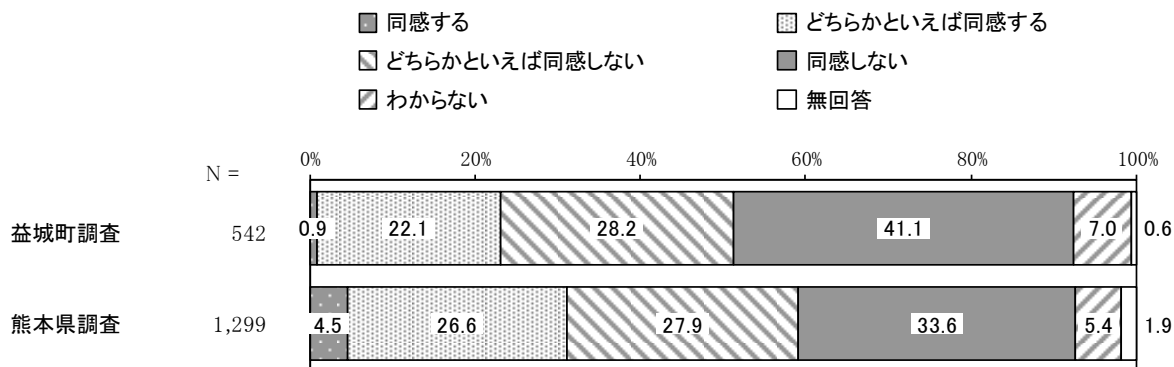
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の50歳代で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、9割台半ばとなっています。また、男性の60歳以上で「平等である」の割合が高く、約2割となっています。



問2 あなたは、『「男は仕事、女は家庭」などと性別によって役割を固定する考え方』について、どう思いますか。(〇は1つ)

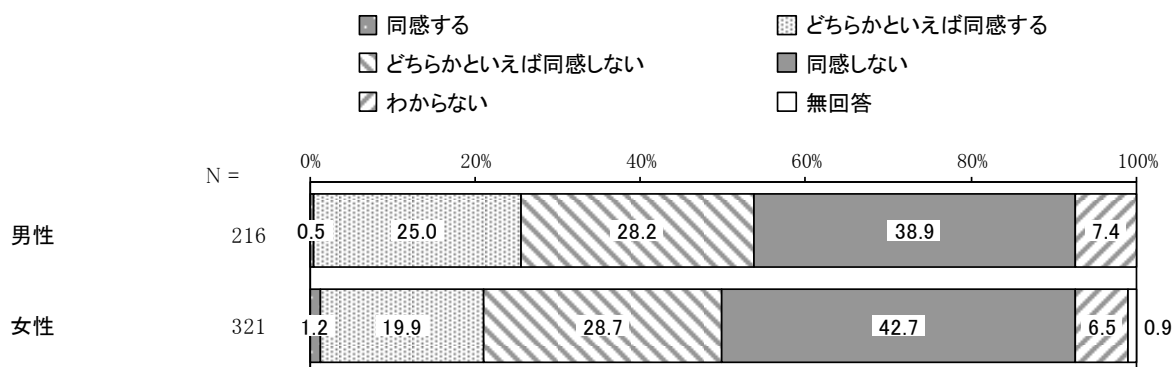
「同感する」と「どちらかといえば同感する」をあわせた“同感する”の割合が23.0%、「どちらかといえば同感しない」と「同感しない」をあわせた“同感しない”の割合が69.3%となっています。

熊本県調査と比較すると、熊本県に比べ“同感しない”の割合が高くなっています。



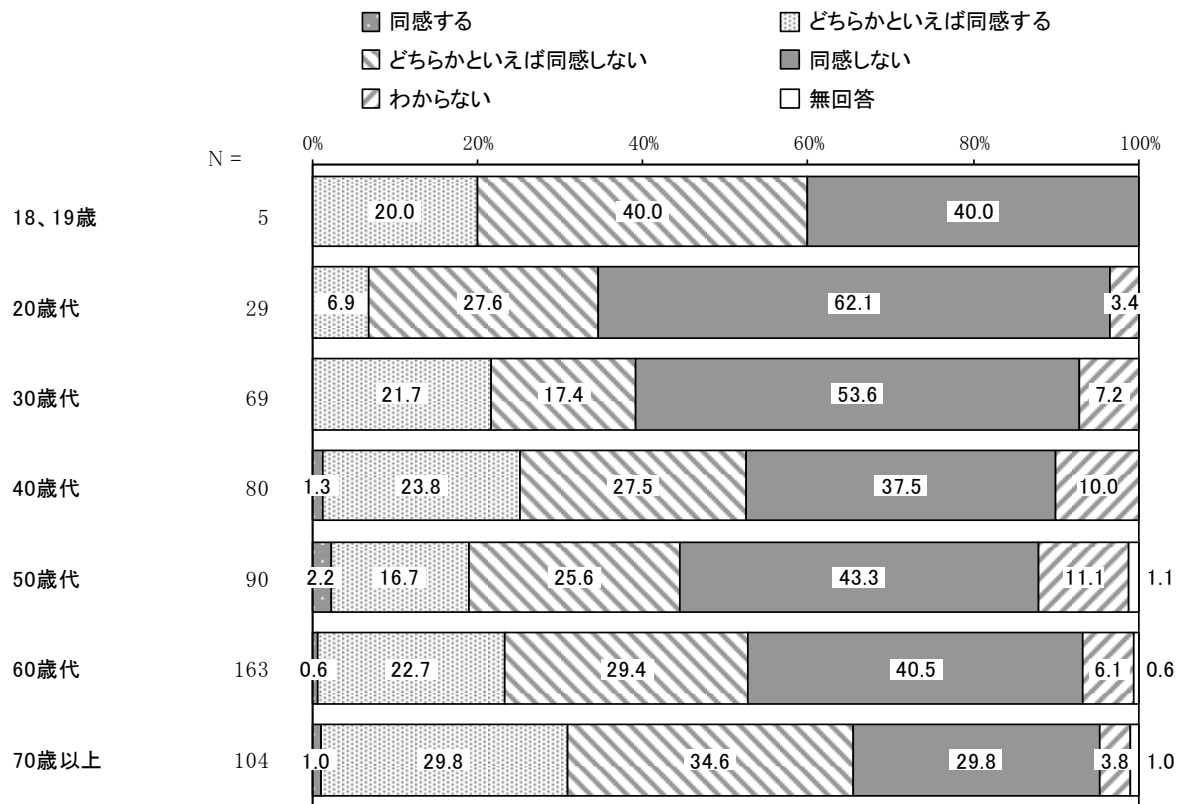
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「どちらかといえば同感する」の割合が高くなっています。



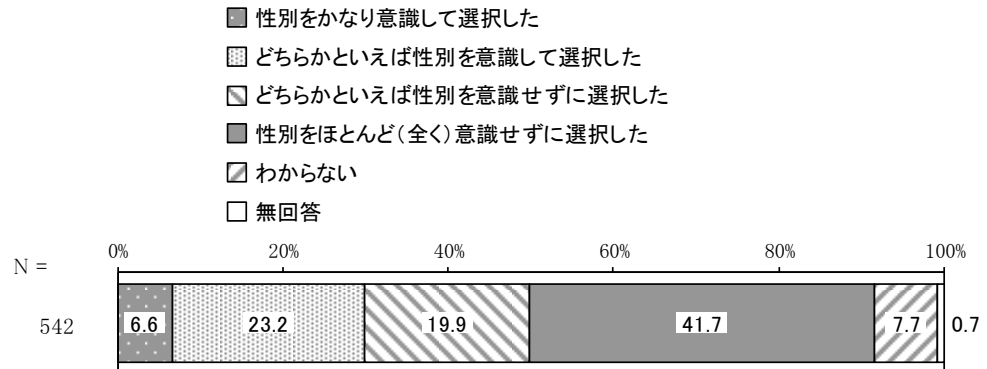
【年齢別】

性・年齢別で見ると、他の年齢に比べ、70歳以上で“同感する”の割合が高く、約3割となっています。また、20歳代で“同感しない”の割合が高く、約9割となっています。



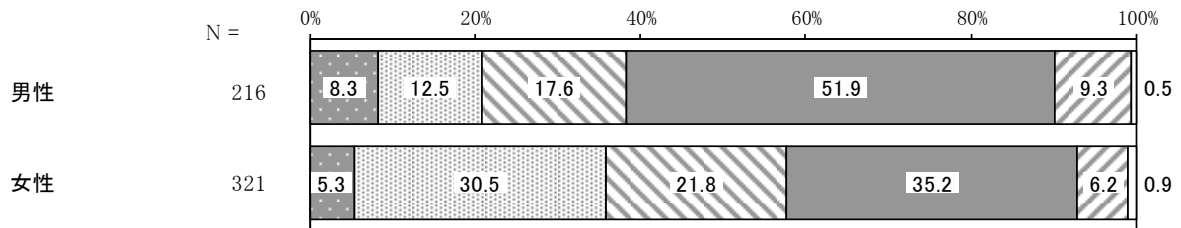
問3 あなたは、進路や職業を選択する際に、性別を意識しましたか。(〇は1つ)

「性別をかなり意識して選択した」と「どちらかといえば性別を意識して選択した」をあわせた“性別を意識して選択した”の割合が29.8%、「どちらかといえば性別を意識せずに選択した」と「性別をほとんど(全く)意識せずに選択した」をあわせた“性別を意識せずに選択した”の割合が61.6%となっています。



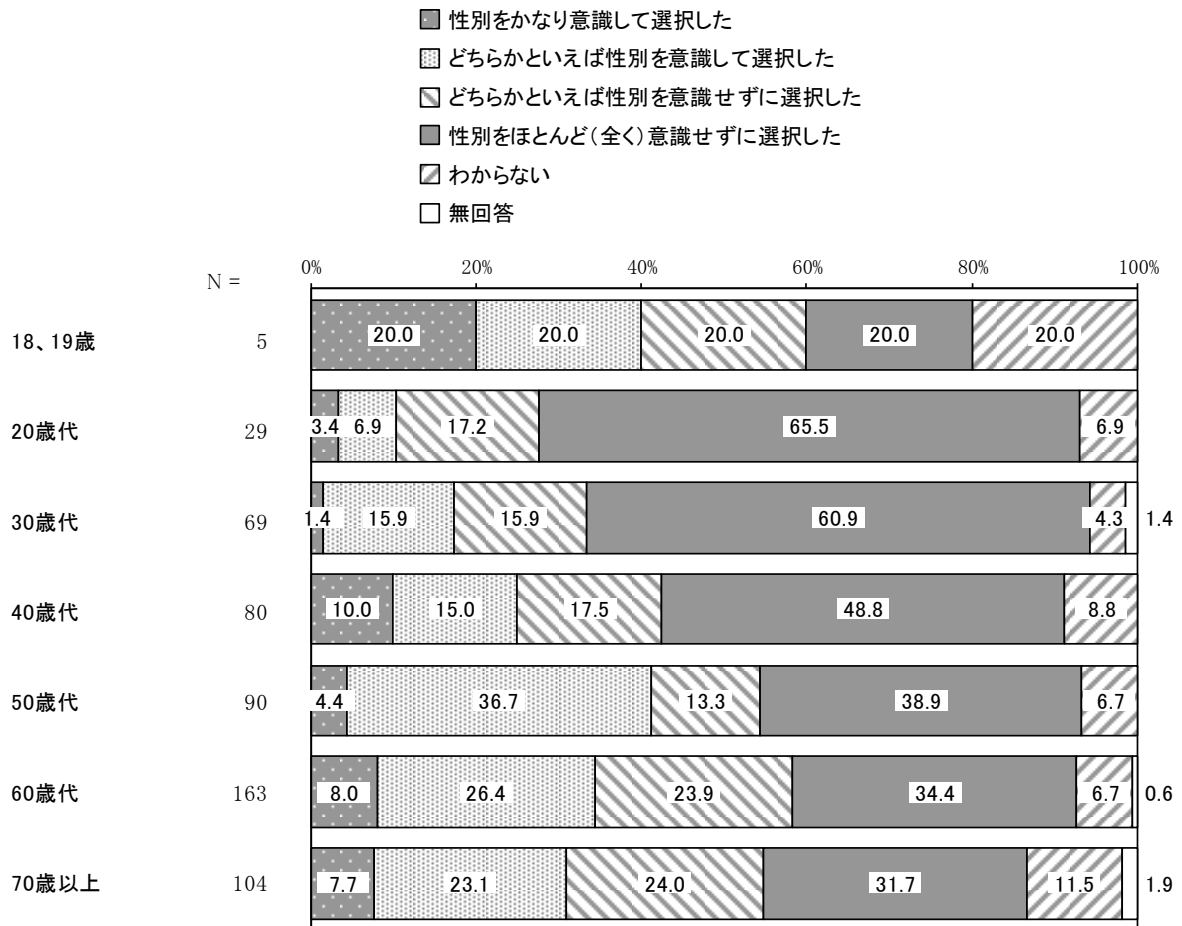
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で“性別を意識して選択した”の割合が高く、3割台半ばとなっています。



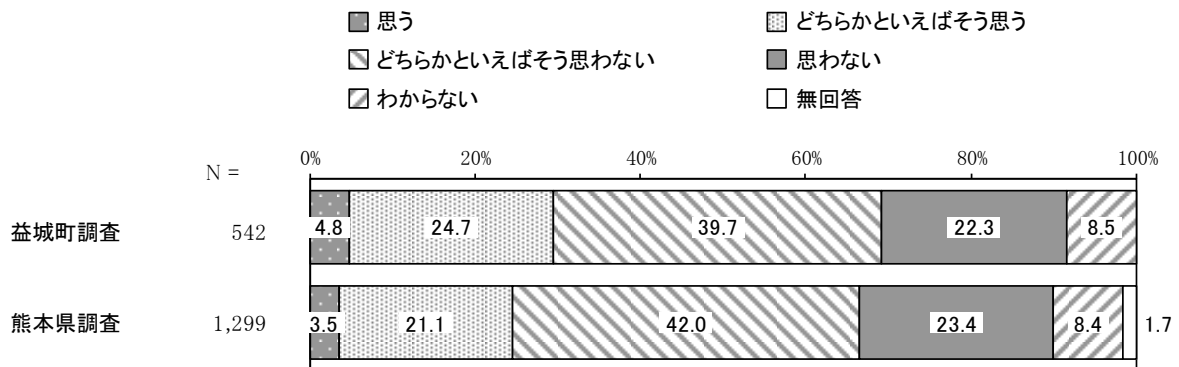
【年齢別】

年齢別でみると、年齢が低くなるにつれ“性別を意識せずに選択した”の割合が高くなる傾向がみられ、20歳代で約8割となっています。また、他の年齢に比べ、50歳代で“性別を意識して選択した”の割合が高く、約4割となっています。



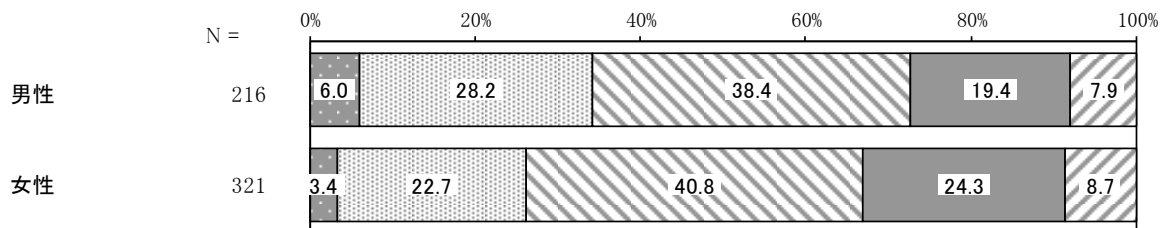
問4 あなたは、男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会が実現されていると思いますか。(〇は1つ)

「思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が29.5%、「どちらかといえばそう思わない」と「思わない」をあわせた“思わない”の割合が62.0%となっています。



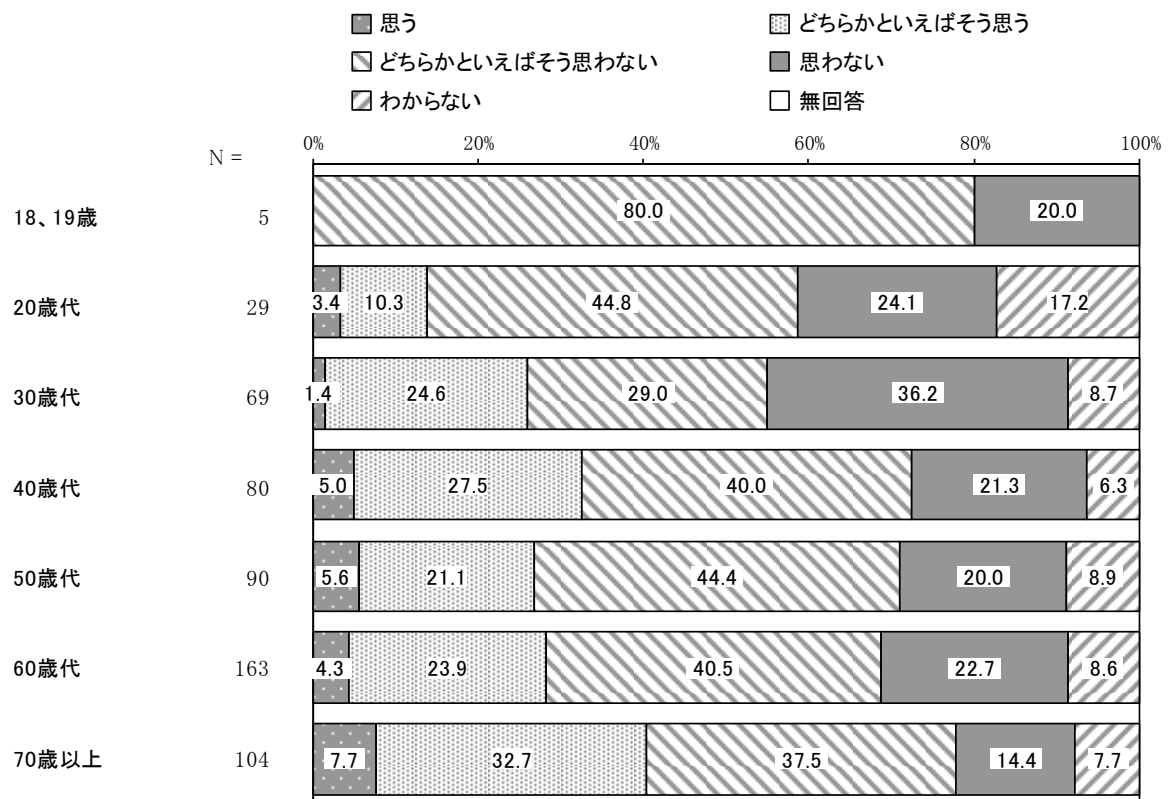
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“そう思う”の割合が高く、3割台半ばとなっています。



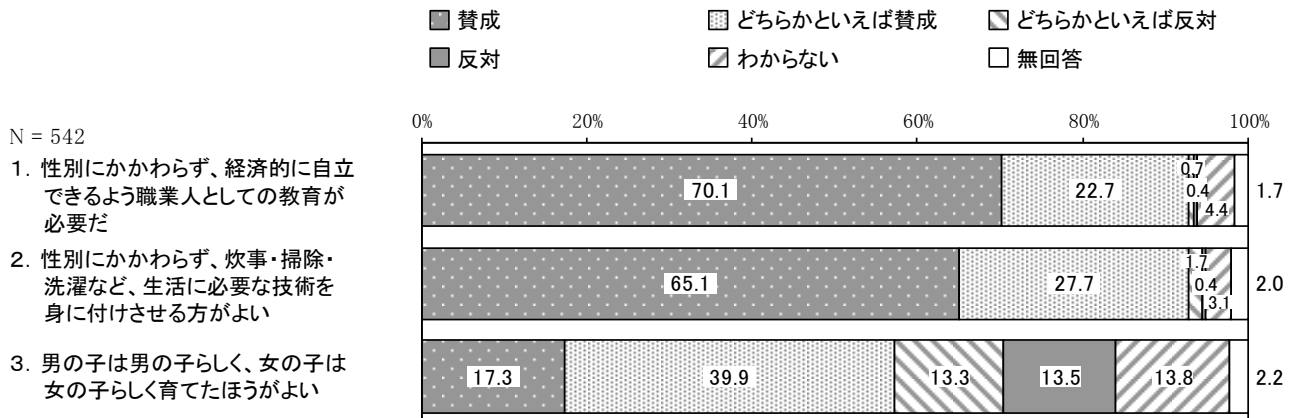
【年齢別】

年齢別でみると、他の年齢に比べ、70歳以上で“そう思う”の割合が高く、約4割となっています。また、20歳代で“そう思わない”の割合が高く、約7割となっています。



問 5 あなたは、子どもの教育について、どのような考えをお持ちですか。子どものいない方は、一般的にどう思われるかお答えください。（1～3について、○は1つ）

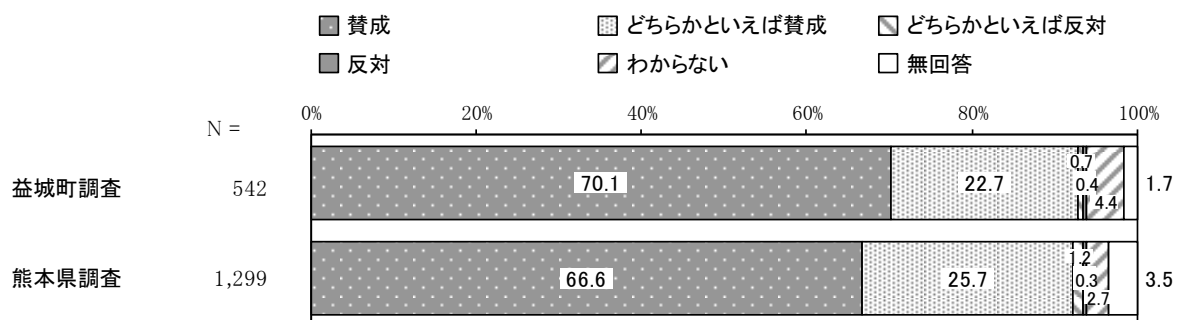
1. 性別にかかわらず、経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ、2. 性別にかかわらず、炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身に付けさせる方がよいで「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた“賛成”の割合が高く、約9割となっています。一方、3. 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよいで「どちらかといえば反対」と「反対」をあわせた“反対”の割合が高く、2割台半ばとなっています。



1. 性別にかかわらず、経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ

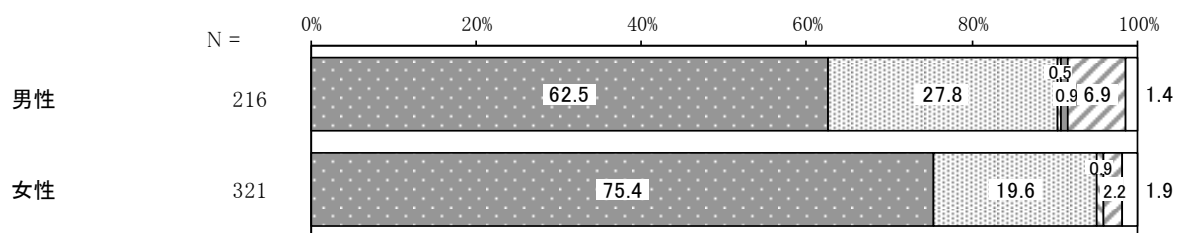
【県比較】

熊本県調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

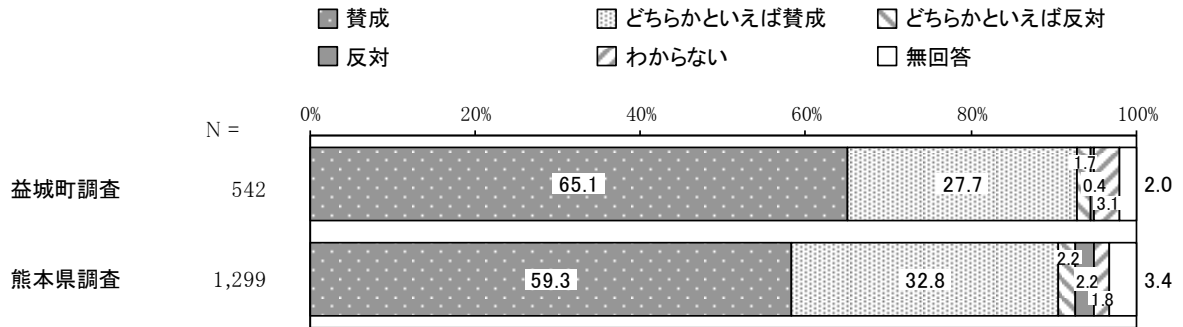
性別でみると、大きな差異はみられません。



2. 性別にかかわらず、炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身に付けさせる方がよい

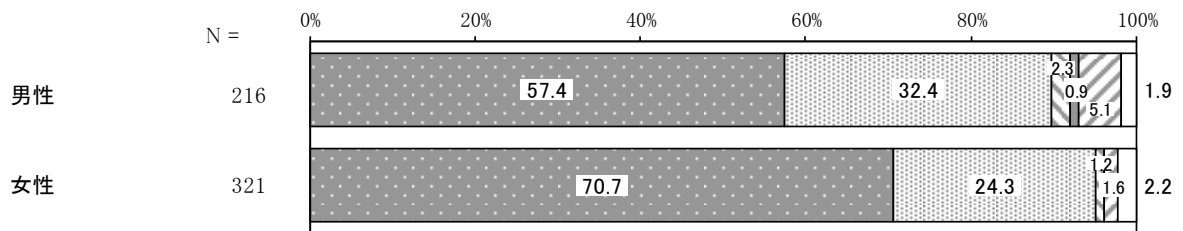
【県比較】

熊本県調査と比較すると、熊本県に比べ「賛成」の割合が高く、6割台半ばとなっています。



【性別】

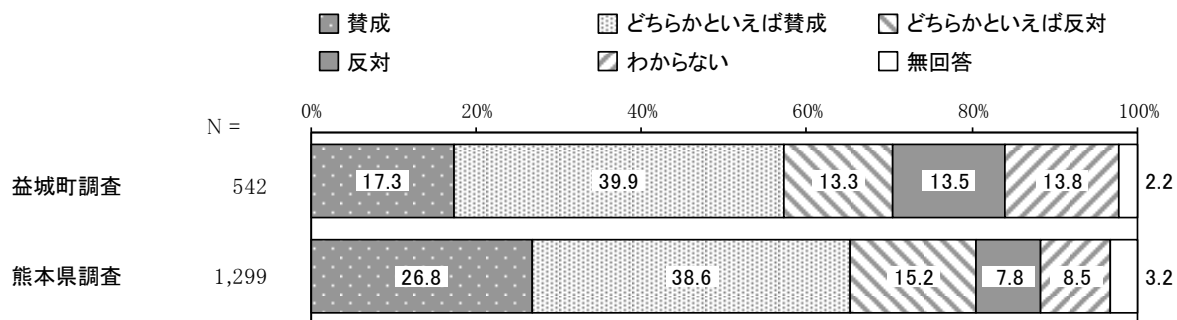
性別で見ると、男性に比べ、女性で“賛成”の割合が高く、9割台半ばとなっています。



3. 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい

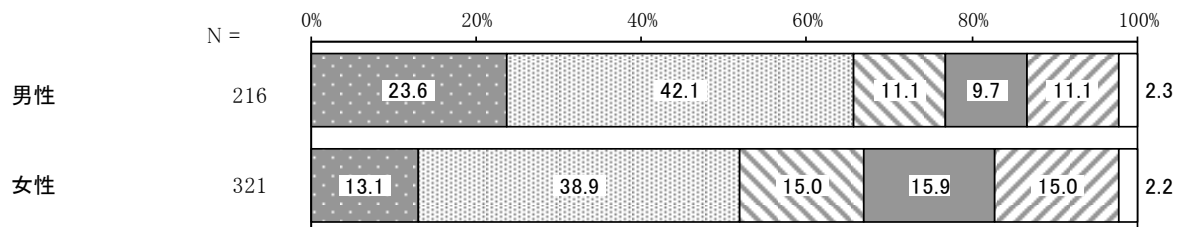
【県比較】

熊本県調査と比較すると、熊本県に比べ“賛成”の割合が低く、約6割となっています。



【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で“賛成”の割合が高く、6割台半ばとなっています。

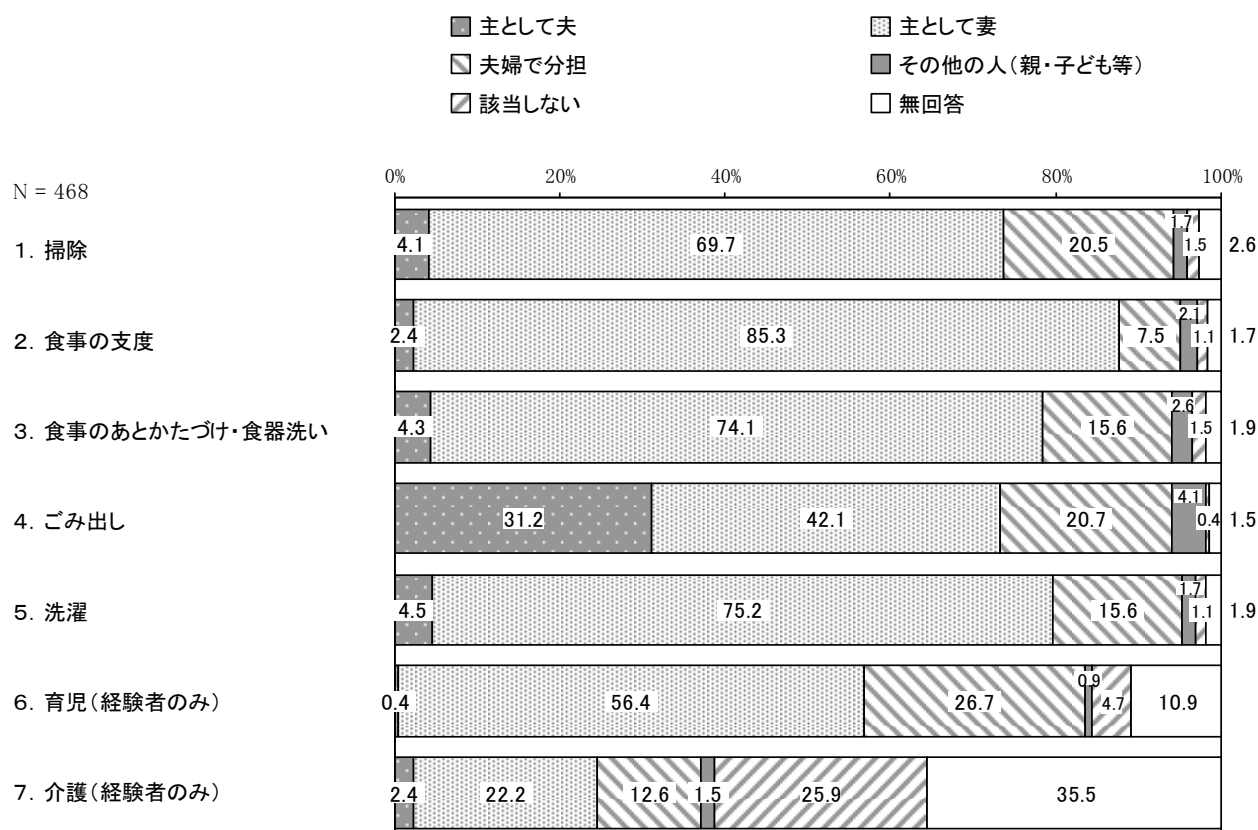


3 家庭生活の役割分担について

F 6で「2. 結婚している・していた（事実婚・離死別含む）」と答えた方は、その状況についてお書きください

問6 あなたの家庭では、次にあげる家事等を、主に誰がしていますか。
（1～7について、○は1つ。ただし、6及び7は経験者のみ回答）

7. 介護（経験者のみ）を除くすべての項目で「主として妻」の割合が最も高く、特に2. 食事の支度で8割台半ばとなっています。また、4. ごみ出しで「主として夫」の割合が高く、約3割となっています。

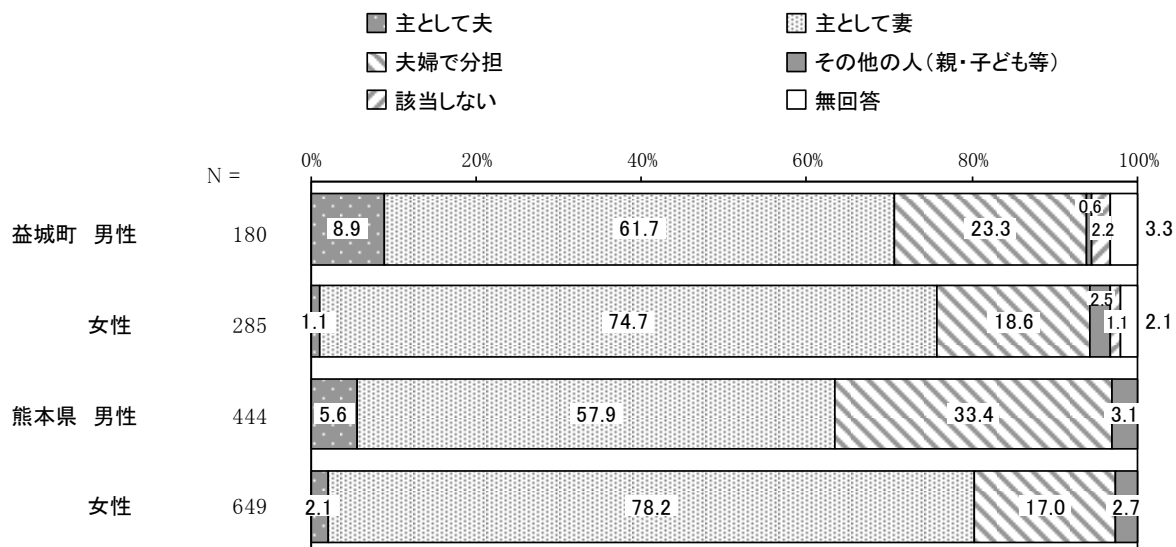


1. 掃除

【性別及び県との比較（参考）】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「主として夫」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「主として妻」の割合が高く、7割台半ばとなっています。

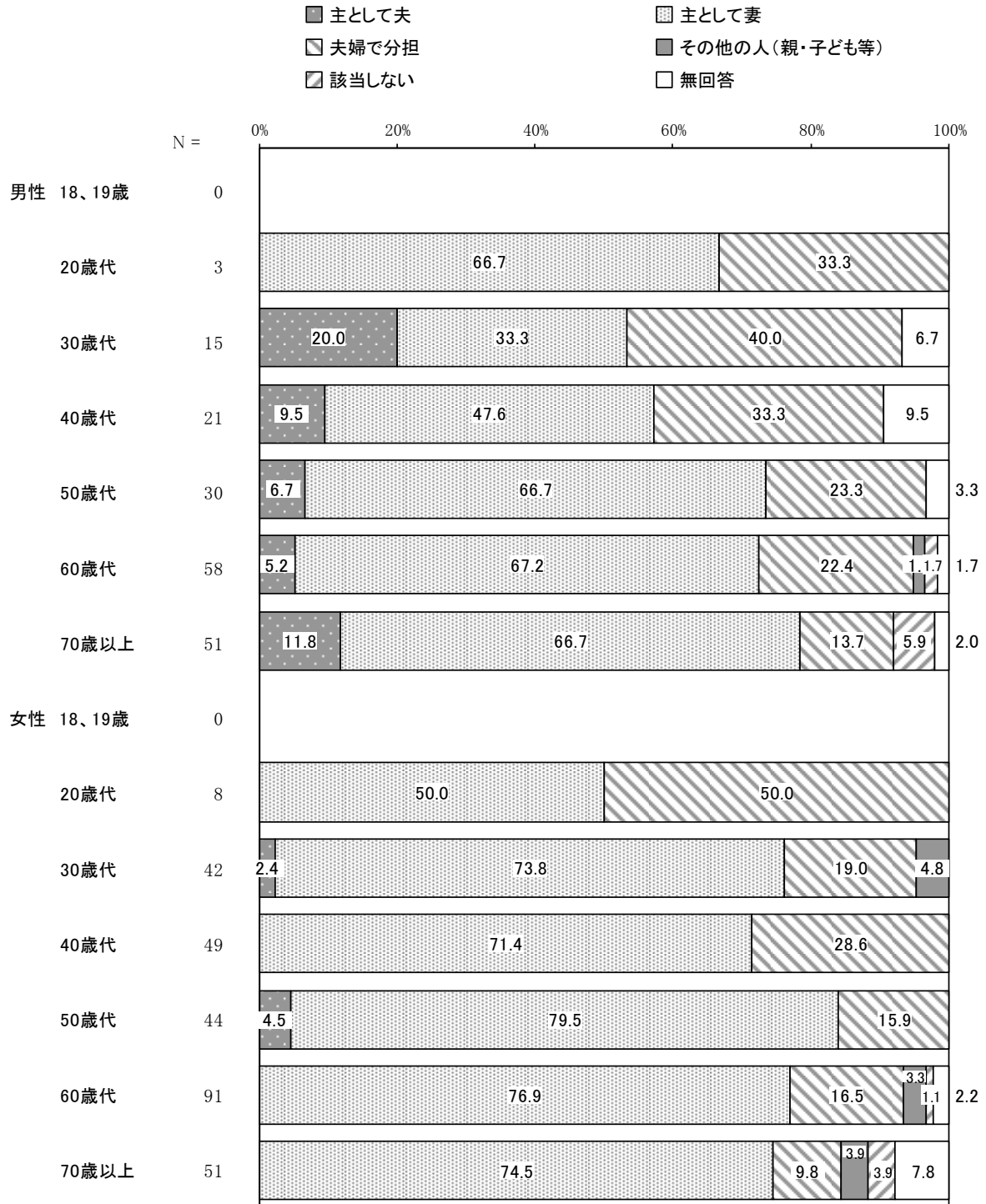
熊本県調査との比較は、対象が異なるため参考とします。



※熊本県調査は、「その他の人」「該当しない」を除外して計算しています。

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、すべての年代で男性に比べ女性で「主として妻」の割合が高く、特に女性の50歳代で約8割となっています。また、男性の30歳代で「主として夫」「夫婦で分担」の割合が高くなっています。

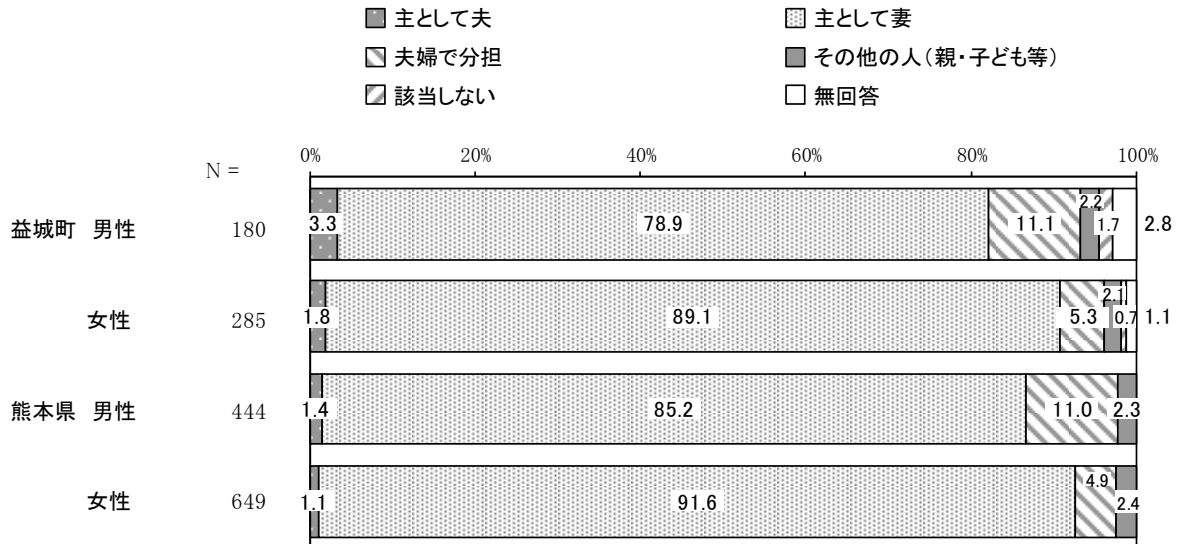


2. 食事の支度

【性別及び県との比較（参考）】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「夫婦で分担」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「主として妻」の割合が高く、約9割となっています。

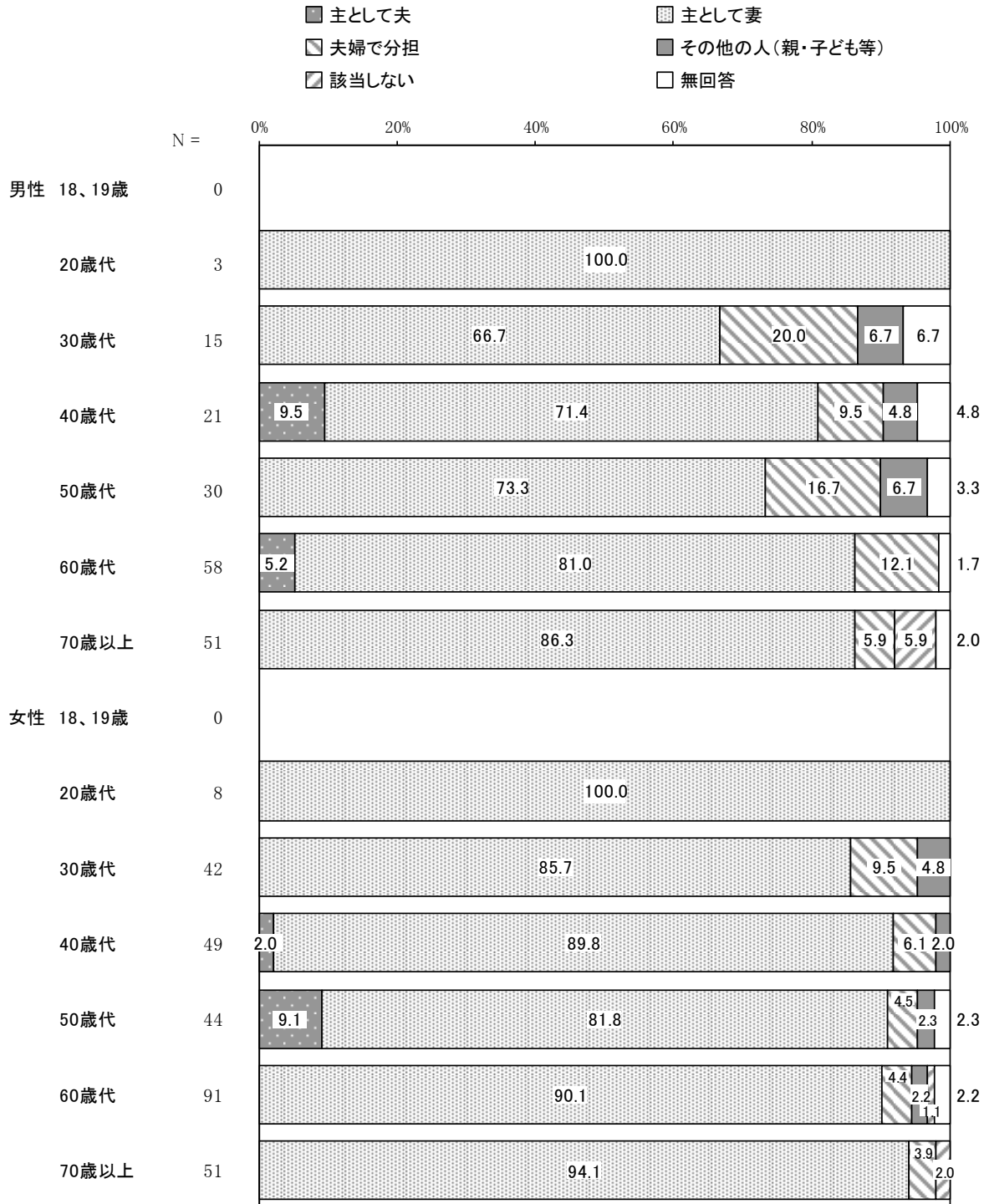
熊本県調査との比較は、対象が異なるため参考とします。



※熊本県調査は、「その他の人」「該当しない」を除外して計算しています。

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、すべての年代で、男性に比べ、女性で「主として妻」の割合が高く、特に70歳以上で9割台半ばとなっています。また、他に比べ、男性30歳代で「夫婦で分担」の割合が高く、2割となっています。

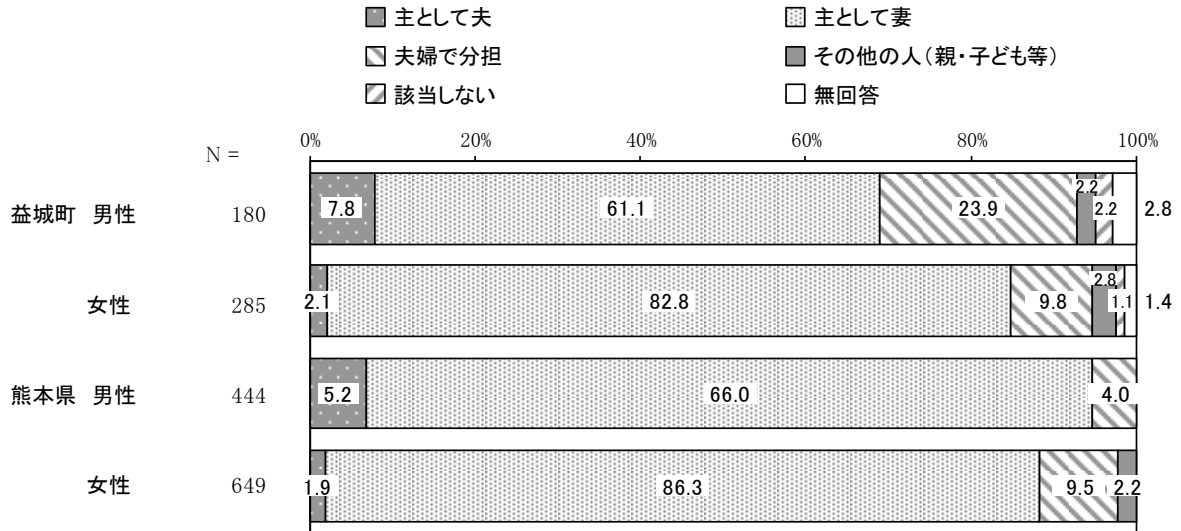


3. 食事のあとかたづけ・食器洗い

【性別及び県との比較（参考）】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「主として夫」「夫婦で分担」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「主として妻」の割合が高く、約8割となっています。

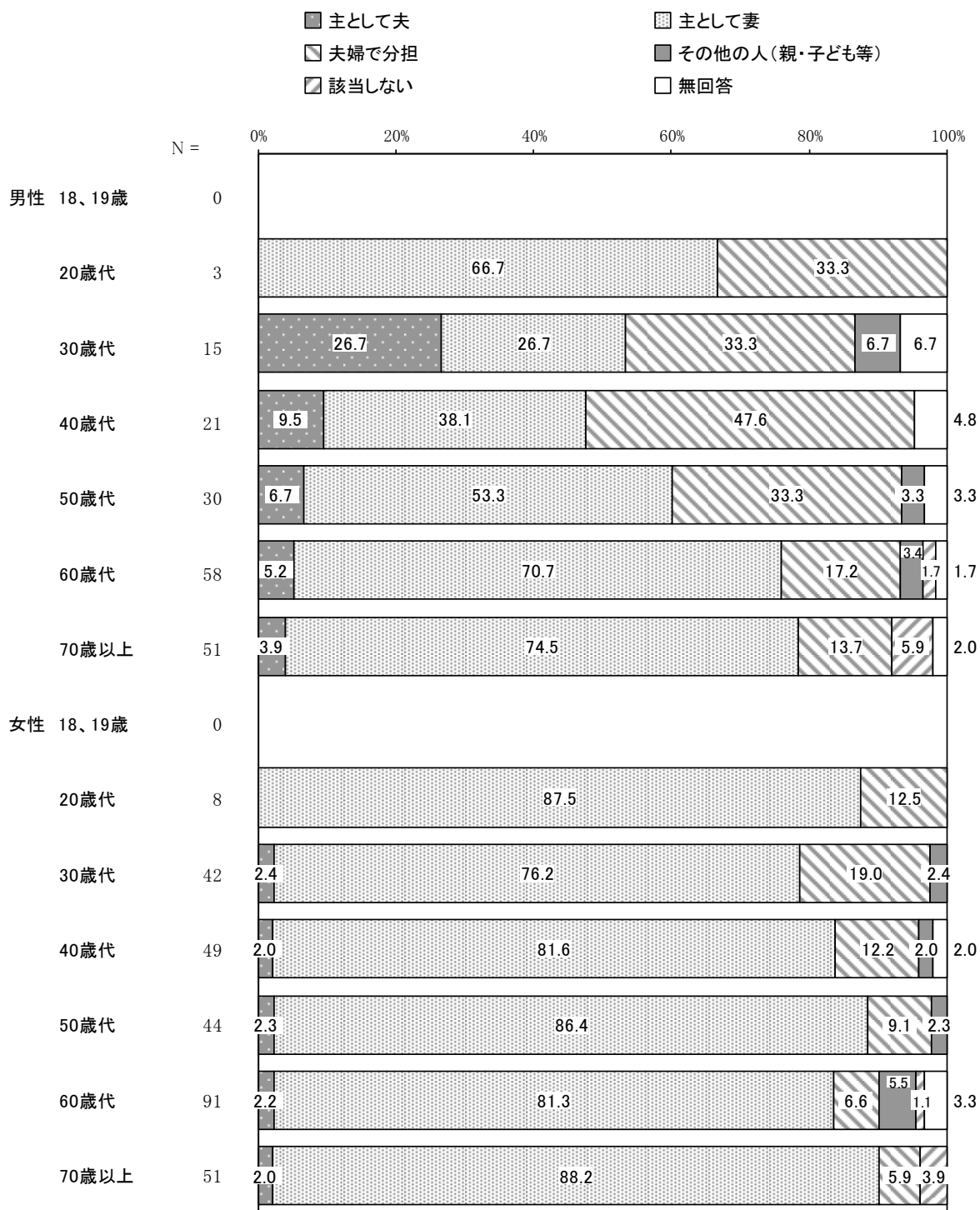
熊本県調査と比較すると、男性で熊本県に比べ「夫婦で分担」の割合が高く、約2割となっています。



※熊本県調査は、「その他の人」「該当しない」を除外して計算しています。

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、すべての年代で、男性に比べ、女性で「主として妻」の割合が高く、特に女性の70歳以上で約9割となっています。また、他に比べ、男性の30歳代で「主として夫」の割合が、男性の40歳代で「夫婦で分担」の割合が高くなっています。

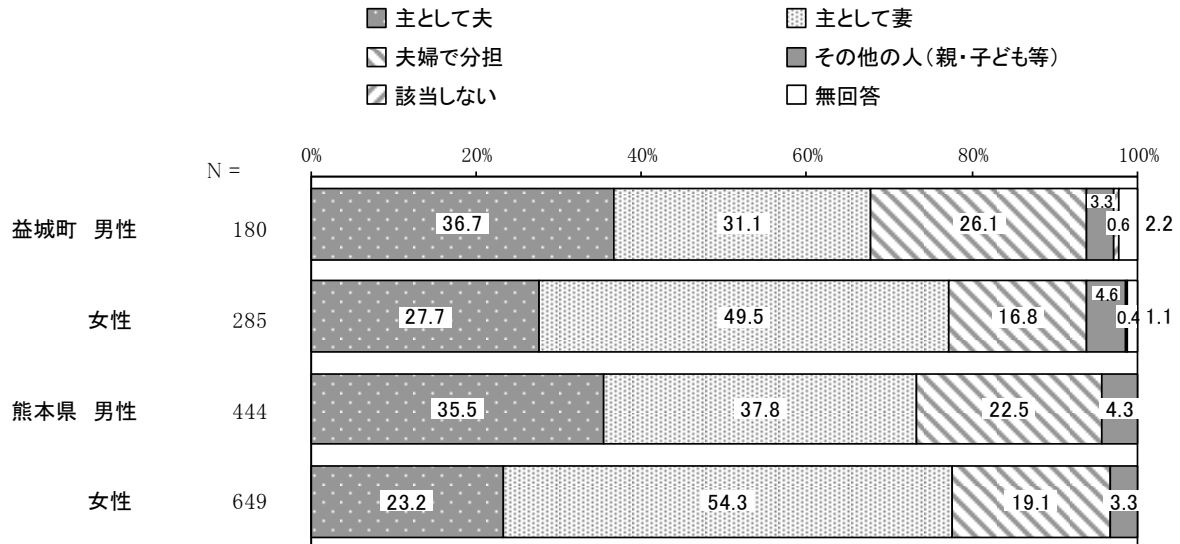


4. ごみ出し

【性別及び県との比較（参考）】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「主として夫」「夫婦で分担」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「主として妻」の割合が高く、約5割となっています。

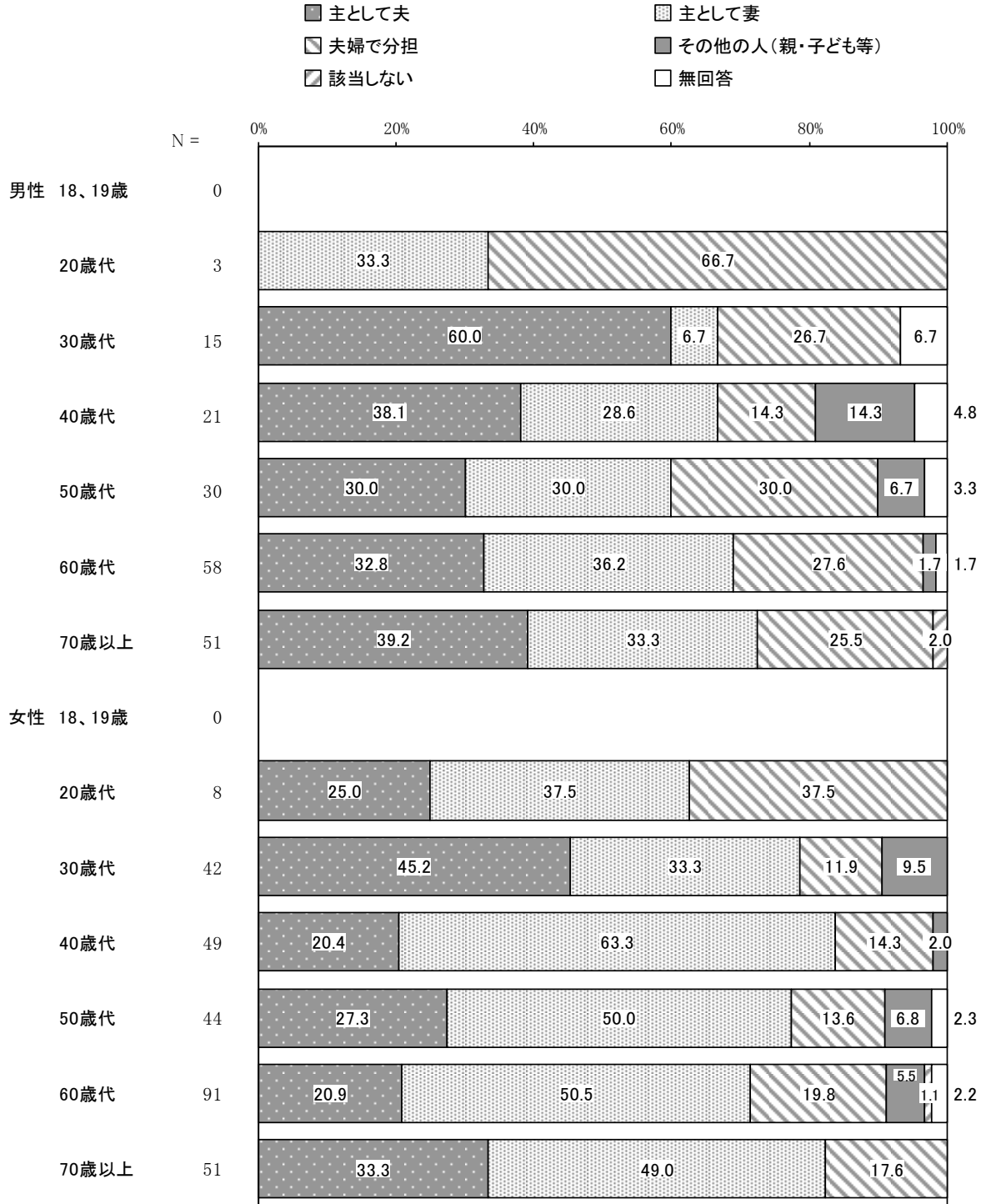
熊本県調査との比較は、対象が異なるため参考とします。



※熊本県調査は、「その他の人」「該当しない」を除外して計算しています。

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、すべての年代で、男性に比べ、女性で「主として妻」の割合が高く、特に女性の40歳代で約6割となっています。また、男性の30歳代で「主として夫」の割合が高く、6割となっています。

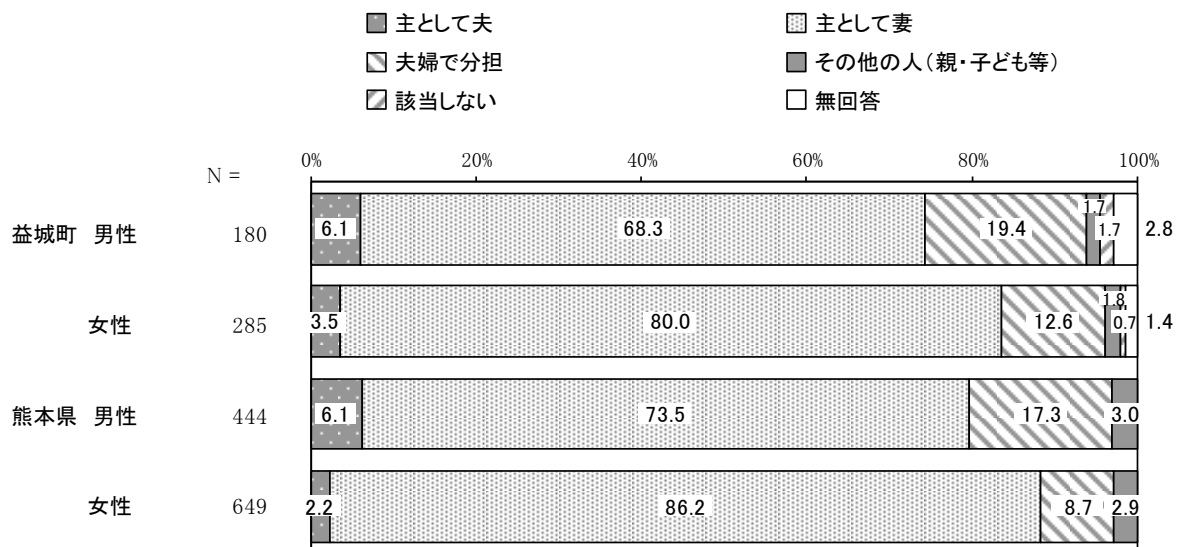


5. 洗濯

【性別及び県との比較（参考）】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「夫婦で分担」の割合が高く、約2割となっています。また、男性に比べ、女性で「主として妻」の割合が高く、8割となっています。

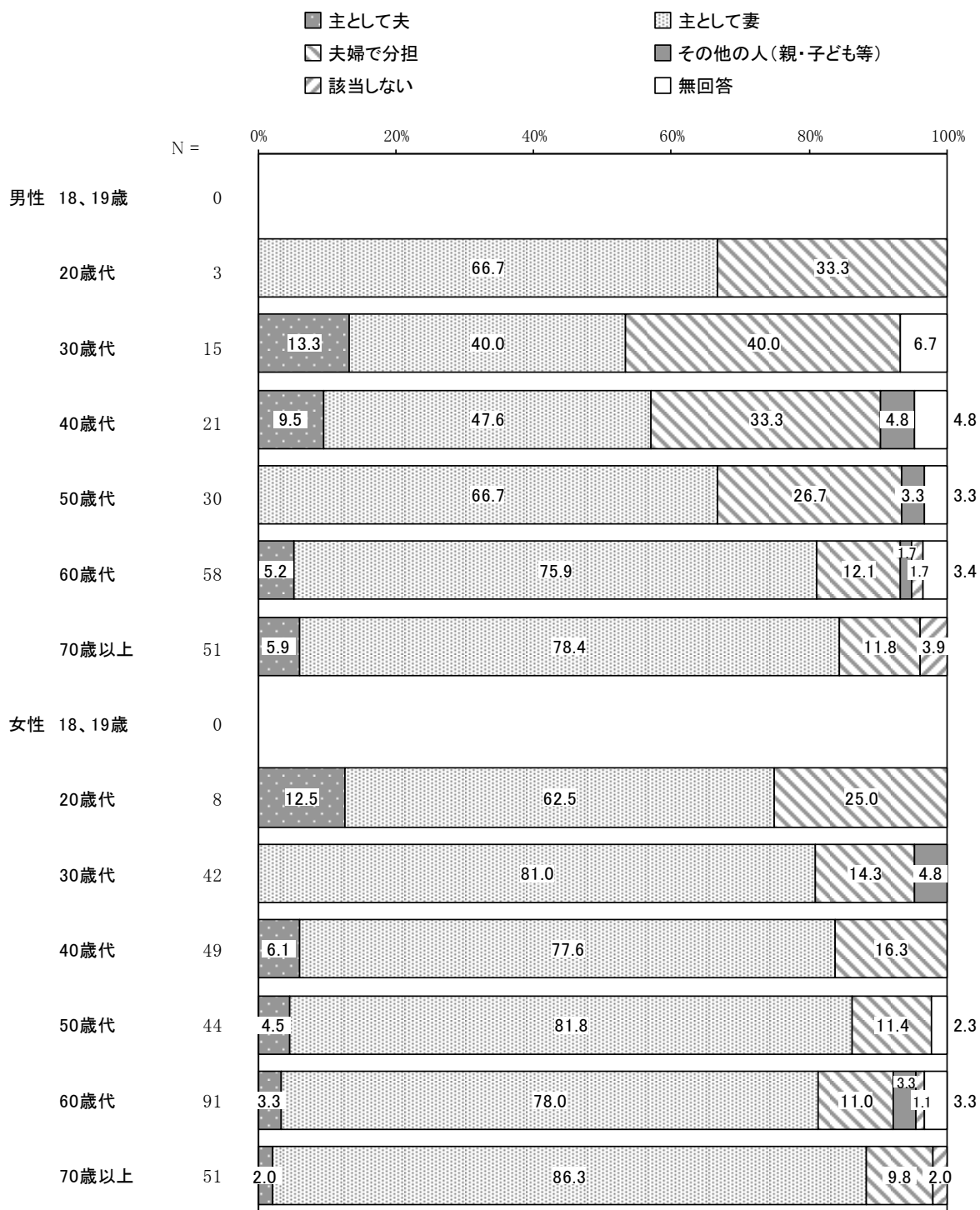
熊本県調査との比較は、対象が異なるため参考とします。



※熊本県調査は、「その他の人」「該当しない」を除外して計算しています。

【性・年齢別】

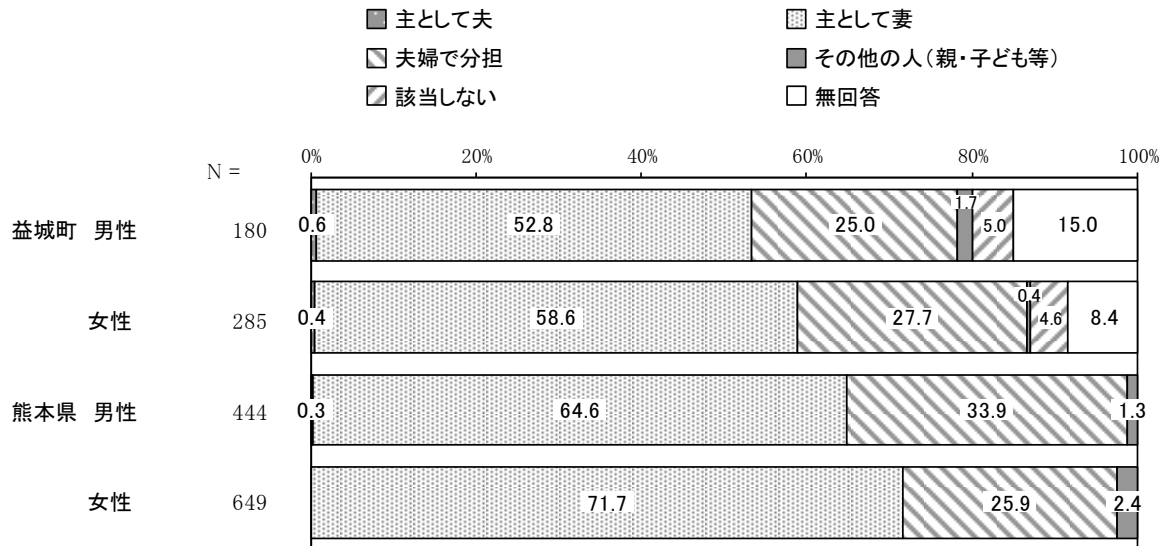
性・年齢別で見ると、すべての年代で、男性に比べ、女性で「主として妻」の割合が高く、特に女性の70歳以上で8割台半ばとなっています。また、男性で年齢が低くなるにつれ「夫婦で分担」の割合が高くなっており、男性の20歳代で4割となっています。



6. 育児（経験者のみ）

【性別及び県との比較（参考）】

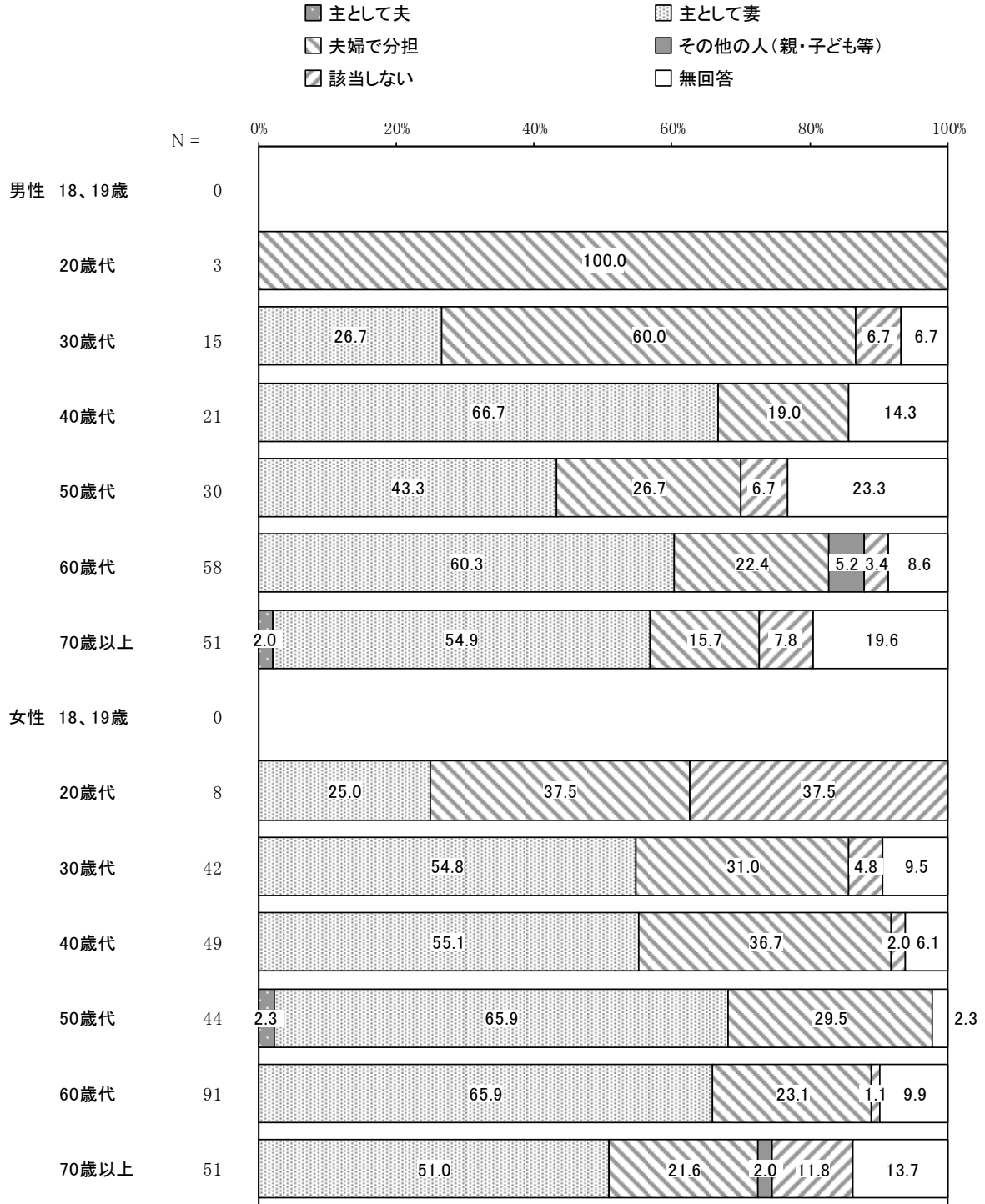
性別で見ると、男性に比べ、女性で「主として妻」の割合が高く、約6割となっています。
 熊本県調査との比較は、対象が異なるため参考とします。



※熊本県調査は、「その他の人」「該当しない」を除外して計算しています。

【性・年齢別】

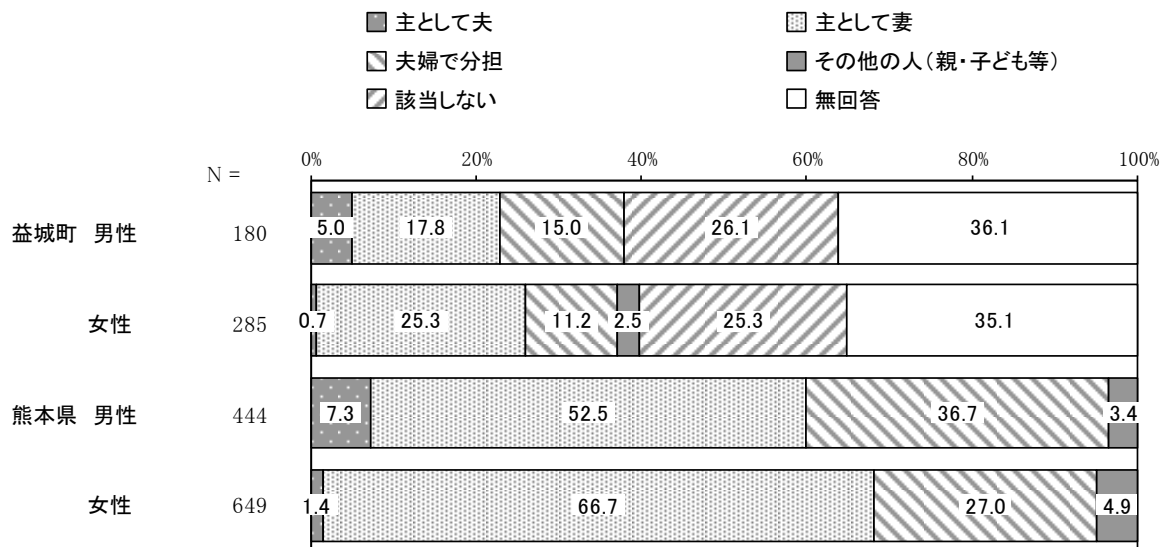
性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の40歳代、女性の50歳代、60歳代で「主として妻」の割合が高く、6割台半ばとなっています。また、男性の30歳代で「夫婦で分担」の割合が高く、6割となっています。



7. 介護（経験者のみ）

【性別及び県との比較（参考）】

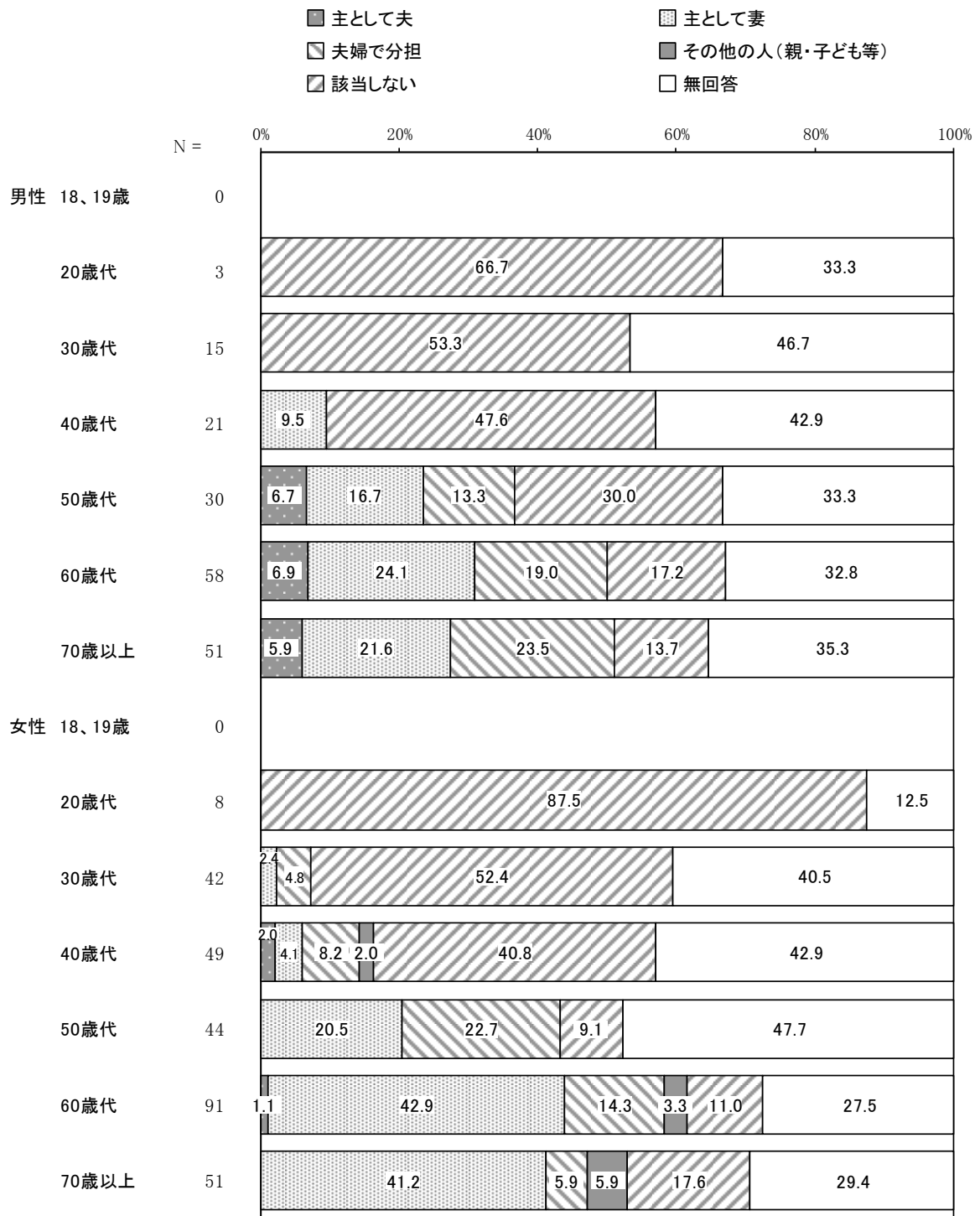
性別で見ると、男性に比べ、女性で「主として妻」の割合が高く、2割台半ばとなっています。
 熊本県調査との比較は、対象が異なるため参考とします。



※熊本県調査は、「その他の人」「該当しない」を除外して計算しています。

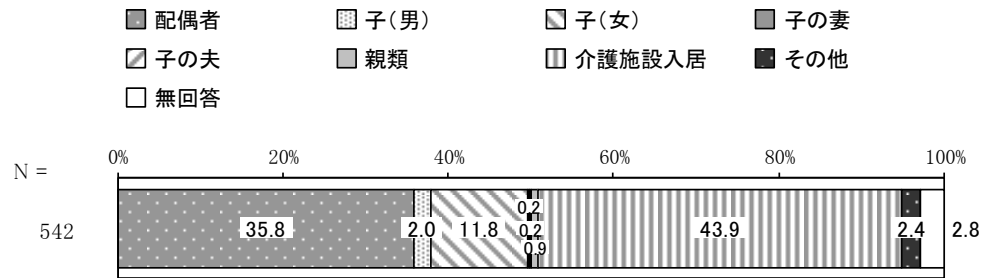
【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男女とも年齢が高くなるにつれ「主として妻」の割合が高くなっており、特に女性の60歳以上で約4割となっています。



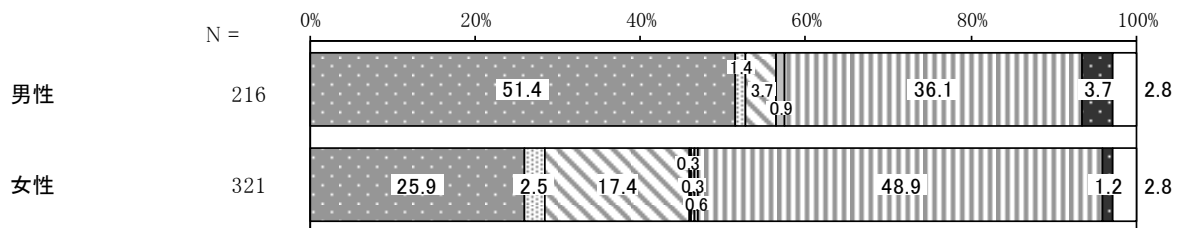
問7 あなたがもし高齢などの理由で、自分で身の回りのことができなくなった時は、誰に介護してもらいたいですか。(〇は1つ)

「介護施設入居」の割合が43.9%と最も高く、次いで「配偶者」の割合が35.8%、「子(女)」の割合が11.8%となっています。



【性別】

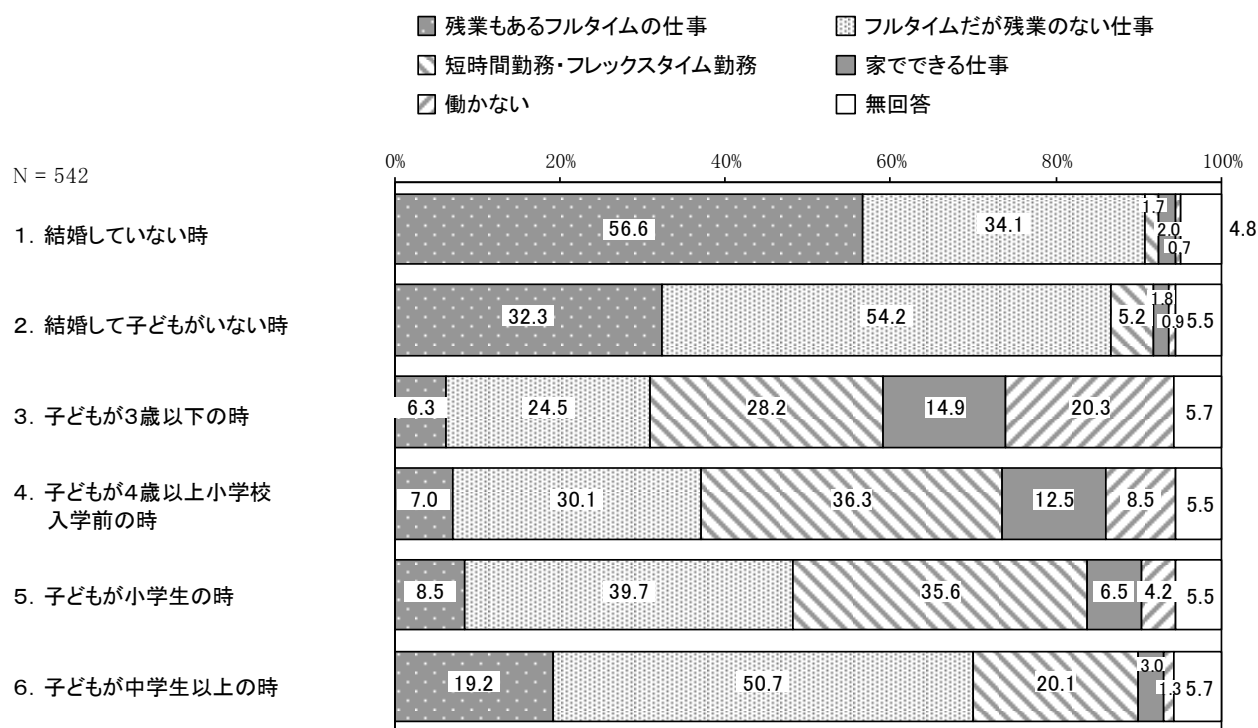
性別でみると、女性に比べ、男性で「配偶者」の割合が高く、約5割となっています。また、男性に比べ、女性で「子(女)」「介護施設入居」の割合が高くなっています。



4 働き方や社会参画について

問8 あなたは、結婚や子どもの状況によって、どのような働き方が望ましいと思いますか。(1～6について、○は1つ)

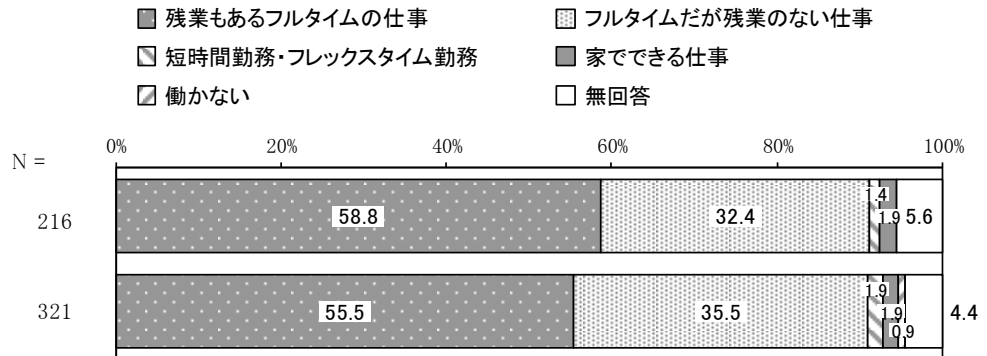
1. 結婚していない時で「残業もあるフルタイムの仕事」の割合が、2. 結婚して子どもがいない時で「フルタイムだが残業のない仕事」の割合が高く、5割台半ばとなっています。また、4. 子どもが4歳以上小学校入学前の時、5. 子どもが小学生の時で「短時間勤務・フレックスタイム勤務」の割合が高く、3割台半ばとなっています。



1. 結婚していない時

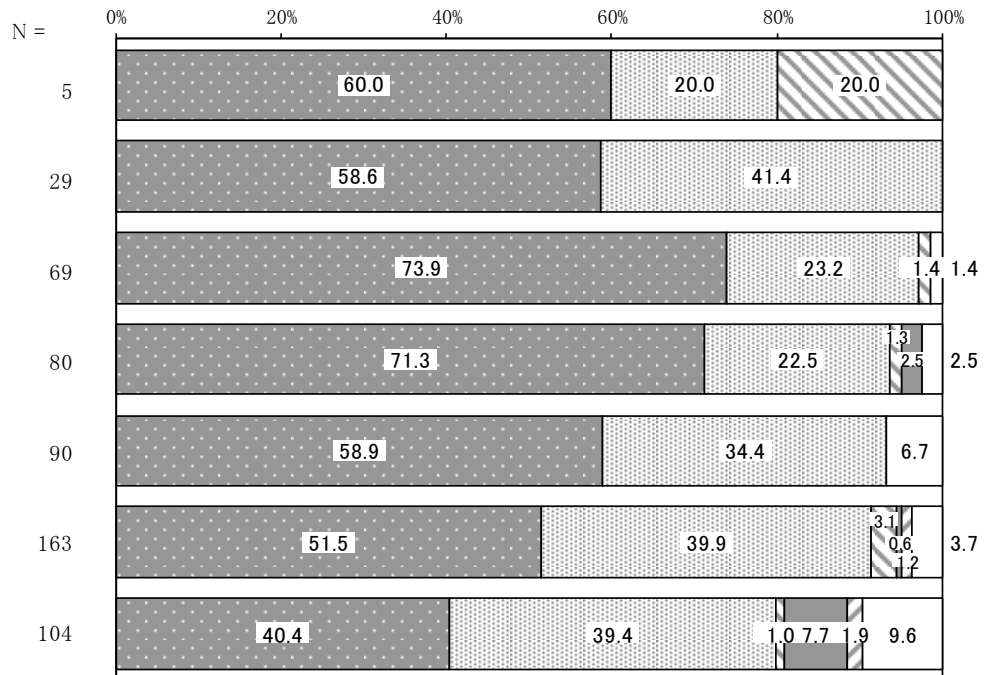
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年齢別】

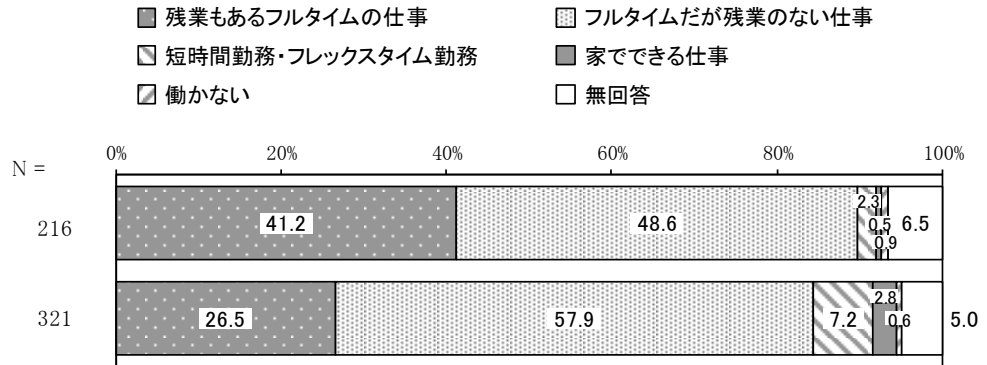
年齢別でみると、他の年齢に比べ、30歳代、40歳代で「残業もあるフルタイムの仕事」の割合が高く、約7割となっています。また、20歳代、60歳以上で「フルタイムだが残業のない仕事」の割合が高く、約4割となっています。



2. 結婚して子どもがいない時

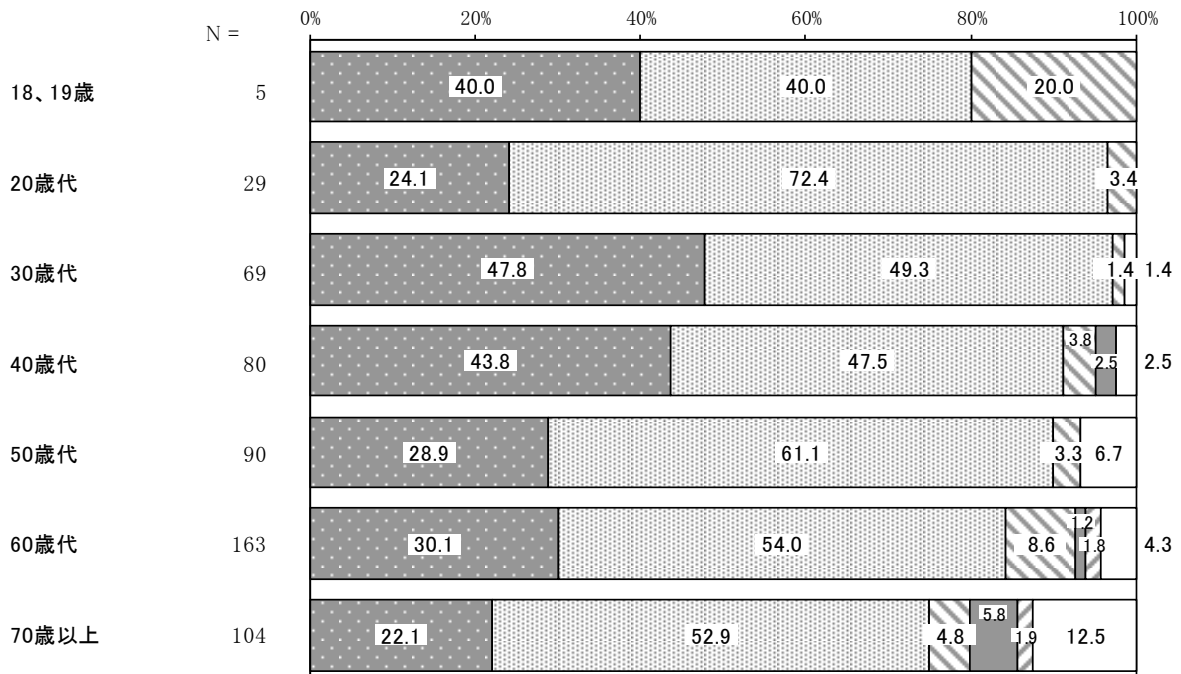
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「残業もあるフルタイムの仕事」の割合が高く、約4割となっています。また、男性に比べ、女性で「フルタイムだが残業のない仕事」の割合が高く、約6割となっています。



【年齢別】

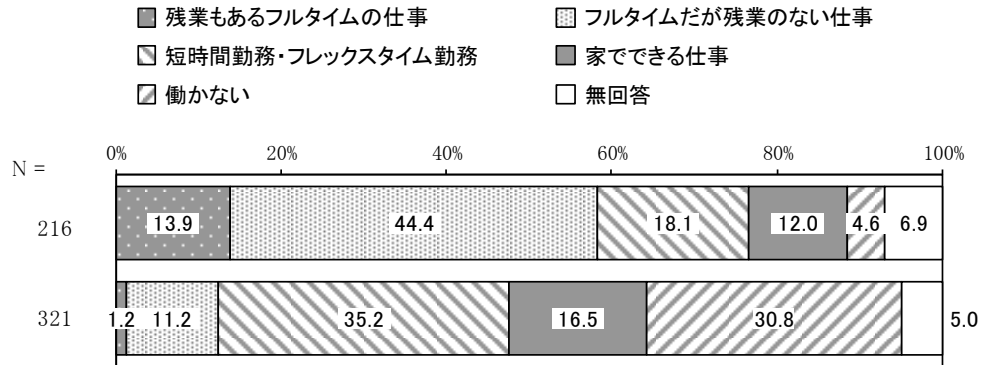
年齢別で見ると、他の年齢に比べ、30歳代で「残業もあるフルタイムの仕事」の割合が高く、約5割となっています。また、20歳代で「フルタイムだが残業のない仕事」の割合が高く、約7割となっています。



3. 子どもが3歳以下の時

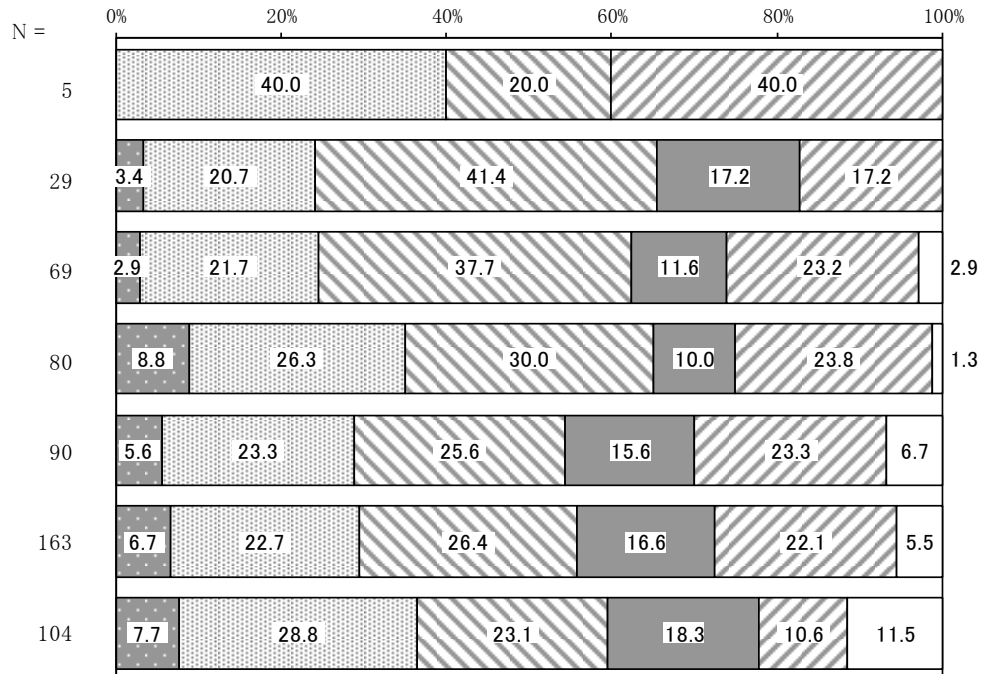
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「残業もあるフルタイムの仕事」「フルタイムだが残業のない仕事」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「短時間勤務・フレックスタイム勤務」「働かない」の割合が高くなっています。



【年齢別】

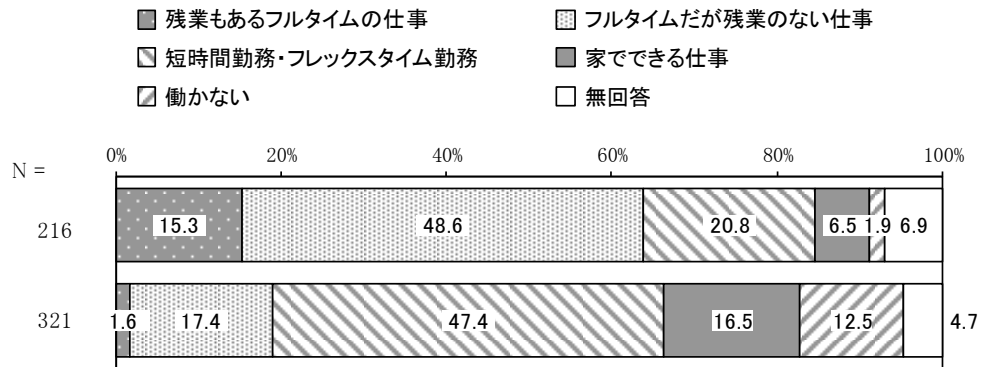
年齢別でみると、年齢が低くなるにつれ「短時間勤務・フレックスタイム勤務」の割合が高くなる傾向がみられ、20歳代、30歳代で約4割となっています。



4. 子どもが4歳以上小学校入学前の時

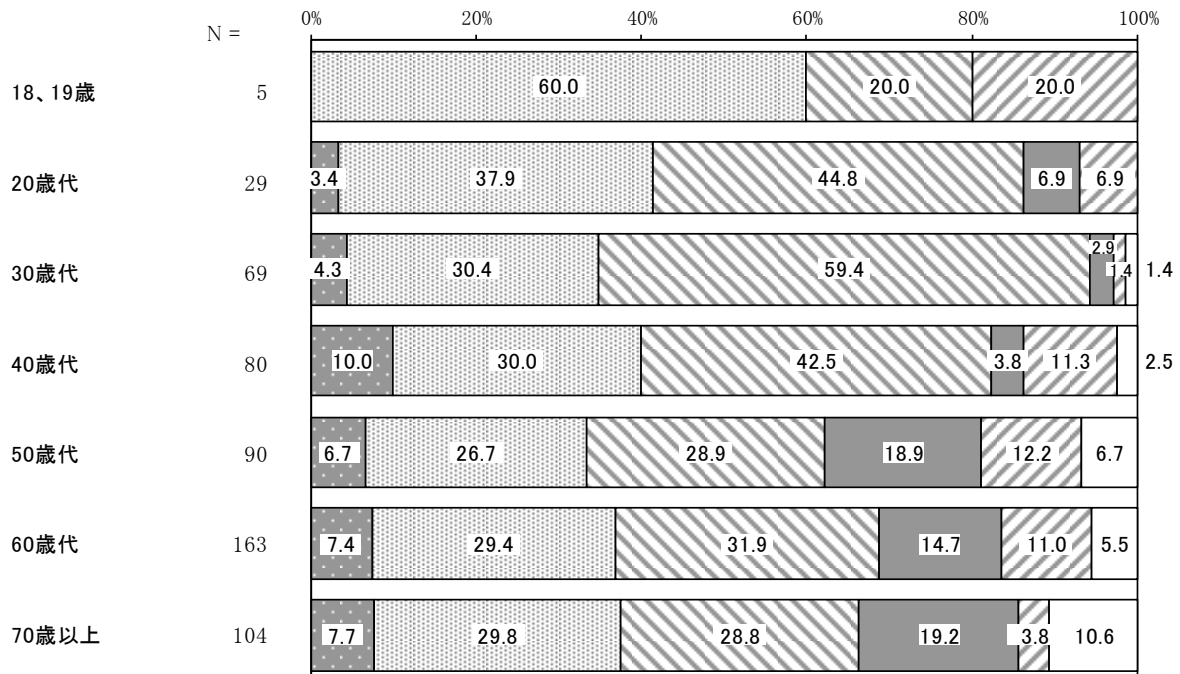
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「残業もあるフルタイムの仕事」「フルタイムだが残業のない仕事」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「短時間勤務・フレックスタイム勤務」「家でできる仕事」「働かない」の割合が高くなっています。



【年齢別】

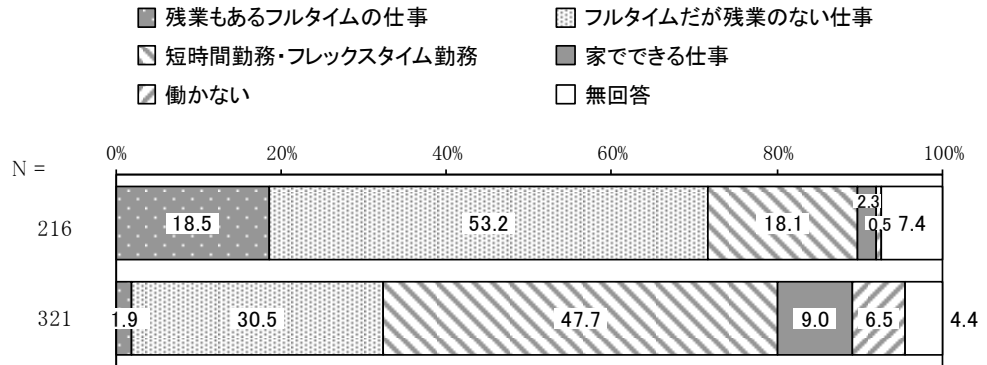
年齢別で見ると、他の年齢に比べ、30歳代で「短時間勤務・フレックスタイム勤務」の割合が高く、約6割となっています。また、20歳代で「フルタイムだが残業のない仕事」の割合が高く、約4割となっています。



5. 子どもが小学生の時

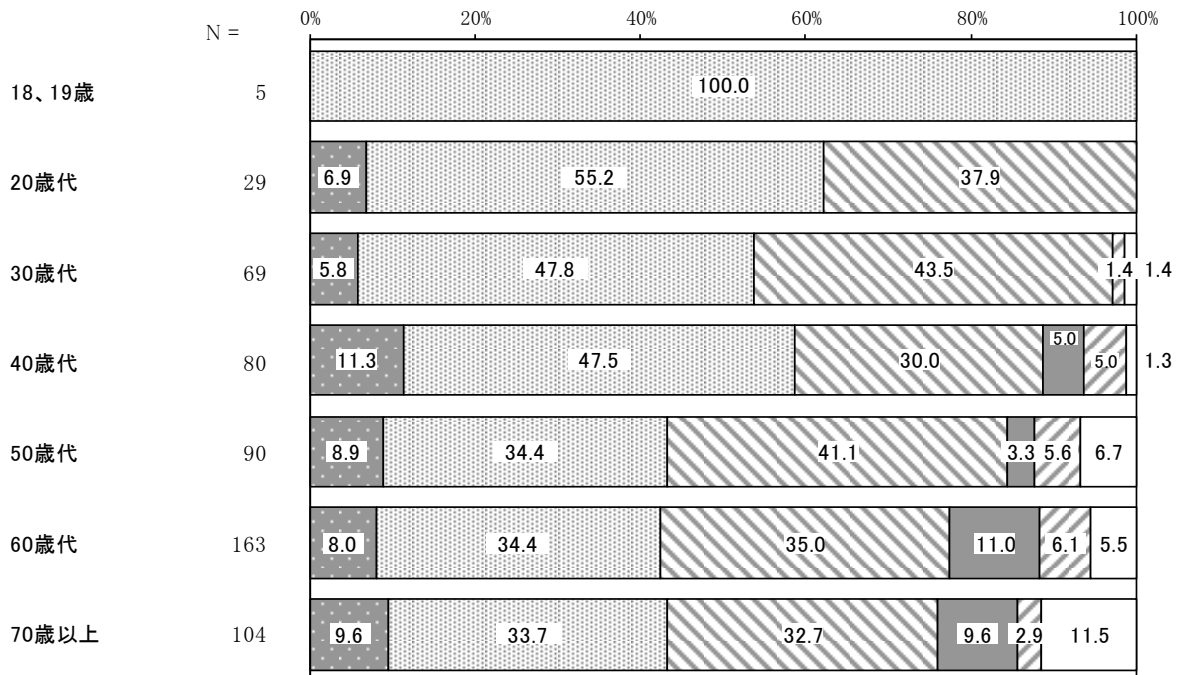
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「残業もあるフルタイムの仕事」「フルタイムだが残業のない仕事」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「短時間勤務・フレックスタイム勤務」「家でできる仕事」「働かない」の割合が高くなっています。



【年齢別】

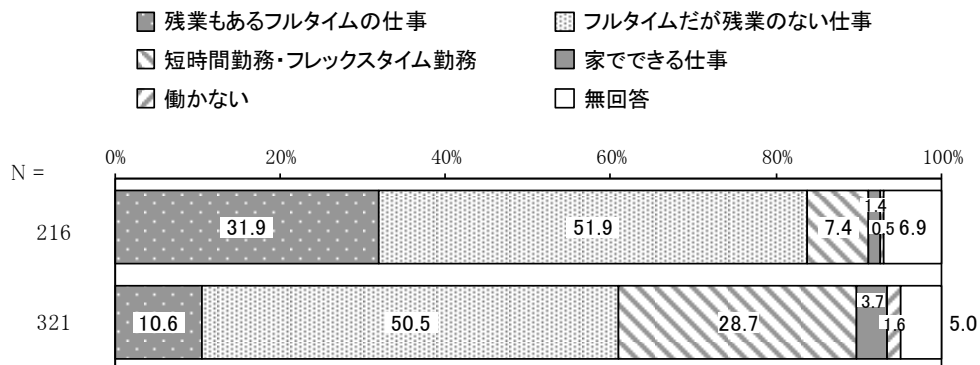
年齢別で見ると、年齢が低くなるにつれ「フルタイムだが残業のない仕事」の割合が高くなる傾向がみられ、20歳代で5割台半ばとなっています。また、他の年齢に比べ、30歳代、50歳代で「短時間勤務・フレックスタイム勤務」の割合が高く、約4割となっています。



6. 子どもが中学生以上の時

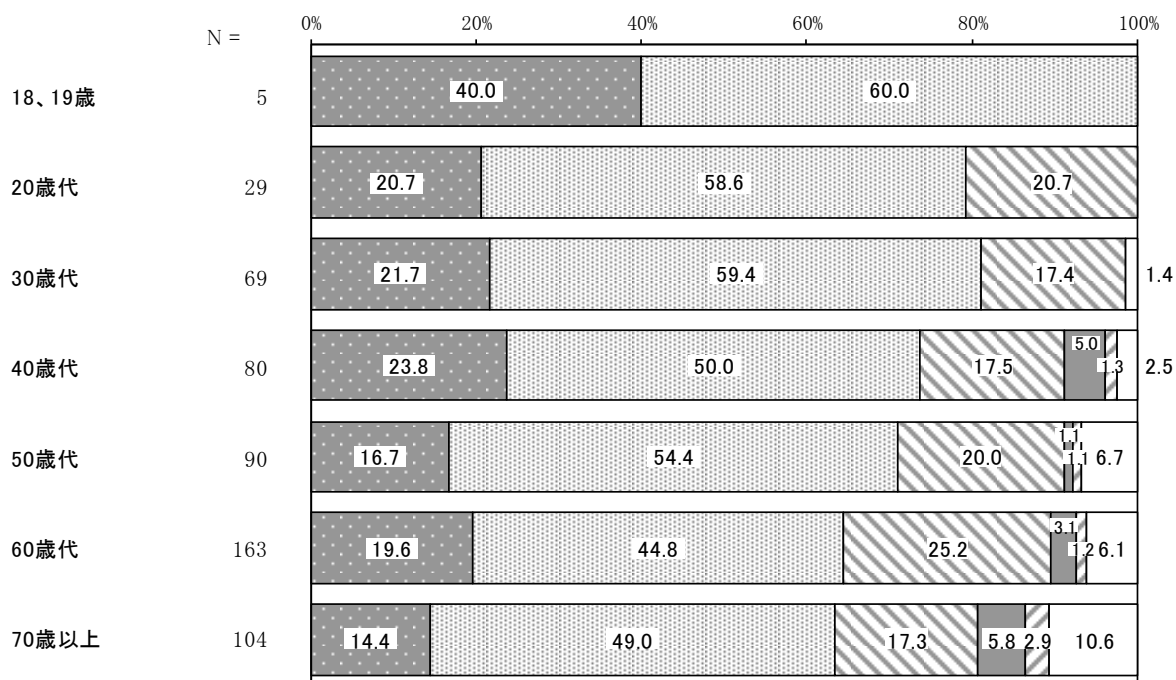
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「残業もあるフルタイムの仕事」の割合が高く、約3割と なっています。また、男性に比べ、女性で「短時間勤務・フレックスタイム勤務」の割合が高く、 約3割と なっています。



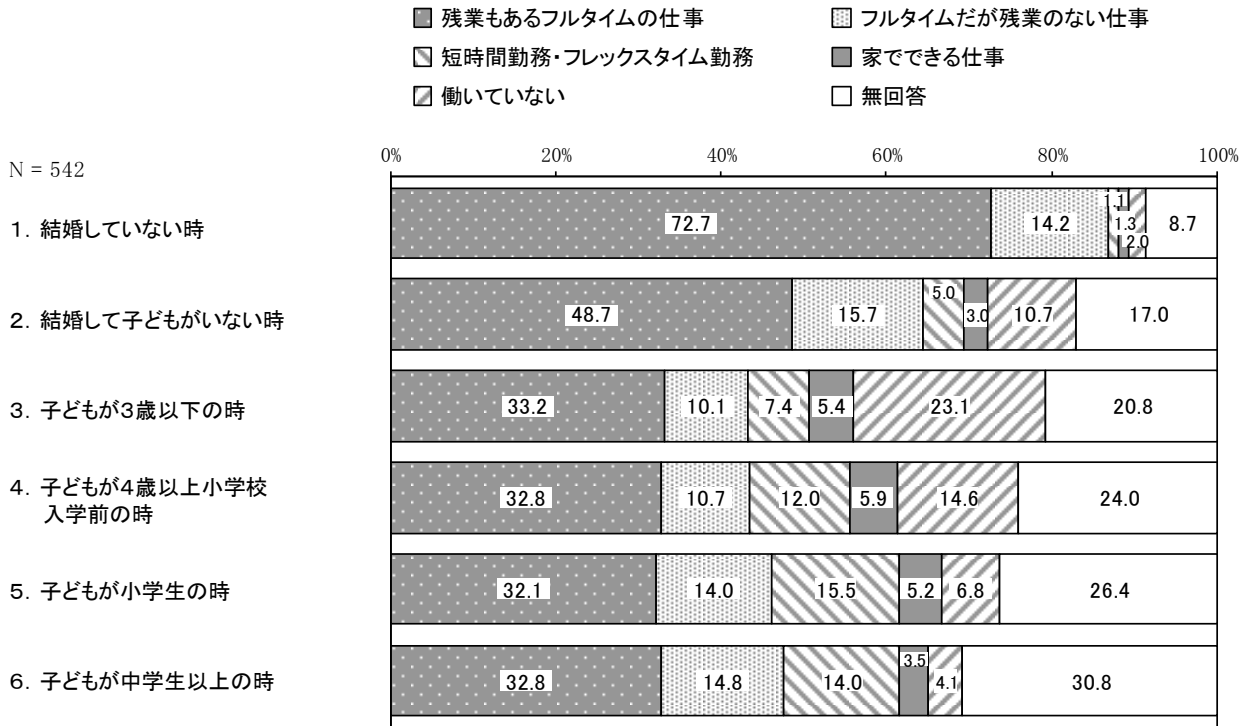
【年齢別】

年齢別で見ると、他の年齢に比べ、20歳代、30歳代で「フルタイムだが残業のない仕事」の割合が高く、約6割と なっています。



問9 あなたは、結婚や子どもの状況によって、主にどのような働き方をされてきましたか。(1～6について、○は1つ。経験していない項目については空欄)

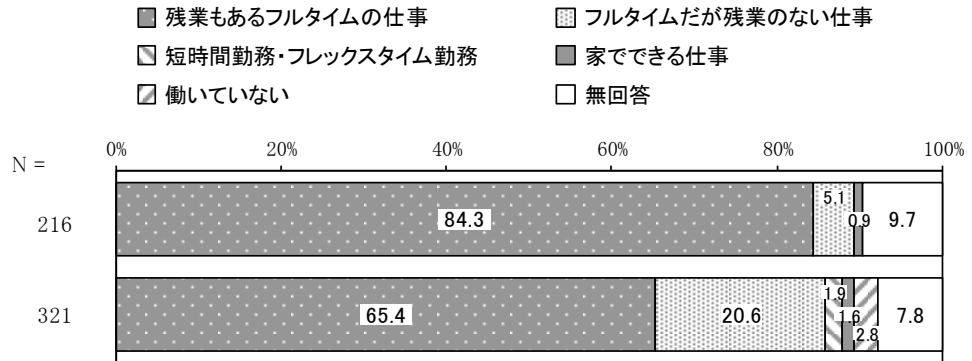
1. 結婚していない時で「残業もあるフルタイムの仕事」の割合が高く、約7割となっています。また、3. 子どもが3歳以下の時で「働いていない」の割合が高く、約2割となっています。



1. 結婚していない時

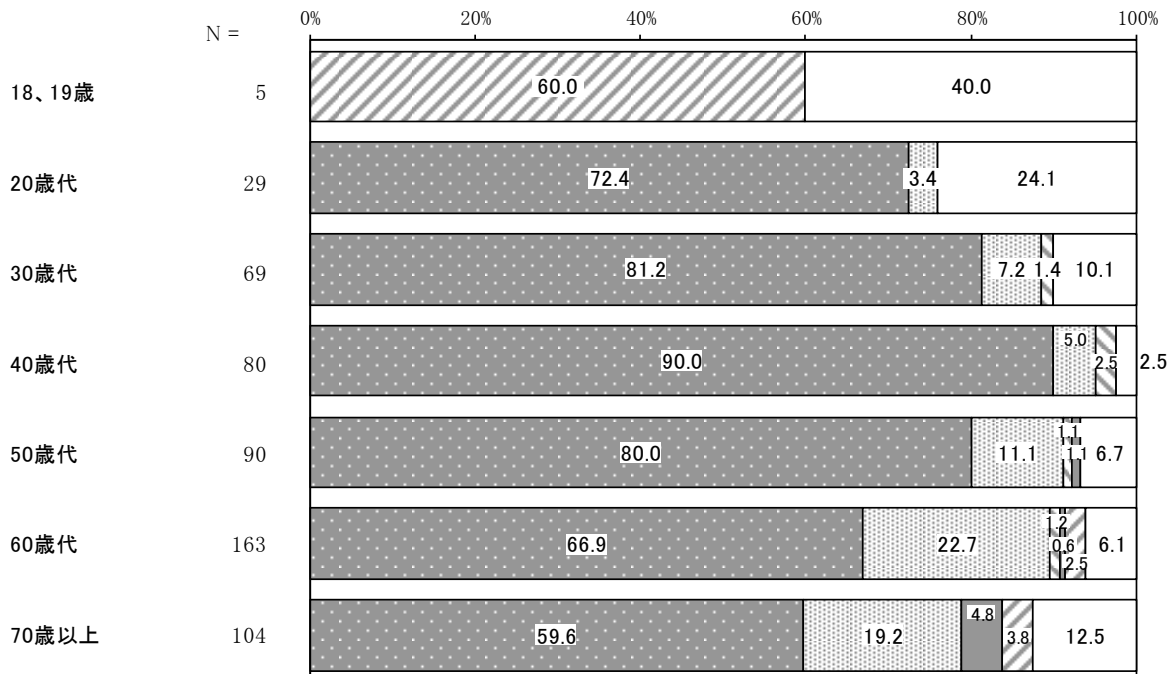
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「残業もあるフルタイムの仕事」の割合が高く、8割台半ばとなっています。また、男性に比べ、女性で「フルタイムだが残業のない仕事」の割合が高く、約2割となっています。



【年齢別】

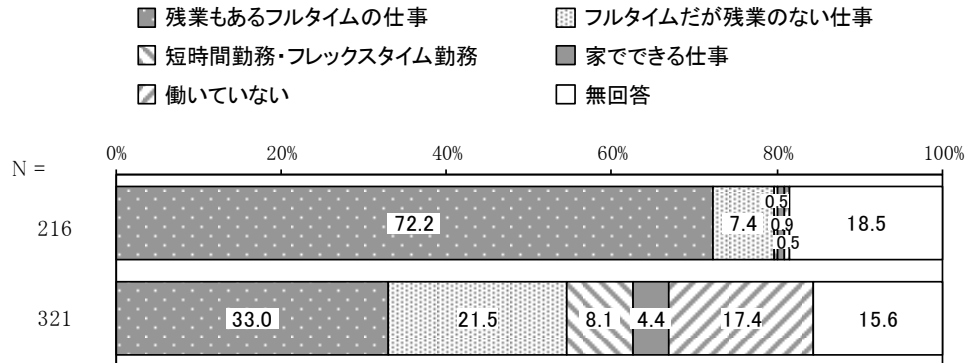
年齢別で見ると、年齢が高くなるにつれ「フルタイムだが残業のない仕事」の割合が高くなる傾向がみられ、60歳以上で約2割となっています。また、他の年齢に比べ、40歳代で「残業もあるフルタイムの仕事」の割合が高く、9割となっています。



2. 結婚して子どもがいない時

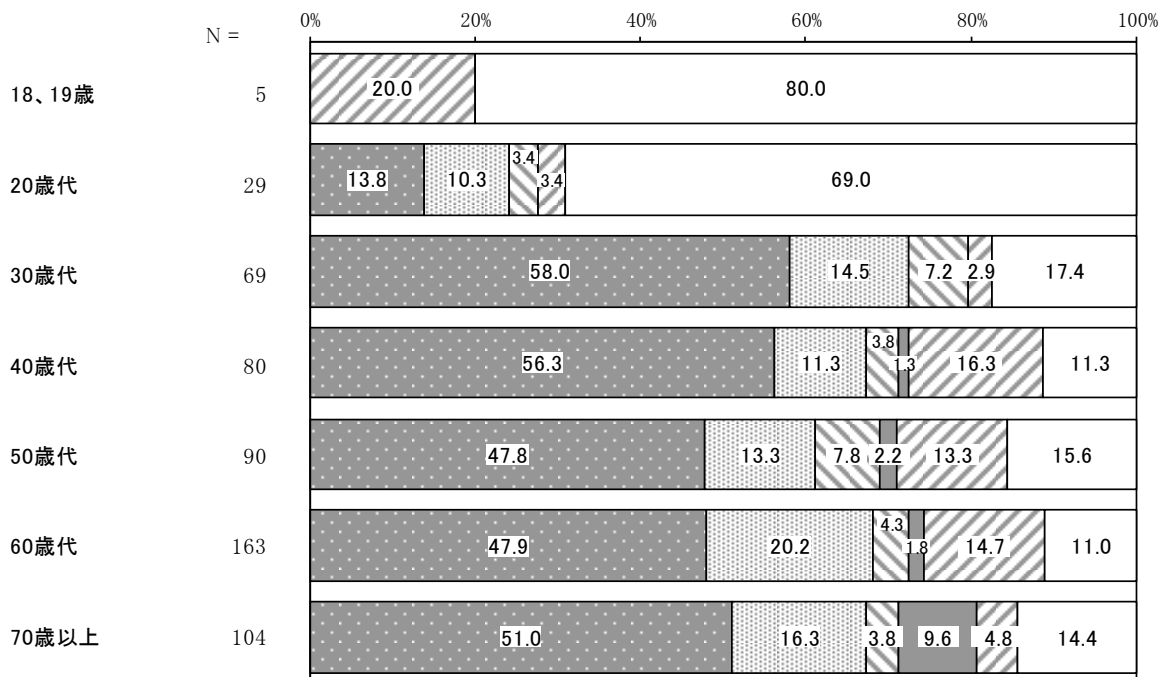
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「残業もあるフルタイムの仕事」の割合が高く、約7割となっています。また、男性に比べ、女性で「フルタイムだが残業のない仕事」「短時間勤務・フレックスタイム勤務」「働いていない」の割合が高くなっています。



【年齢別】

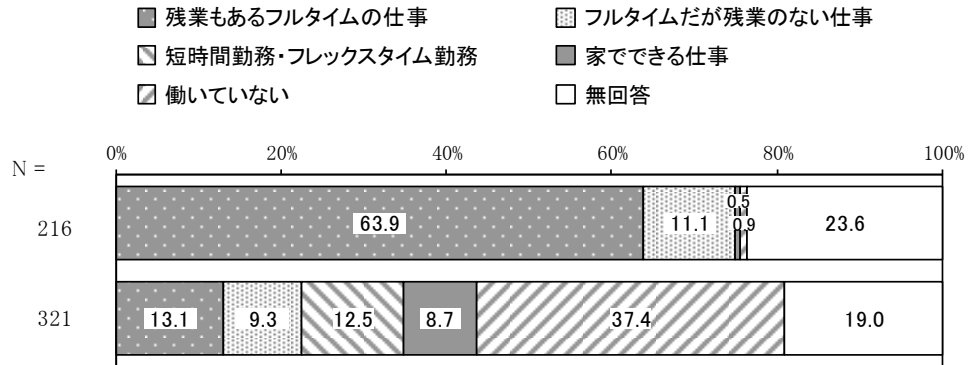
年齢別で見ると、他の年齢に比べ、30歳代、40歳代で「残業もあるフルタイムの仕事」の割合が高く、約6割となっています。



3. 子どもが3歳以下の時

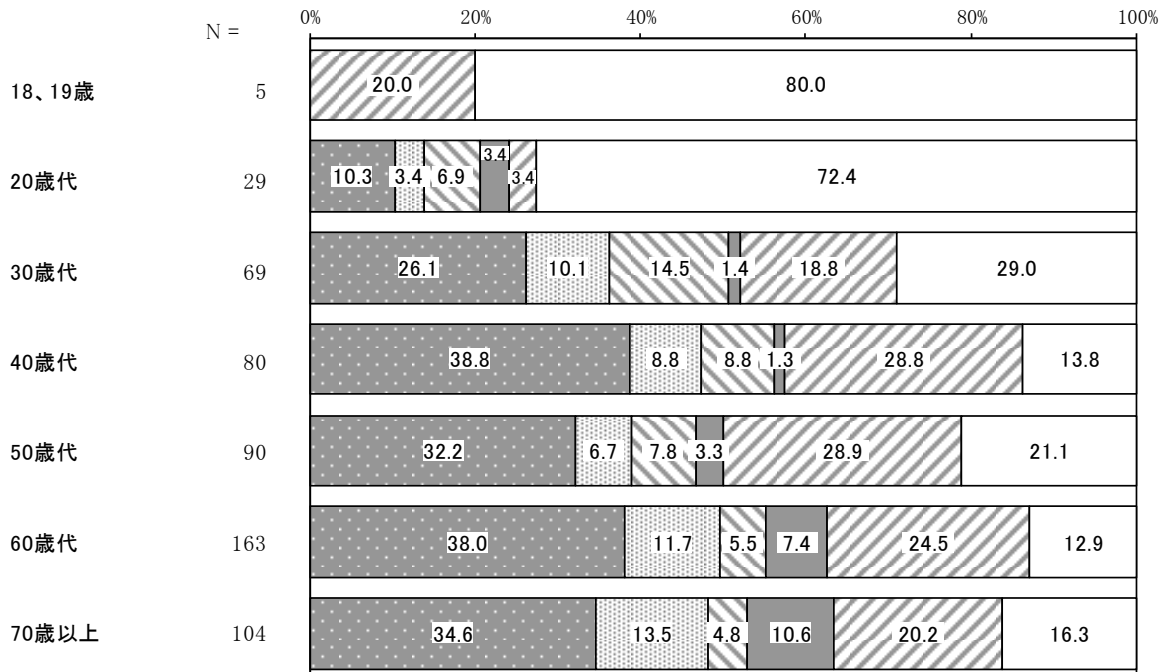
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「残業もあるフルタイムの仕事」の割合が高く、約6割となっています。また、男性に比べ、女性で「短時間勤務・フレックスタイム勤務」「家でできる仕事」「働いていない」の割合が高くなっています。



【年齢別】

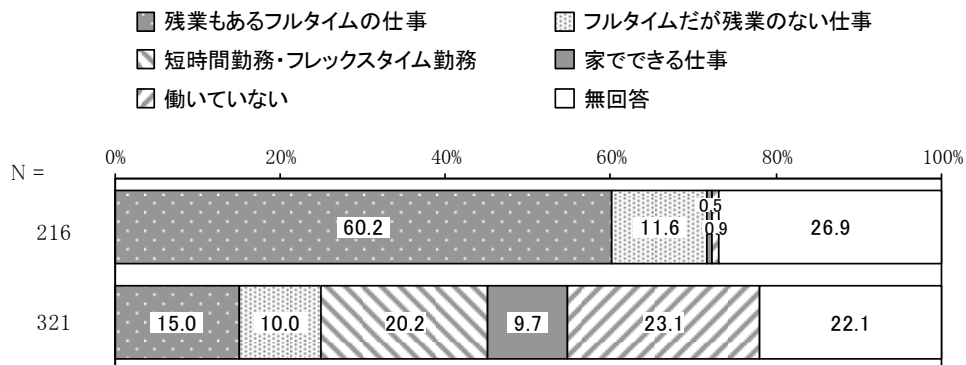
年齢別で見ると、他の年齢に比べ、40歳代、60歳代で「残業もあるフルタイムの仕事」の割合が高く、約4割となっています。また、40歳代、50歳代で「働いていない」の割合が高く、約3割となっています。



4. 子どもが4歳以上小学校入学前の時

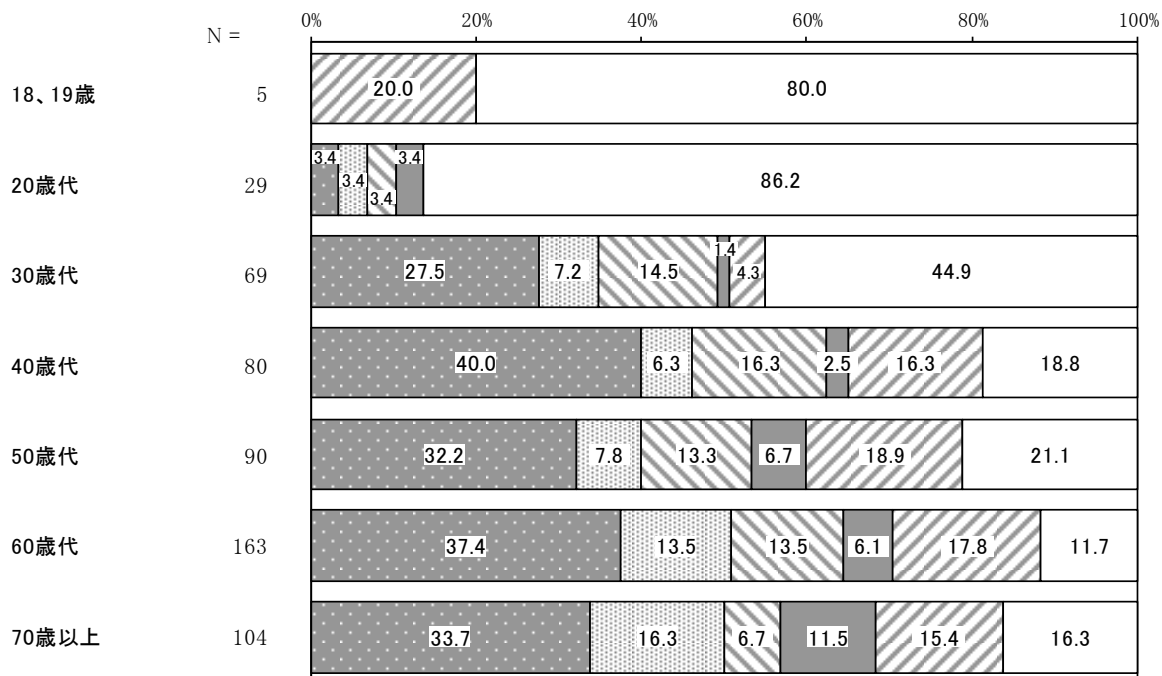
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「残業もあるフルタイムの仕事」の割合が高く、約6割となっています。また、男性に比べ、女性で「短時間勤務・フレックスタイム勤務」「家でできる仕事」「働いていない」の割合が高くなっています。



【年齢別】

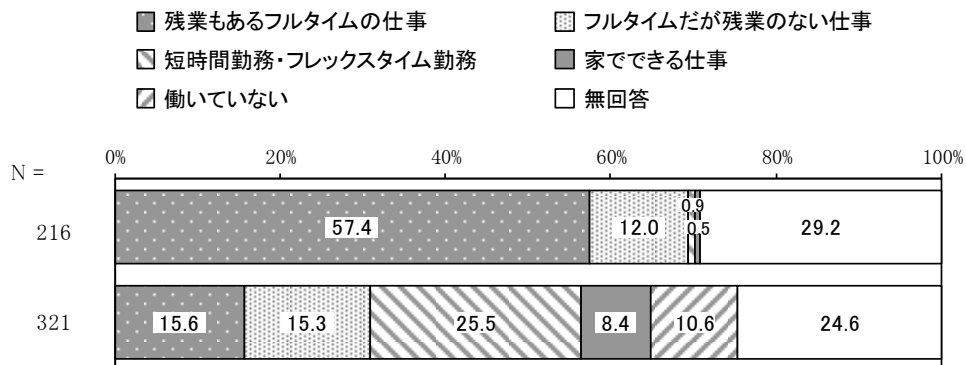
年齢別で見ると、他の年齢に比べ、40歳代、60歳代で「残業もあるフルタイムの仕事」の割合が高く、約4割となっています。



5. 子どもが小学生の時

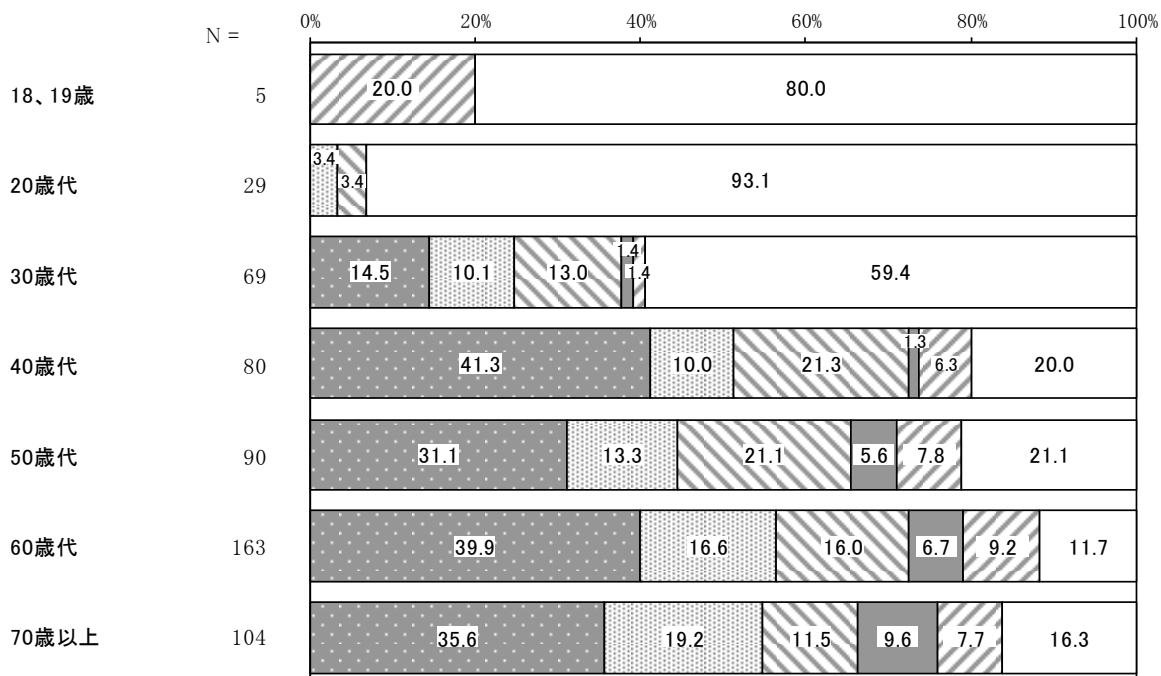
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「残業もあるフルタイムの仕事」の割合が高く、約6割となっています。また、男性に比べ、女性で「短時間勤務・フレックスタイム勤務」「家でできる仕事」「働いていない」の割合が高くなっています。



【年齢別】

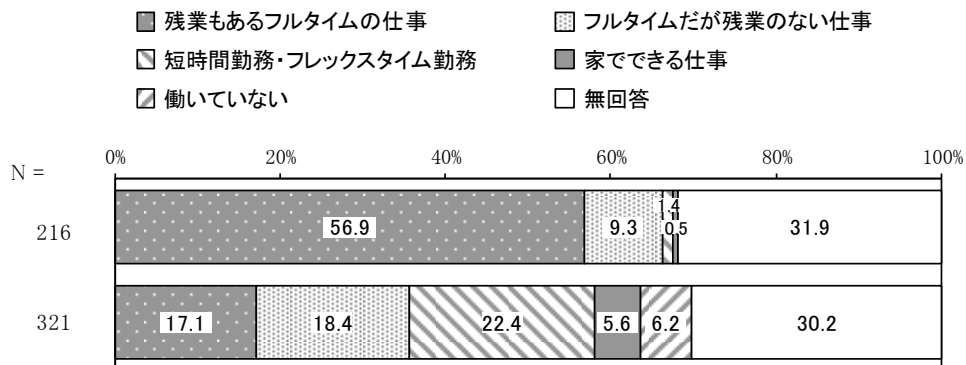
年齢別で見ると、年齢が高くなるにつれ「フルタイムだが残業のない仕事」の割合が高くなる傾向がみられ、70歳以上で約2割となっています。また、他の年齢に比べ、40歳代、60歳代で「残業もあるフルタイムの仕事」の割合が高く、約4割となっています。



6. 子どもが中学生以上の時

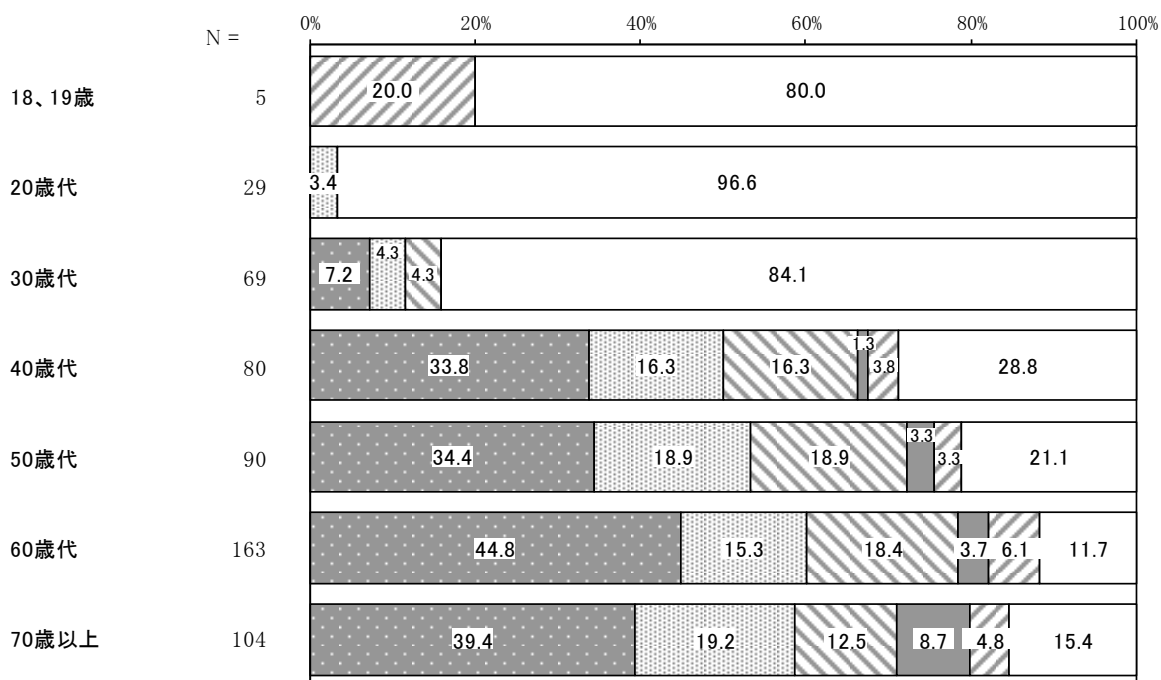
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「残業もあるフルタイムの仕事」の割合が高く、5割台半ばとなっています。また、男性に比べ、女性で「フルタイムだが残業のない仕事」「短時間勤務・フレックスタイム勤務」「家でできる仕事」「働いていない」の割合が高くなっています。



【年齢別】

年齢別でみると、他の年齢に比べ、60歳代で「残業もあるフルタイムの仕事」の割合が高く、4割台半ばとなっています。



5 仕事と家庭・地域生活の両立について

問 10 あなたの生活の中での優先度について、①希望に最も近いもの、②現実（現状）に最も近いものをそれぞれ選んでください。（〇は1つ）

①希望では、「仕事」と「家庭生活」をともに優先の割合が33.9%と最も高く、次いで「家庭生活」を優先の割合が22.0%、「仕事」も「家庭生活」も「地域・個人の生活」も全て優先の割合が18.3%となっています。

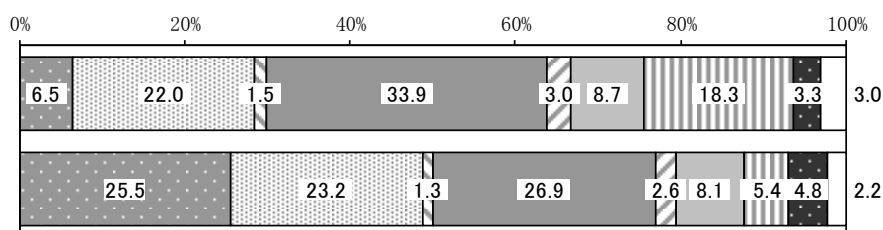
②現実では、「仕事」と「家庭生活」をともに優先の割合が26.9%と最も高く、次いで「仕事」を優先の割合が25.5%、「家庭生活」を優先の割合が23.2%となっています。

- 「仕事」を優先
- 「家庭生活」を優先
- 「地域・個人の生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」も「家庭生活」も「地域・個人の生活」も全て優先
- わからない
- 無回答

N = 542

①希望に最も近いもの

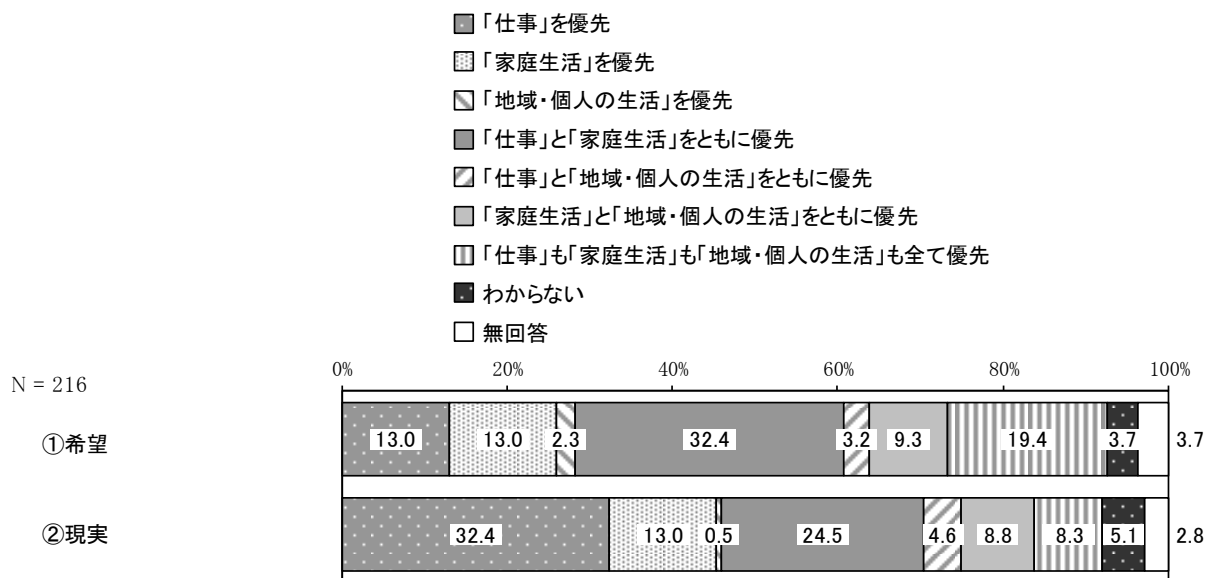
②現実（現状）に最も近いもの



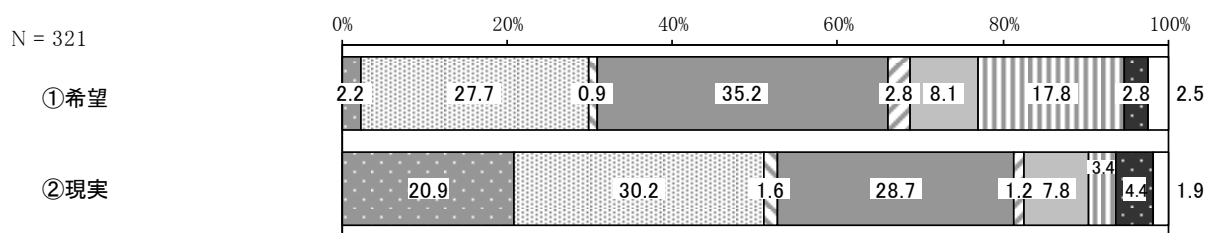
【性別】

男女とも、理想に比べ、現実で「仕事」を優先の割合が高く、「仕事」と「家庭生活」とともに優先」「仕事」も「家庭生活」も「地域・個人の生活」も全て優先の割合が低くなっています。

<男性>



<女性>



【性・年齢別】

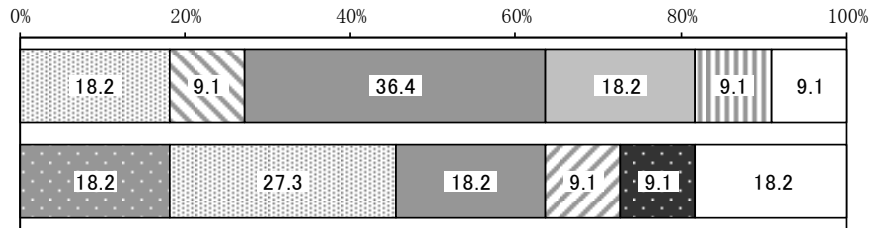
性・年齢別で見ると、男性の70歳以上を除くすべての性・年齢で、理想に比べ、現実で「仕事」を優先」の割合が高くなっています。

<男性 20歳代>

- 「仕事」を優先
- 「家庭生活」を優先
- 「地域・個人の生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」も「家庭生活」も「地域・個人の生活」も全て優先
- わからない
- 無回答

N = 11

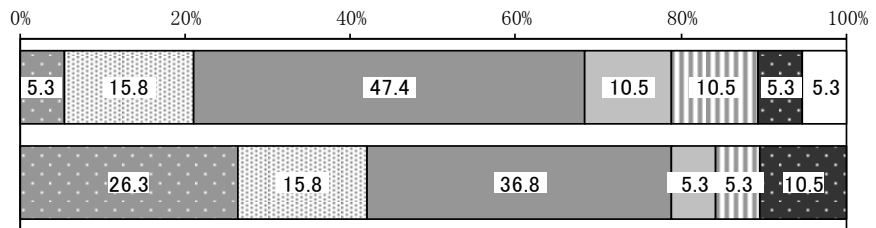
①希望



<男性 30歳代>

N = 19

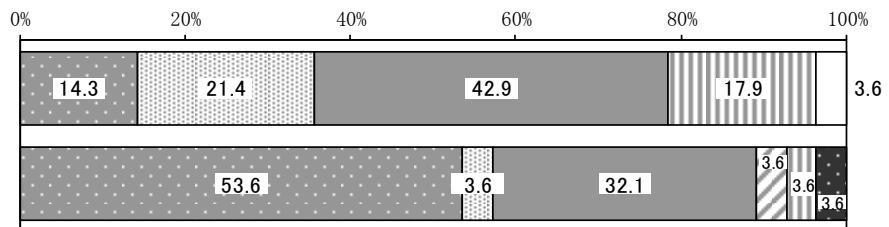
①希望



<男性 40歳代>

N = 28

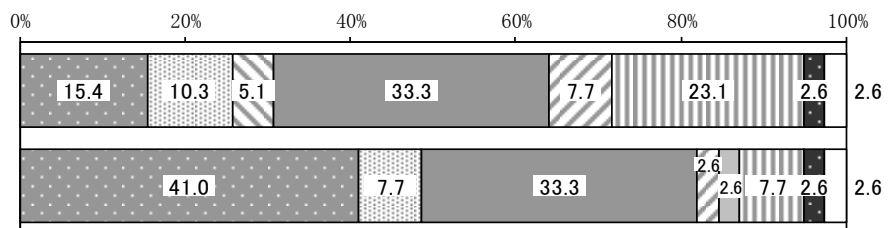
①希望



<男性 50歳代>

N = 39

①希望

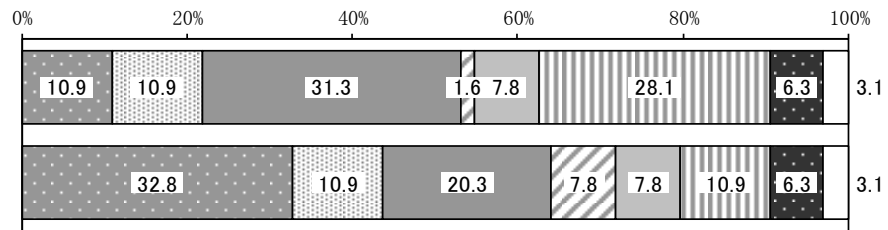


<男性 60 歳代>

- 「仕事」を優先
- 「家庭生活」を優先
- 「地域・個人の生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」も「家庭生活」も「地域・個人の生活」も全て優先
- わからない
- 無回答

N = 64

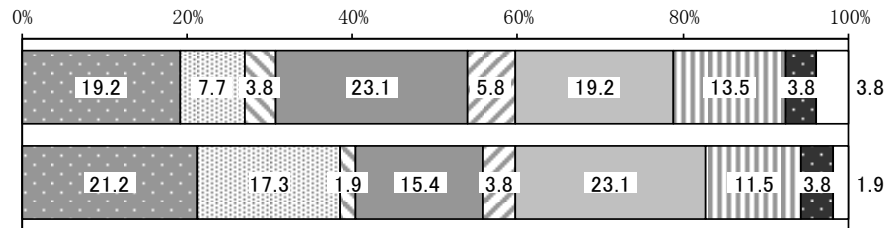
①希望



<男性 70 歳以上>

N = 52

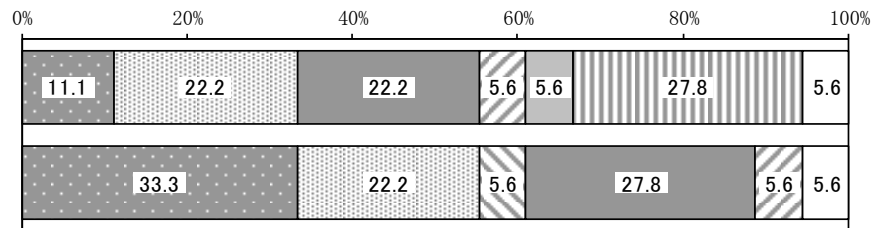
①希望



<女性 20 歳代>

N = 18

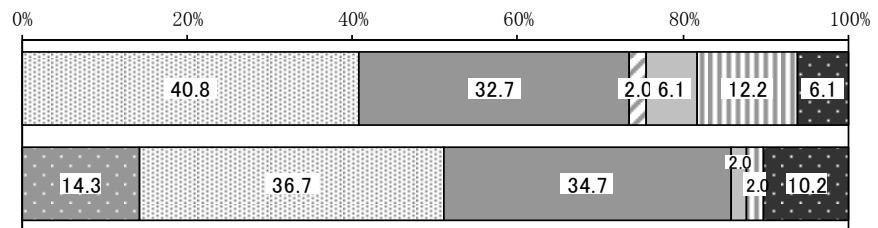
①希望



<女性 30 歳代>

N = 49

①希望



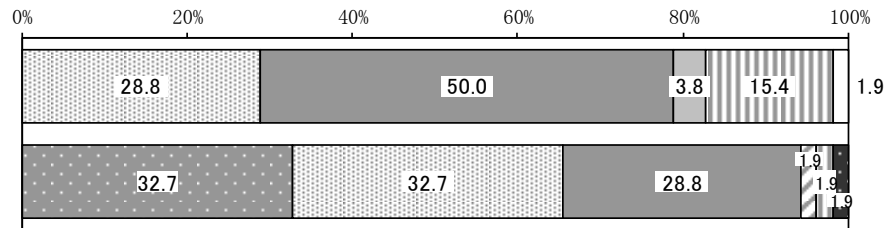
<女性 40 歳代>

- 「仕事」を優先
- 「家庭生活」を優先
- 「地域・個人の生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」も「家庭生活」も「地域・個人の生活」も全て優先
- わからない
- 無回答

N = 52

①希望

②現実

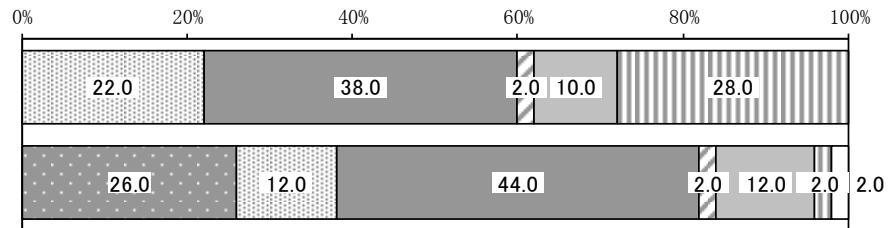


<女性 50 歳代>

N = 50

①希望

②現実

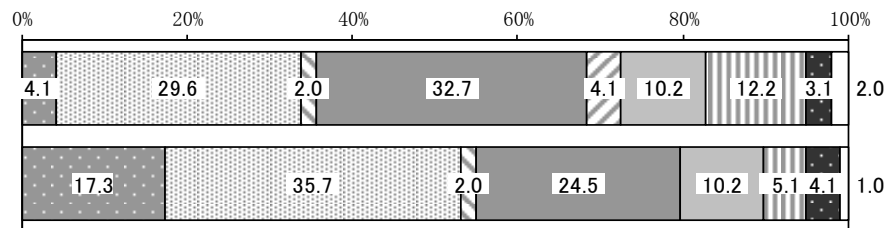


<女性 60 歳代>

N = 98

①希望

②現実

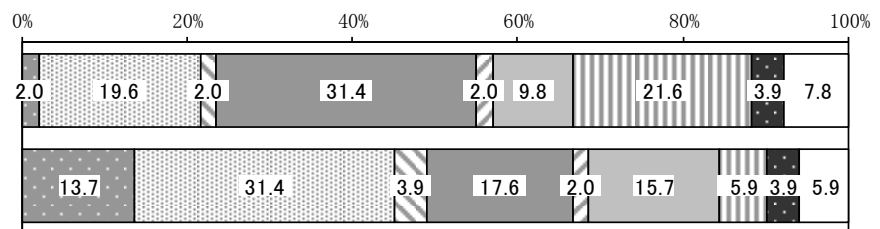


<女性 70 歳以上>

N = 51

①希望

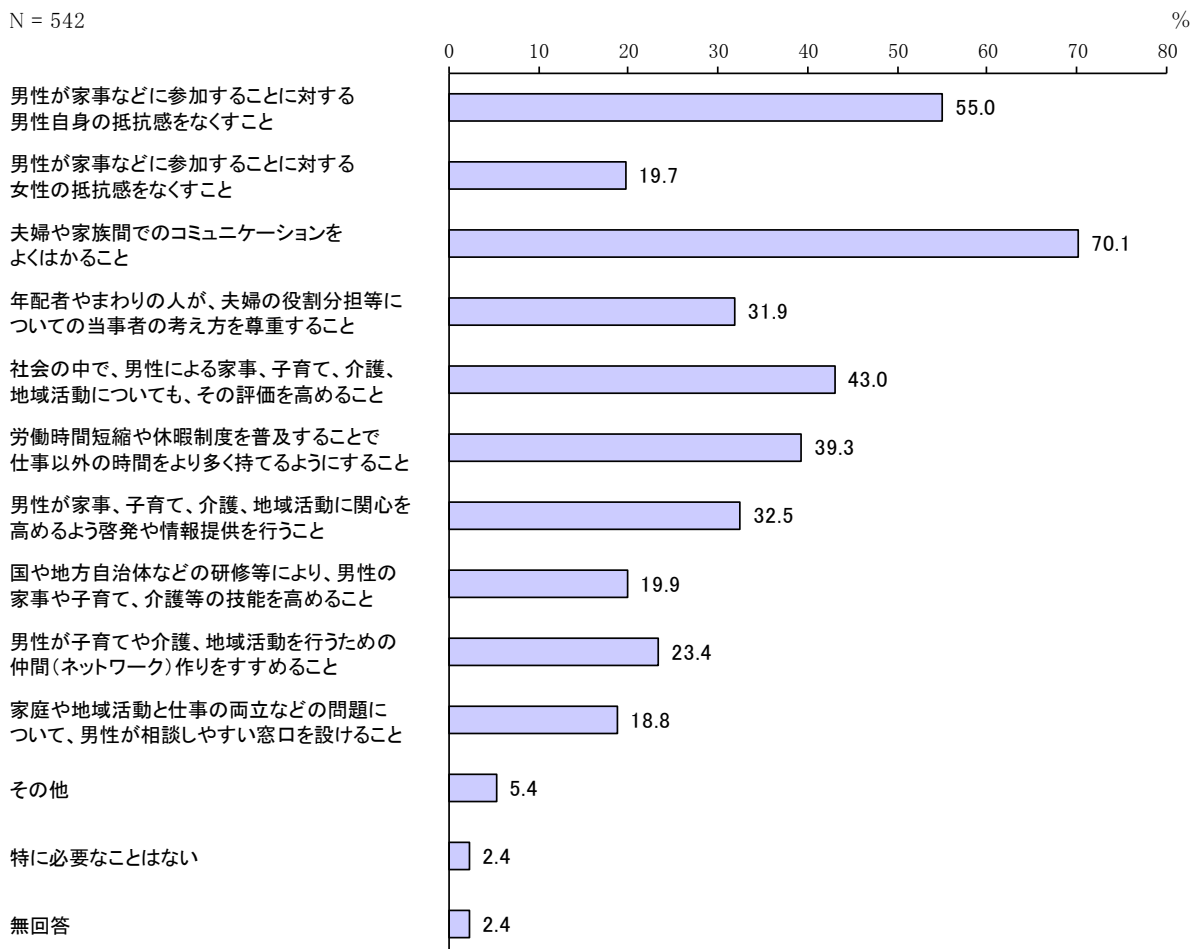
②現実



問11 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合が70.1%と最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が55.0%、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」の割合が43.0%となっています。

N = 542



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること」「その他」「特に必要なことはない」を除くすべての項目の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	男性が家事などに参加することに對する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参加することに對する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度を普及することで仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
男性	216	46.8	15.7	65.3	24.5	35.6	36.1
女性	321	61.1	22.4	73.2	37.1	48.0	41.1
区分	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること	男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）作りをすすめること	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	その他	特に必要なことはない	無回答
男性	29.6	17.1	17.6	15.3	3.7	4.6	2.8
女性	34.6	21.8	27.4	21.2	6.2	0.9	2.2

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の20歳代、女性の50歳代、60歳代で「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が高くなっています。また、女性の20歳代で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」「労働時間短縮や休暇制度を普及することで仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度を普及することで仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
男性 18、19 歳	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	—
20 歳代	11	81.8	27.3	63.6	27.3	54.5	45.5
30 歳代	19	42.1	15.8	57.9	10.5	36.8	42.1
40 歳代	28	39.3	14.3	57.1	25.0	35.7	50.0
50 歳代	39	33.3	12.8	56.4	28.2	35.9	33.3
60 歳代	64	53.1	12.5	65.6	21.9	34.4	35.9
70 歳以上	52	48.1	19.2	76.9	28.8	32.7	26.9
女性 18、19 歳	3	66.7	—	33.3	66.7	100.0	33.3
20 歳代	18	38.9	16.7	88.9	27.8	38.9	66.7
30 歳代	49	55.1	20.4	75.5	36.7	46.9	57.1
40 歳代	52	55.8	17.3	65.4	30.8	40.4	34.6
50 歳代	50	70.0	24.0	74.0	44.0	54.0	56.0
60 歳代	98	69.4	28.6	78.6	41.8	51.0	33.7
70 歳以上	51	54.9	19.6	64.7	29.4	45.1	23.5

【性・年齢別（つづき）】

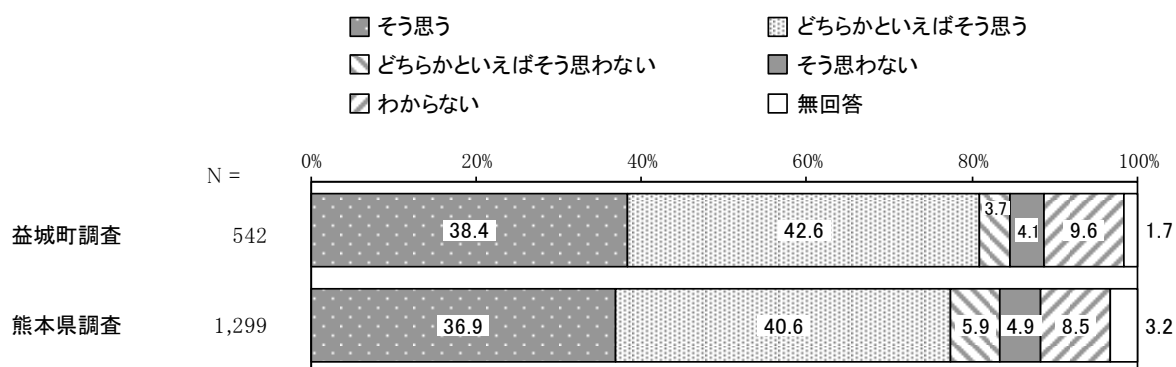
単位：％

区分	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること	男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）作りをすすめること	男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）作りをすすめること	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	その他	特に必要なことはない	無回答
男性 18、19 歳	—	—	—	—	100.0	—	—	—
20 歳代	36.4	27.3	18.2	36.4	—	—	9.1	
30 歳代	5.3	5.3	10.5	21.1	5.3	5.3	—	
40 歳代	21.4	17.9	21.4	17.9	10.7	3.6	—	
50 歳代	25.6	12.8	17.9	7.7	—	7.7	5.1	
60 歳代	40.6	18.8	18.8	14.1	3.1	3.1	3.1	
70 歳以上	32.7	21.2	17.3	15.4	1.9	5.8	1.9	
女性 18、19 歳	66.7	33.3	66.7	66.7	—	—	—	
20 歳代	33.3	33.3	22.2	33.3	5.6	—	5.6	
30 歳代	30.6	16.3	26.5	16.3	6.1	2.0	—	
40 歳代	21.2	13.5	17.3	7.7	17.3	1.9	—	
50 歳代	44.0	22.0	42.0	24.0	2.0	—	2.0	
60 歳代	40.8	25.5	23.5	22.4	5.1	—	1.0	
70 歳以上	29.4	23.5	31.4	27.5	2.0	2.0	7.8	

6 女性の社会参画について

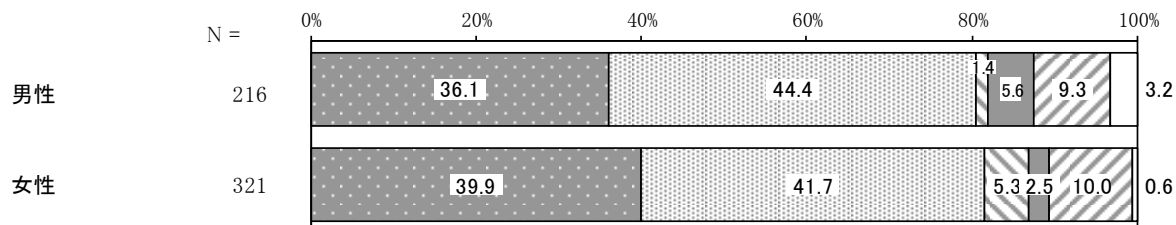
問12 あなたは、女性の意見がもっと反映されるように、自治体の首長（知事や市町村長）や議会議員、企業の管理職や各種団体等の役員など、政策の企画立案や方針決定の場に女性がもっと増える方がよいと思いますか。（○は1つ）

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が81.0%、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が7.8%となっています。



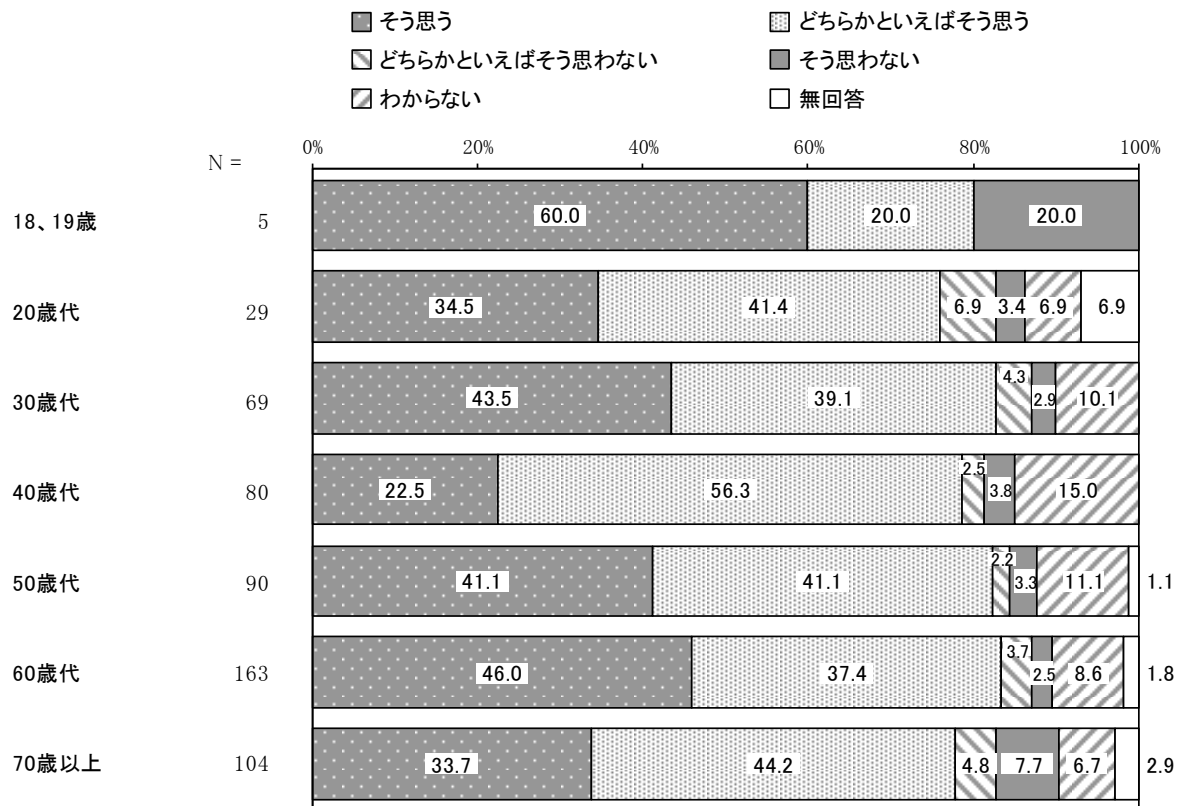
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



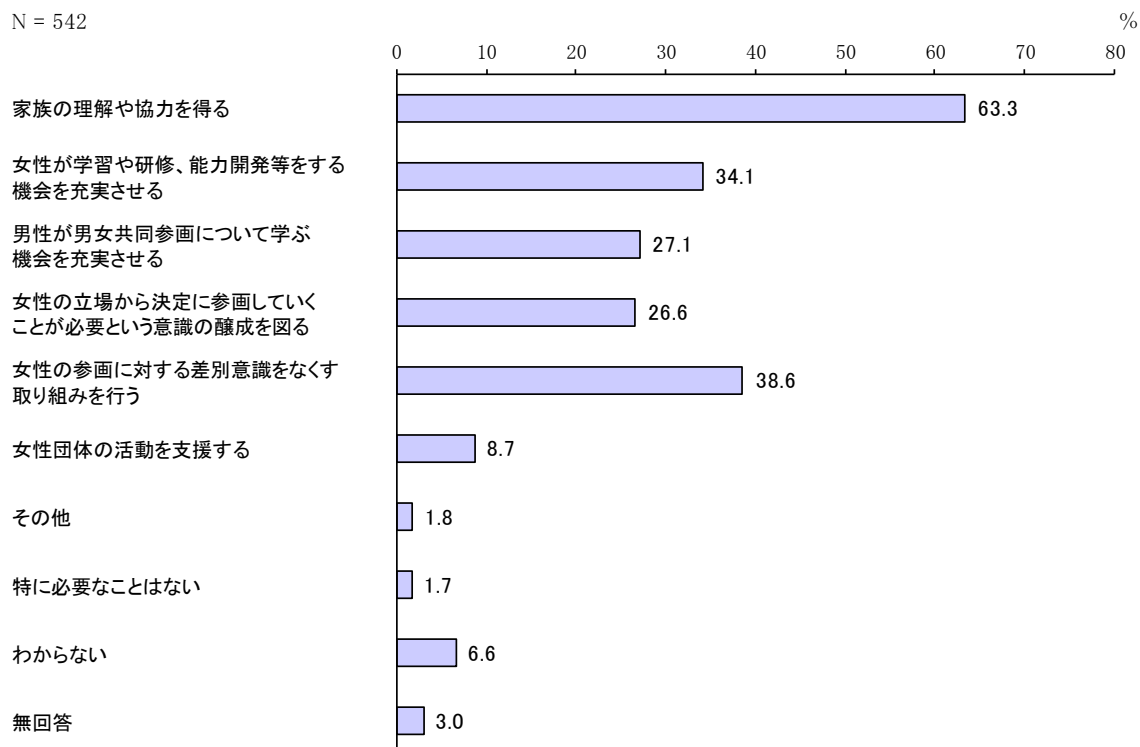
【年齢別】

年齢別でみると、他の年齢に比べ、30歳代、60歳代で「そう思う」の割合が高く、4割を超えています。



問 13 女性が社会に進出し、男性とともに政策や方針の決定に参画していくためには、
どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

「家族の理解や協力を得る」の割合が 63.3%と最も高く、次いで「女性の参画に対する差別意識をなくす取り組みを行う」の割合が 38.6%、「女性が学習や研修、能力開発等をする機会を充実させる」の割合が 34.1%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「家族の理解や協力を得る」「女性が学習や研修、能力開発等をする機会を充実させる」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	家族の理解や協力を得る	女性が学習や研修、能力開発等をする機会を充実させる	男性が男女共同参画について学ぶ機会を充実させる	女性の立場から決定に参画していくことが必要という意識の醸成を図る	女性の参画に対する差別意識をなくす取り組みを行う	女性団体の活動を支援する	その他	特に必要なことはない	わからない	無回答
男性	216	58.8	31.0	25.0	27.8	39.4	7.4	2.8	2.3	8.3	3.7
女性	321	67.0	36.8	28.7	25.5	38.3	9.7	1.2	0.6	5.6	2.5

【年齢別】

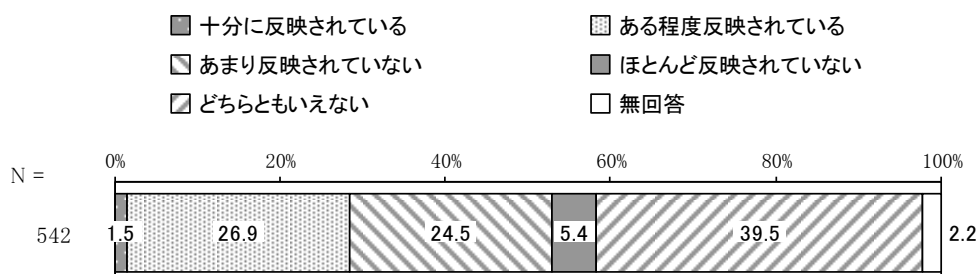
年齢別でみると、年齢が高くなるにつれ「女性が学習や研修、能力開発等をする機会を充実させる」の割合が高くなる傾向がみられ、60歳以上で約4割となっています。また、他の年齢に比べ、60歳代で「家族の理解や協力を得る」の割合が高く、約7割となっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	家族の理解や協力を得る	女性が学習や研修、能力開発等をする機会を充実させる	男性が男女共同参画について学ぶ機会を充実させる	女性の立場から決定に参画していくことが必要という意識の醸成を図る	女性の参画に対する差別意識をなくす取り組みを行う	女性団体の活動を支援する	その他	特に必要なことはない	わからない	無回答
18、19歳	5	20.0	20.0	20.0	—	80.0	40.0	20.0	20.0	—	—
20歳代	29	58.6	24.1	34.5	31.0	31.0	6.9	3.4	—	3.4	6.9
30歳代	69	63.8	27.5	18.8	24.6	44.9	10.1	—	2.9	5.8	1.4
40歳代	80	58.8	36.3	20.0	26.3	32.5	—	2.5	1.3	12.5	3.8
50歳代	90	64.4	30.0	28.9	23.3	38.9	10.0	3.3	—	10.0	2.2
60歳代	163	69.3	37.4	28.2	26.4	38.7	11.0	1.8	0.6	4.3	3.1
70歳以上	104	59.6	39.4	33.7	30.8	38.5	8.7	—	3.8	4.8	2.9

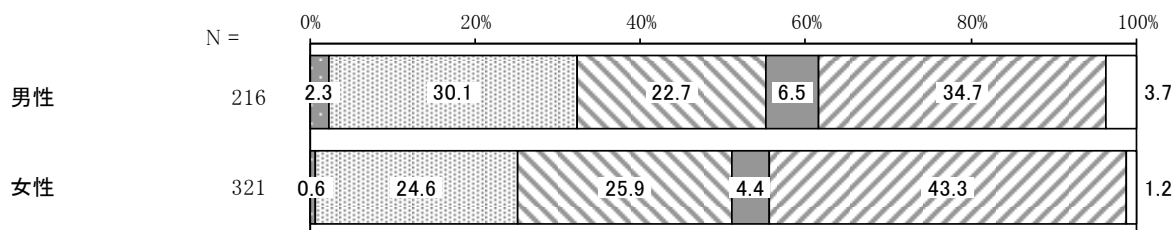
問 14 あなたは町政運営において、女性の意見や考え方が反映されていると思いますか。(〇は1つ)

「十分に反映されている」と「ある程度反映されている」をあわせた“反映されている”の割合が 28.4%、「あまり反映されていない」と「ほとんど反映されていない」をあわせた“反映されていない”の割合が 29.9%となっています。



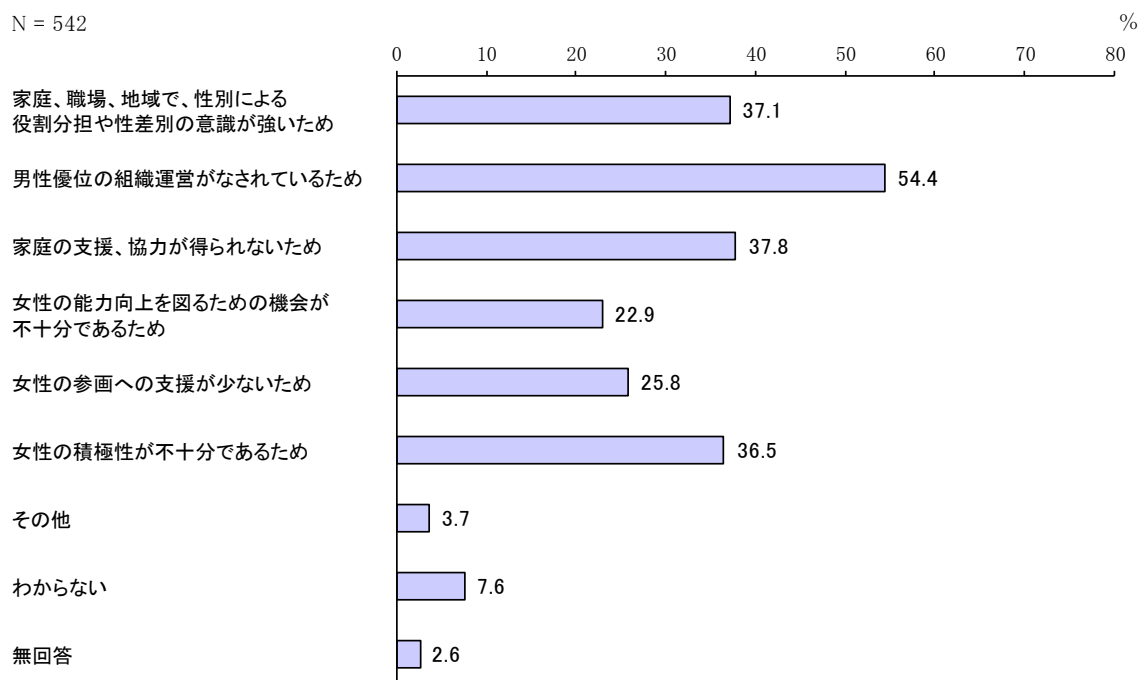
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で“反映されている”の割合が高く、約3割となっています。



問 15 女性の社会進出は進みつつありますが、町内会長や自治会長、審議会の委員や議員等には、まだ、女性が就くことが少ないのが現状です。このように、企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。(〇はいくつでも)

「男性優位の組織運営がなされているため」の割合が 54.4%と最も高く、次いで「家庭の支援、協力が得られないため」の割合が 37.8%、「家庭、職場、地域で、性別による役割分担や性差別の意識が強いため」の割合が 37.1%となっています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「女性の参画への支援が少ないため」の割合が高く、約3割となっています。また、男性に比べ、女性で「家庭、職場、地域で、性別による役割分担や性差別の意識が強いため」「女性の能力向上を図るための機会が不十分であるため」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	家庭、職場、地域で、性別による役割分担や性差別の意識が強いため	男性優位の組織運営がなされているため	家庭の支援、協力が得られないため	女性の能力向上を図るための機会が不十分であるため	女性の参画への支援が少ないため	女性の積極性が不十分であるため	その他	わからない	無回答
男性	216	33.8	51.9	36.1	19.9	29.2	36.1	3.2	6.9	3.2
女性	321	39.3	56.7	39.3	25.2	23.7	36.8	3.7	7.8	2.2

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の50歳代、女性の50歳代で「男性優位の組織運営がなされているため」の割合が高く、7割を超えています。また、男性の20歳代で「女性の参画への支援が少ないため」の割合が高く、約6割となっています。

単位：%

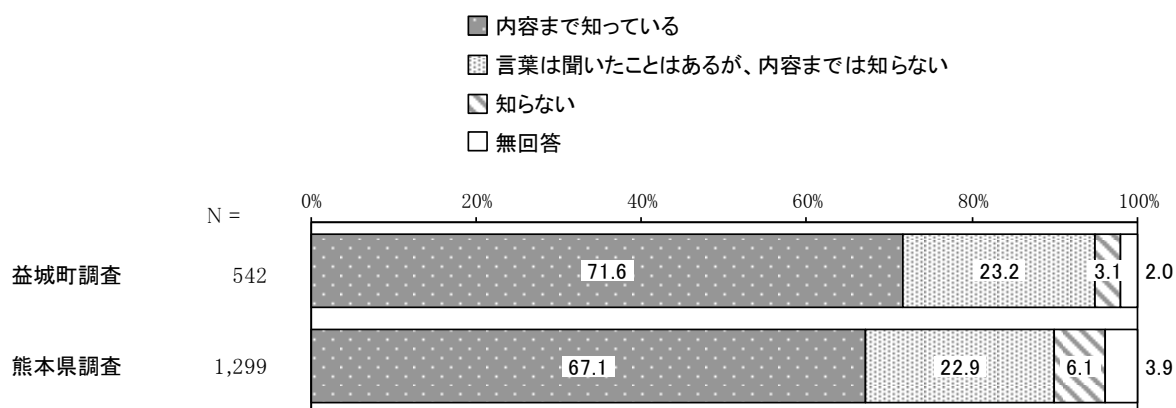
区分	有効回答数(件)	家庭、職場、地域で、性別による役割分担や性差別の意識が強い	男性優位の組織運営がなされている	家庭の支援、協力が得られない	女性の能力向上を図るための機会が不十分である	女性の参画への支援が少ない	女性の積極性が不十分である	その他	わからない	無回答
男性 18、19 歳	1	100.0	—	—	—	100.0	100.0	—	—	—
20 歳代	11	45.5	36.4	27.3	18.2	63.6	27.3	9.1	18.2	—
30 歳代	19	36.8	36.8	26.3	10.5	42.1	26.3	5.3	5.3	—
40 歳代	28	35.7	53.6	39.3	14.3	28.6	25.0	7.1	10.7	7.1
50 歳代	39	20.5	71.8	35.9	7.7	15.4	33.3	—	10.3	2.6
60 歳代	64	34.4	48.4	37.5	25.0	28.1	37.5	4.7	7.8	3.1
70 歳以上	52	36.5	51.9	40.4	28.8	25.0	46.2	—	—	3.8
女性 18、19 歳	3	33.3	—	33.3	33.3	33.3	33.3	—	33.3	—
20 歳代	18	38.9	44.4	33.3	22.2	22.2	27.8	5.6	5.6	5.6
30 歳代	49	44.9	55.1	46.9	12.2	24.5	28.6	2.0	10.2	—
40 歳代	52	42.3	51.9	40.4	19.2	17.3	25.0	11.5	5.8	1.9
50 歳代	50	40.0	74.0	48.0	28.0	26.0	46.0	4.0	2.0	2.0
60 歳代	98	40.8	58.2	37.8	25.5	26.5	42.9	2.0	9.2	1.0
70 歳以上	51	27.5	51.0	27.5	41.2	21.6	39.2	—	9.8	5.9

7 配偶者等からの暴力について

問 16 ドメスティック・バイオレンス（DV）について、あなたはどの程度ご存知ですか。（○は1つ）

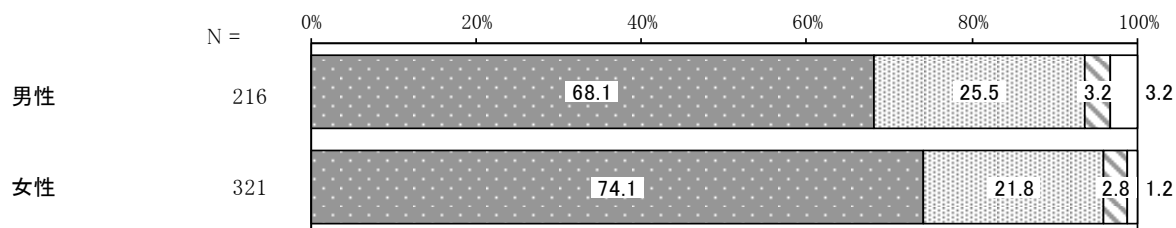
「内容まで知っている」の割合が71.6%と最も高く、次いで「言葉は聞いたことはあるが、内容までは知らない」の割合が23.2%となっています。

熊本県調査と比較すると、大きな差異はみられません。



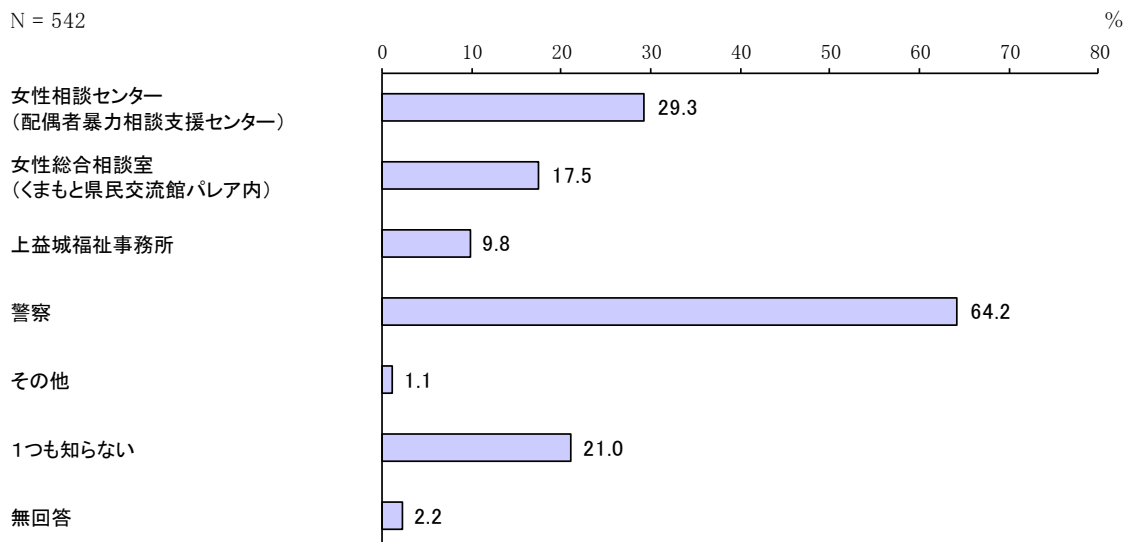
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「内容まで知っている」の割合が高く、7割台半ばとなっています。



問 17 ドメスティック・バイオレンス（DV）に関する問題を相談できる機関が県・町内にありますが、ご存知の相談機関を教えてください。（〇はいくつでも）

「警察」の割合が 64.2%と最も高く、次いで「女性相談センター（配偶者暴力相談支援センター）」の割合が 29.3%、「1つも知らない」の割合が 21.0%となっています。



【性別】

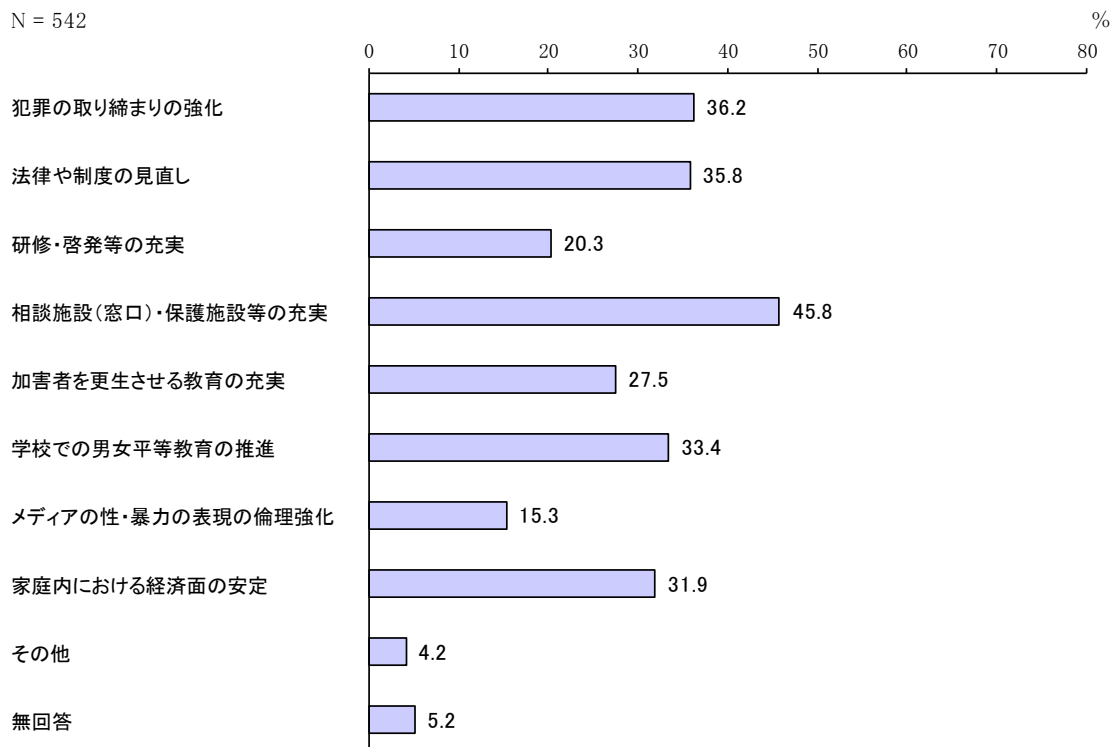
性別でみると、男性に比べ、女性で「女性相談センター（配偶者暴力相談支援センター）」の割合が高く、3割台半ばとなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	女性相談センター (配偶者暴力相談支援センター)	女性総合相談室 (くまもと県民交流館パレア内)	上益城福祉事務所	警察	その他	1つも知らない	無回答
男性	216	21.8	16.7	9.3	63.9	0.9	22.2	2.8
女性	321	34.6	18.4	10.0	64.5	1.2	20.2	1.9

問 18 ドメスティック・バイオレンス（DV）をなくすために必要なことは何だと思われますか。（〇はいくつでも）

「相談施設（窓口）・保護施設等の充実」の割合が 45.8%と最も高く、次いで「犯罪の取り締まりの強化」の割合が 36.2%、「法律や制度の見直し」の割合が 35.8%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「相談施設（窓口）・保護施設等の充実」「加害者を更生させる教育の充実」「家庭内における経済面の安定」の割合が高くなっています。

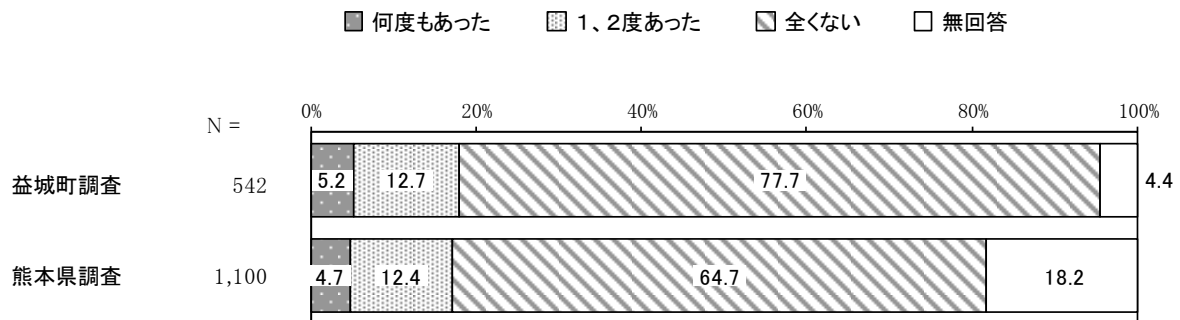
単位：%

区分	有効回答数（件）	犯罪の取り締まりの強化	法律や制度の見直し	研修・啓発等の充実	相談施設（窓口）・保護施設等の充実	加害者を更生させる教育の充実	学校での男女平等教育の推進	メディアの性・暴力の表現の倫理強化	家庭内における経済面の安定	その他	無回答
男性	216	38.4	36.6	20.8	39.8	20.4	36.1	13.4	27.8	4.6	5.6
女性	321	34.6	35.5	20.2	49.8	32.7	31.5	16.5	34.9	4.0	4.7

問 19 あなたは、配偶者やパートナーから身体的暴行や心理的攻撃や性的強要を受けたことがありますか。(〇は1つだけ)

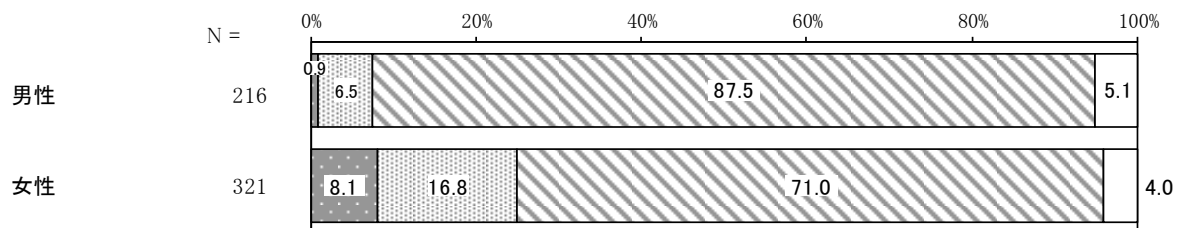
「全くない」の割合が77.7%と最も高く、次いで「1、2度あった」の割合が12.7%となっています。

「何度もあった」と「1、2度あった」をあわせた“暴力を受けたことがある”の割合は17.9%となっています。



【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「全くない」の割合が高く、約9割となっています。また、男性に比べ、女性で「何どもあった」「1、2度あった」の割合が高くなっています。

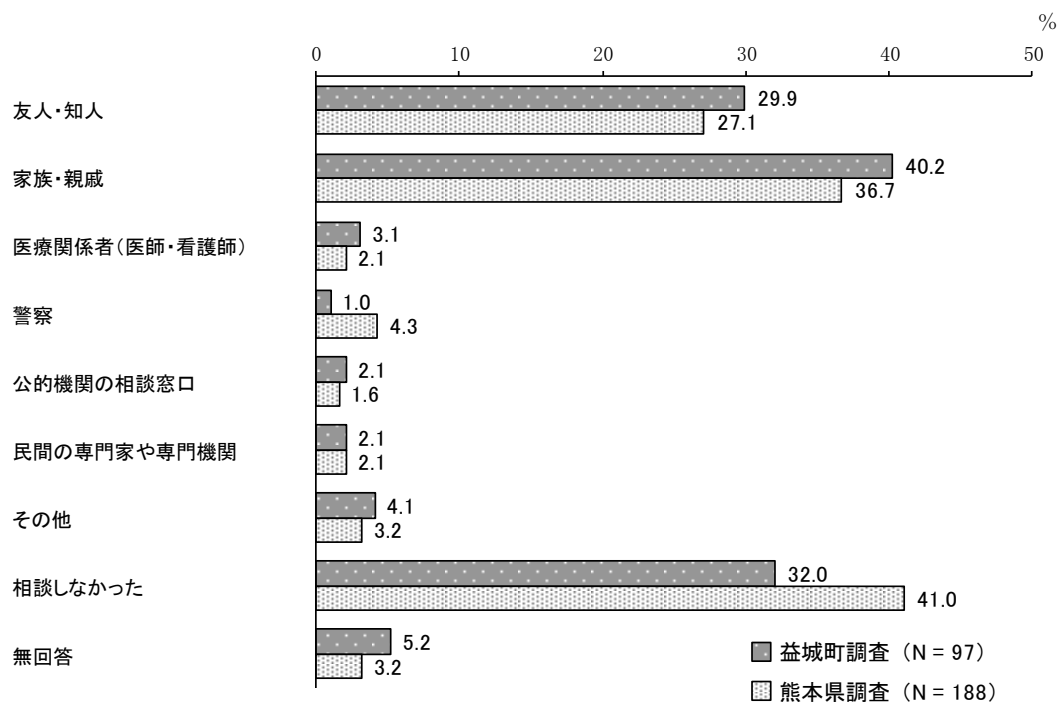


問 19 で「1. 何度もあった」または「2. 1、2度あった」と答えた方におたずねします。

問 19-1 そのことについて、誰かに相談しましたか。(〇はいくつでも)

「家族・親戚」の割合が 40.2%と最も高く、次いで「相談しなかった」の割合が 32.0%、「友人・知人」の割合が 29.9%となっています。

熊本県調査と比較すると、熊本県に比べ「相談しなかった」の割合が低く、約 3 割となっています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「相談しなかった」の割合が高く、約 4 割となっています。また、男性に比べ、女性で「友人・知人」「家族・親戚」の割合が高くなっています。

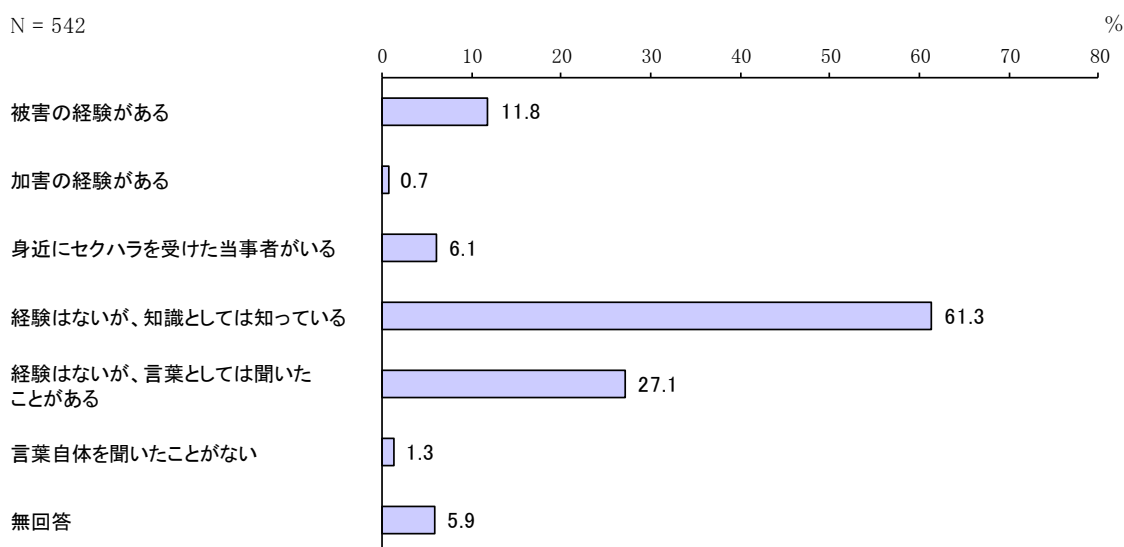
単位：%

区分	有効回答数(件)	友人・知人	家族・親戚	医療関係者(医師・看護師)	警察	公的機関の相談窓口	民間の専門家や専門機関	その他	相談しなかった	無回答
男性	16	25.0	25.0	6.3	—	—	—	6.3	37.5	12.5
女性	80	31.3	43.8	2.5	1.3	2.5	2.5	2.5	31.3	3.8

8 セクハラについて

問 20 セクハラに関して、あなたが経験したり、見聞きしたことがあるものはどれですか。(〇はいくつでも)

「経験はないが、知識としては知っている」の割合が 61.3%と最も高く、次いで「経験はないが、言葉としては聞いたことがある」の割合が 27.1%、「被害の経験がある」の割合が 11.8%となっています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「経験はないが、知識としては知っている」の割合が高く、約 7割となっています。また、男性に比べ、女性で「被害の経験がある」の割合が高く、約 2割となっています。

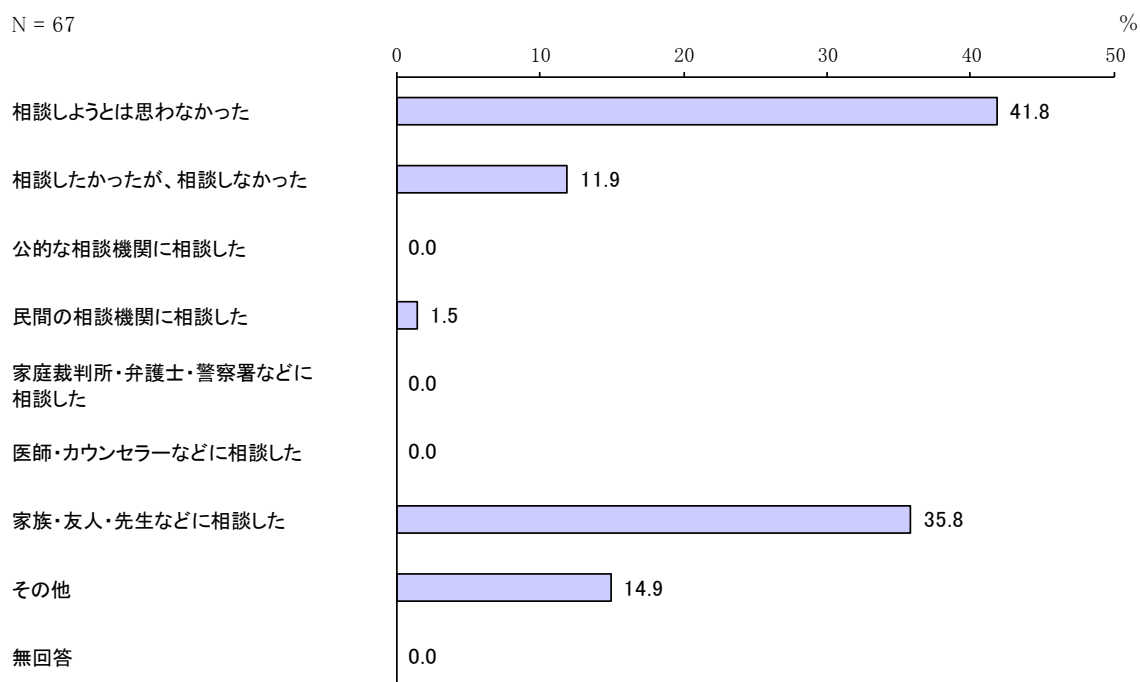
単位：%

区分	有効回答数 (件)	被害の経験がある	加害の経験がある	身近にセクハラを受けた当事者がいる	経験はないが、知識としては知っている	経験はないが、言葉としては聞いたことがある	言葉自体を聞いたことがない	無回答
男性	216	3.2	1.9	6.5	67.1	26.4	2.3	6.9
女性	321	17.8	—	5.9	57.0	27.4	0.6	5.3

問 20 で「1. 被害の経験がある」「2. 加害の経験がある」と答えた方におたずねします。

問 20-1 あなたは誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。(〇はいくつでも)

「相談しようとは思わなかった」の割合が 41.8%と最も高く、次いで「家族・友人・先生などに相談した」の割合が 35.8%、「相談したかったが、相談しなかった」の割合が 11.9%となっています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「相談しようとは思わなかった」の割合が高く、6割となっています。また、男性に比べ、女性で「家族・友人・先生などに相談した」の割合が高く、約4割となっています。

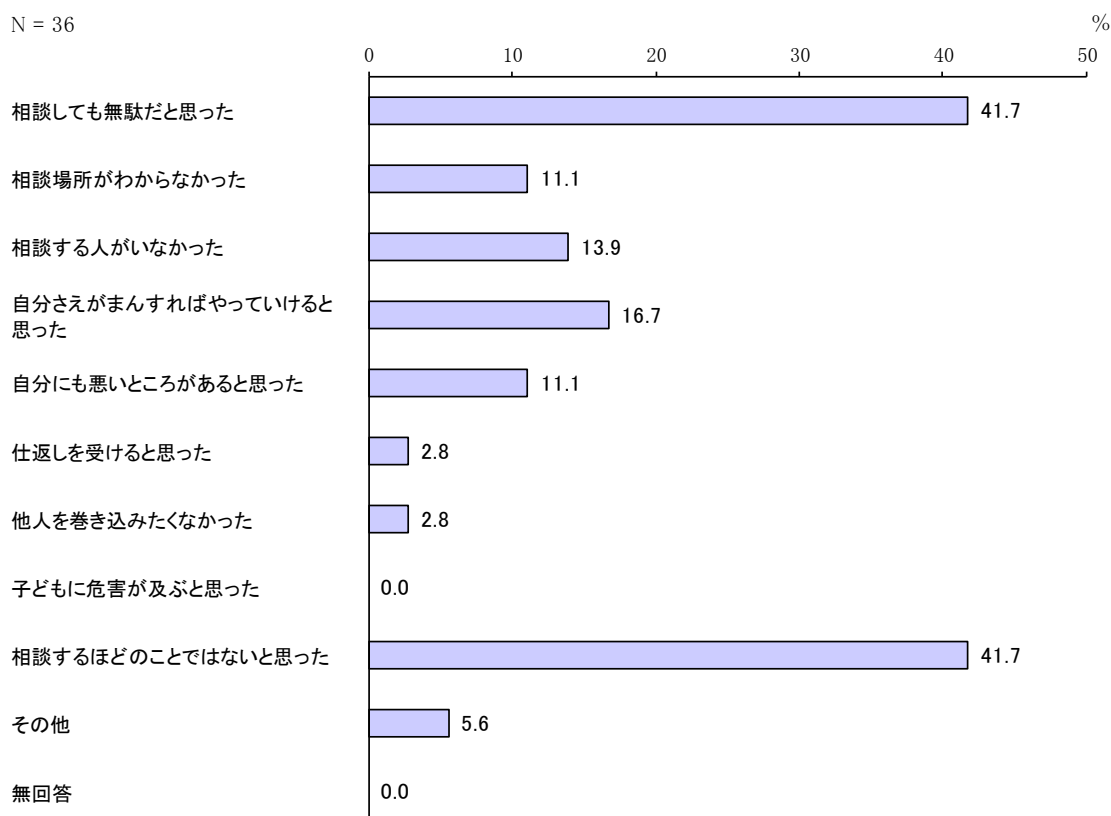
単位：%

区分	有効回答数(件)	相談しようとは思わなかった	相談したかったが、相談しなかった	公的な相談機関に相談した	民間の相談機関に相談した	家庭裁判所・弁護士・警察署などに相談した	医師・カウンセラーなどに相談した	家族・友人・先生などに相談した	その他	無回答
男性	10	60.0	10.0	—	—	—	—	20.0	10.0	—
女性	57	38.6	12.3	—	1.8	—	—	38.6	15.8	—

問 20-1 で「1. 相談しようとは思わなかった」「2. 相談したかったが、相談しなかった」と答えた方におたずねします。

問 20-2 あなたが、誰（どこ）にも相談しなかったのは、なぜですか。
（〇はいくつでも）

「相談しても無駄だと思った」の割合が 41.7%、「相談するほどのことではないと思った」の割合が 41.7%と最も高く、次いで「自分さえがまんすればやっていけると思った」の割合が 16.7%となっています。



【性別】

性別では、男性の有効回答数が少ないため参考とします。

単位：%

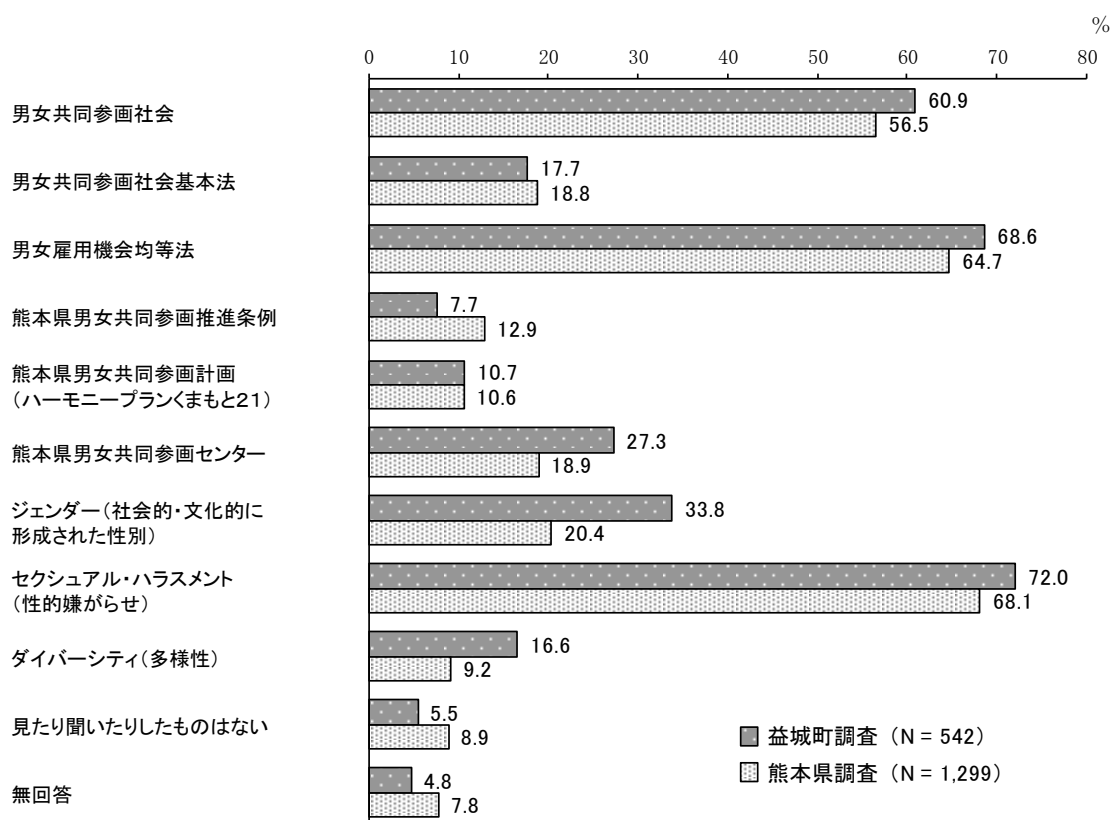
区分	有効回答数 (件)	相談しても無駄だと思った	相談場所がわからなかった	相談する人がいなかった	自分さえがまんすればやっていけると思った	自分にも悪いところがあった	仕返しを受けると思った	他人を巻き込みたくなかった	子どもに危害が及ぶと思った	相談するほどのことではないと思った	その他	無回答
男性	7	14.3	—	—	28.6	28.6	—	14.3	—	42.9	—	—
女性	29	48.3	13.8	17.2	13.8	6.9	3.4	—	—	41.4	6.9	—

9 男女共同参画の推進について

問 21 次の言葉のうち、あなたが見たり、聞いたりしたことがあるものはどれですか。
(○はいくつでも)

「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」の割合が72.0%と最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」の割合が68.6%、「男女共同参画社会」の割合が60.9%となっています。

熊本県調査と比較すると、熊本県に比べ「熊本県男女共同参画センター」「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」「ダイバーシティ（多様性）」の割合が高く、「熊本県男女共同参画推進条例」の割合が低くなっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」の割合が高く、約4割となっています。

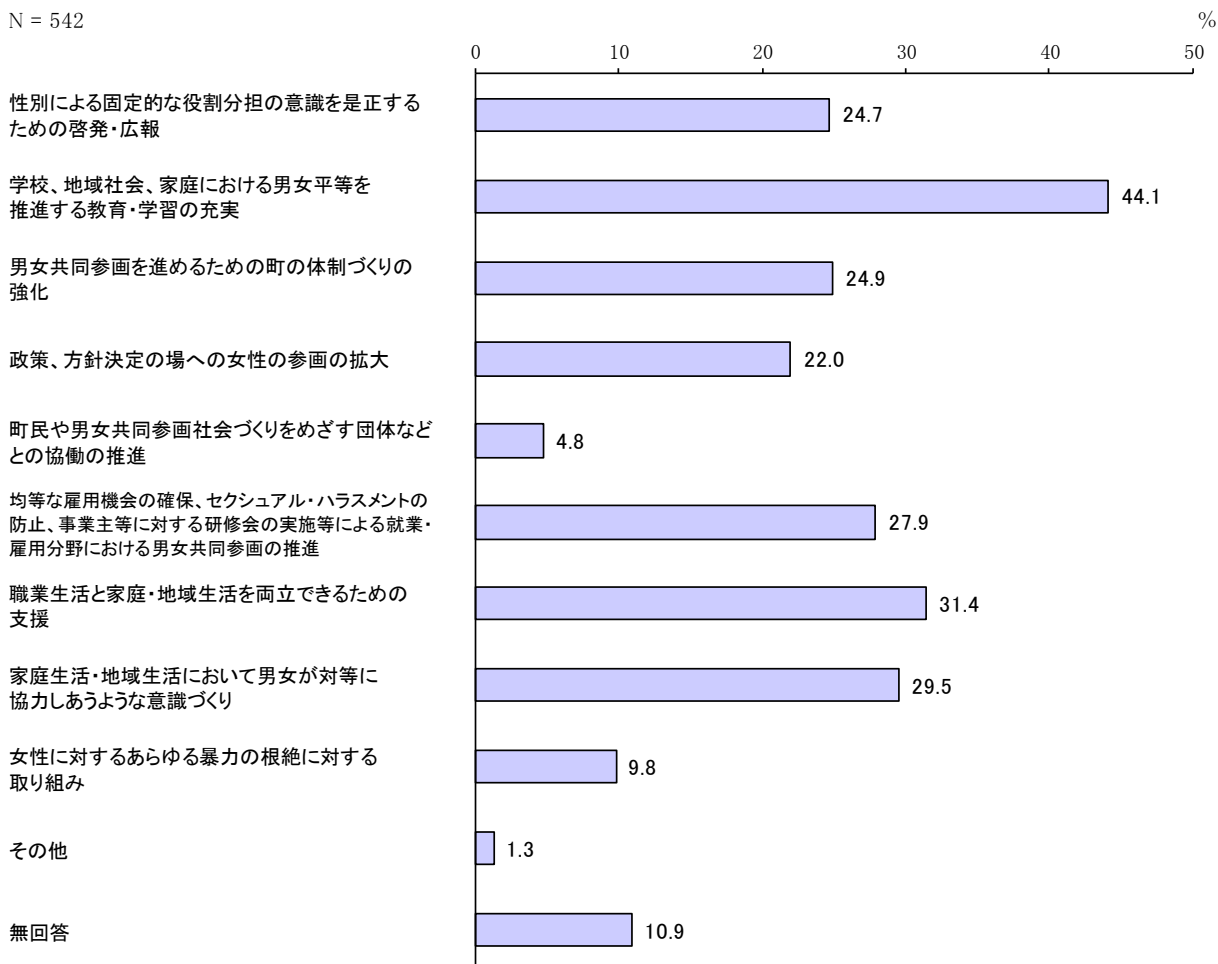
単位：%

区分	有効回答数(件)	男女共同参画社会	男女共同参画社会基本法	男女雇用機会均等法	熊本県男女共同参画推進条例	熊本県男女共同参画計画 (ハーモニープランくまもと21)	熊本県男女共同参画センター	ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)	セクシュアル・ハラスメント (性的嫌がらせ)	ダイバーシティ(多様性)	見たり聞いたりしたものはない	無回答
男性	216	59.7	19.0	69.9	6.0	11.1	25.9	27.8	70.4	14.4	6.5	3.7
女性	321	61.4	16.5	68.2	9.0	10.6	28.0	37.7	73.5	18.4	4.7	5.6

問 22 行政が、男女共同参画社会を形成するために力を入れるべき施策は何だと思いませんか。(〇は3つまで)

「学校、地域社会、家庭における男女平等を推進する教育・学習の充実」の割合が44.1%と最も高く、次いで「職業生活と家庭・地域生活を両立できるための支援」の割合が31.4%、「家庭生活・地域生活において男女が対等に協力しあうような意識づくり」の割合が29.5%となっています。

N = 542



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「性別による固定的な役割分担の意識を是正するための啓発・広報」「政策、方針決定の場への女性の参画の拡大」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「職業生活と家庭・地域生活を両立できるための支援」「家庭生活・地域生活において男女が対等に協力しあうような意識づくり」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	性別による固定的な役割分担の意識を是正するための啓発・広報	学校、地域社会、家庭における男女平等を推進する教育・学習の充実	男女共同参画を進めるための町の体制づくりの強化	政策、方針決定の場への女性の参画の拡大	町民や男女共同参画社会づくりをめざす団体などとの協働の推進
男性	216	28.2	42.6	27.8	29.6	4.2
女性	321	22.1	45.2	23.4	17.1	5.3
区分	均等な雇用機会の確保、セクシュアル・ハラスメントの防止、事業主等に対する研修会の実施等による就業・雇用分野における男女共同参画の推進	職業生活と家庭・地域生活を両立できるための支援	家庭生活・地域生活において男女が対等に協力しあうような意識づくり	女性に対するあらゆる暴力の根絶に対する取り組み	その他	無回答
男性	27.3	26.4	20.8	10.2	2.3	9.3
女性	27.7	34.9	35.8	9.7	0.6	11.8

【年齢別】

年齢別でみると、年齢が低くなるにつれ「職業生活と家庭・地域生活を両立できるための支援」の割合が高くなる傾向がみられ、20歳代で6割台半ばとなっています。また、他に比べ、50歳代、60歳代で「学校、地域社会、家庭における男女平等を推進する教育・学習の充実」の割合が高く、約5割となっています。

単位：%

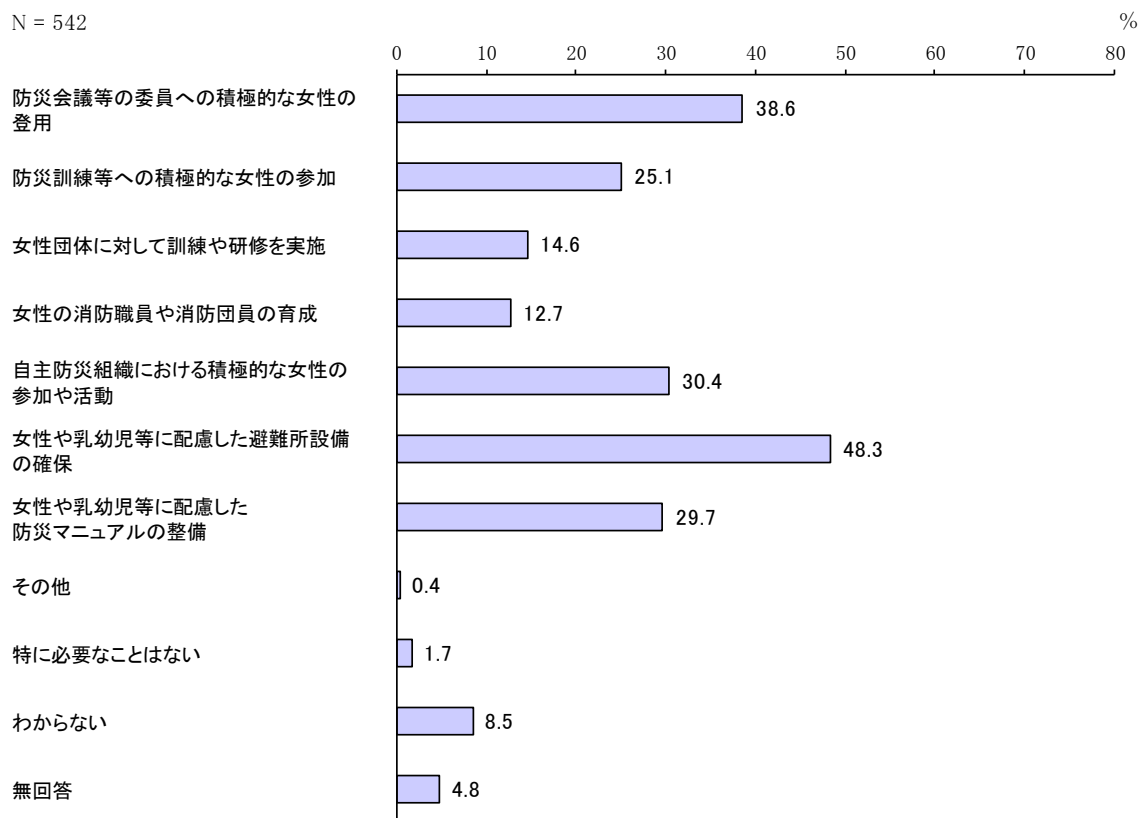
区分	有効回答数(件)	性別による固定的な役割分担の意識を是正するための啓発・広報	学校、地域社会、家庭における男女平等を推進する教育・学習の充実	男女共同参画を進めるための町の体制づくりの強化	政策、方針決定の場への女性の参画の拡大	町民や男女共同参画社会づくりをめざす団体などとの協働の推進
18、19歳	5	20.0	20.0	40.0	—	—
20歳代	29	20.7	31.0	17.2	17.2	6.9
30歳代	69	18.8	40.6	18.8	14.5	4.3
40歳代	80	27.5	40.0	21.3	17.5	2.5
50歳代	90	26.7	48.9	27.8	18.9	2.2
60歳代	163	25.2	47.2	26.4	25.8	7.4
70歳以上	104	26.0	46.2	28.8	29.8	4.8

区分	均等な雇用機会の確保、セクシユアル・ハラスメントの防止、事業主等に対する研修会の実施等による就業・雇用分野における男女共同参画の推進	職業生活と家庭・地域生活を両立できるための支援	家庭生活・地域生活において男女が対等に協力しあうような意識づくり	女性に対するあらゆる暴力の根絶に対する取り組み	その他	無回答
18、19歳	60.0	60.0	20.0	—	—	20.0
20歳代	24.1	65.5	44.8	10.3	3.4	3.4
30歳代	18.8	50.7	31.9	13.0	—	11.6
40歳代	27.5	42.5	40.0	6.3	—	6.3
50歳代	32.2	23.3	27.8	13.3	2.2	13.3
60歳代	30.1	27.0	24.5	8.0	2.5	9.8
70歳以上	26.9	12.5	26.0	10.6	—	14.4

10 防災・復興について

問 23 防災（復興を含む）活動に関して、男女共同参画の視点からどのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

「女性や乳幼児等に配慮した避難所設備の確保」の割合が48.3%と最も高く、次いで「防災会議等の委員への積極的な女性の登用」の割合が38.6%、「自主防災組織における積極的な女性の参加や活動」の割合が30.4%となっています。



【性別】

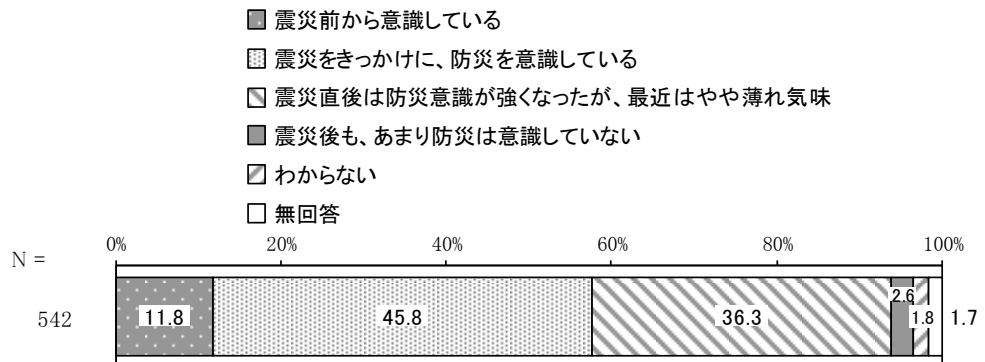
性別でみると、女性に比べ、男性で「防災会議等の委員への積極的な女性の登用」「自主防災組織における積極的な女性の参加や活動」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「女性や乳幼児等に配慮した避難所設備の確保」「女性や乳幼児等に配慮した防災マニュアルの整備」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	防災会議等の委員への積極的な女性の登用	防災訓練等への積極的な女性の参加	女性団体に対して訓練や研修を実施	女性の消防職員や消防団員の育成	自主防災組織における積極的な女性の参加や活動	避難所設備の確保 女性や乳幼児等に配慮した	女性や乳幼児等に配慮した 防災マニュアルの整備	その他	特に必要なことはない	わからない	無回答
男性	216	51.4	26.9	17.6	15.7	33.8	32.4	25.0	0.9	1.4	9.3	4.2
女性	321	30.2	24.0	12.8	10.9	28.0	59.8	33.0	—	1.6	7.5	5.3

問 24 熊本地震を経験して、防災意識に変化はありましたか。(○は1つ)

「震災をきっかけに、防災を意識している」の割合が45.8%と最も高く、次いで「震災直後は防災意識が強くなったが、最近はやや薄れ気味」の割合が36.3%、「震災前から意識している」の割合が11.8%となっています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「震災前から意識している」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「震災直後は防災意識が強くなったが、最近はやや薄れ気味」の割合が高く、約4割となっています。

